COOL CHOICE
推進活動事例集

地域地球温暖化防止活動推進センターの取組み

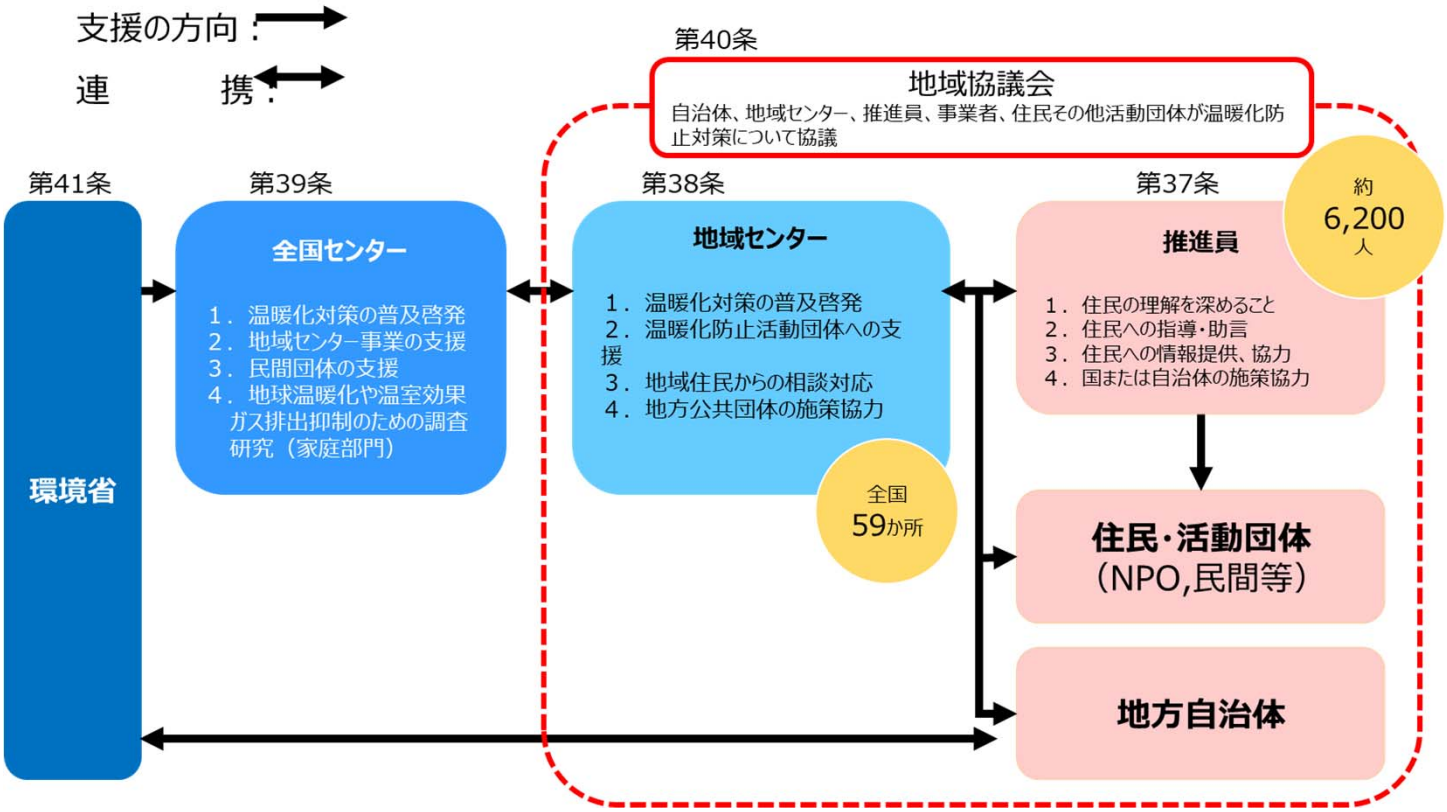
目次

- 地球温暖化防止活動推進センターとは・・・・・・・１ｐ
- 多くの地域主体と連携した活動事例・・・・・・・・２ｐ
- 行動科学の知見を活用した活動事例・・・・・・・１８ｐ
- 全国の活動事例・・・・・・・・・・・・・・・・３０ｐ
- 地球温暖化防止活動推進センター所在地一覧・・１１６ｐ

地球温暖化防止活動推進センターとは

地域地球温暖化防止活動推進センター（地域センター）は、地球温暖化対策推進法に基づき全国の都道府県、指定都市などの首長が指定して設置される、地域で地球温暖化防止活動に取り組む法的な根拠をもった唯一の拠点です。2020年3月現在、59の地域センターが指定されています。

地域センターは、全国地球温暖化防止活動推進センター（全国センター）や地球温暖化防止活動推進員（推進員）、地方自治体などと連携しながら、地球温暖化防止のためのさまざまな活動を行っています。



夏の節電！省エネサマーチャレンジ2018

岡山県地球温暖化防止活動推進センター
（公益財団法人岡山県環境保全事業団）

露無　真

JNCCA 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
Japan Network for Climate Change Actions

活動概要①

●活動の目的

県内で発生する温室効果ガスの排出削減を促進するため、県民にエネルギーの有効活用、エコ生活の取組みを働きかけ、民生部門の二酸化炭素の排出抑制を推進。

●実施の背景

当センターでは、地球温暖化防止活動の一環として、ご家庭の夏の節電に取組む「省エネサマーチャレンジ」を2005年から開催。

身近な節電、省エネ行動を家族で取組む機会を創出する為、省エネ行動の成果の見える化、インセンティブやコンテスト形式で参加意欲向上を図り、省エネ行動の定着を促す。

活動概要②

●実施概要

【チャレンジ期間】
平成30年7月20日～同年9月20日（※8月20日を含む前後1ヵ月）

【応募方法等】
①参加者は、下記チャレンジ期間、電気使用量を昨年の同じ月の使用量より減らすことを目標に家庭の節電に取組む。

↓

②チャレンジ後に8月20日を使用期間に含む、電力会社の「電気使用量のお知らせ（検針票）」を応募用紙に貼付、当センターあてに送付してもらう。

↓

③当センターは、参加者の取組をとりまとめ、各自の順位とコンテスト全体の成果をお知らせ。全体の成果は当センターのWEB上に公開。コンテストの成績上位者や多数参加していただいた企業や団体を表彰。
http://www.kankyo.or.jp/asueco/about_asueco/challenge

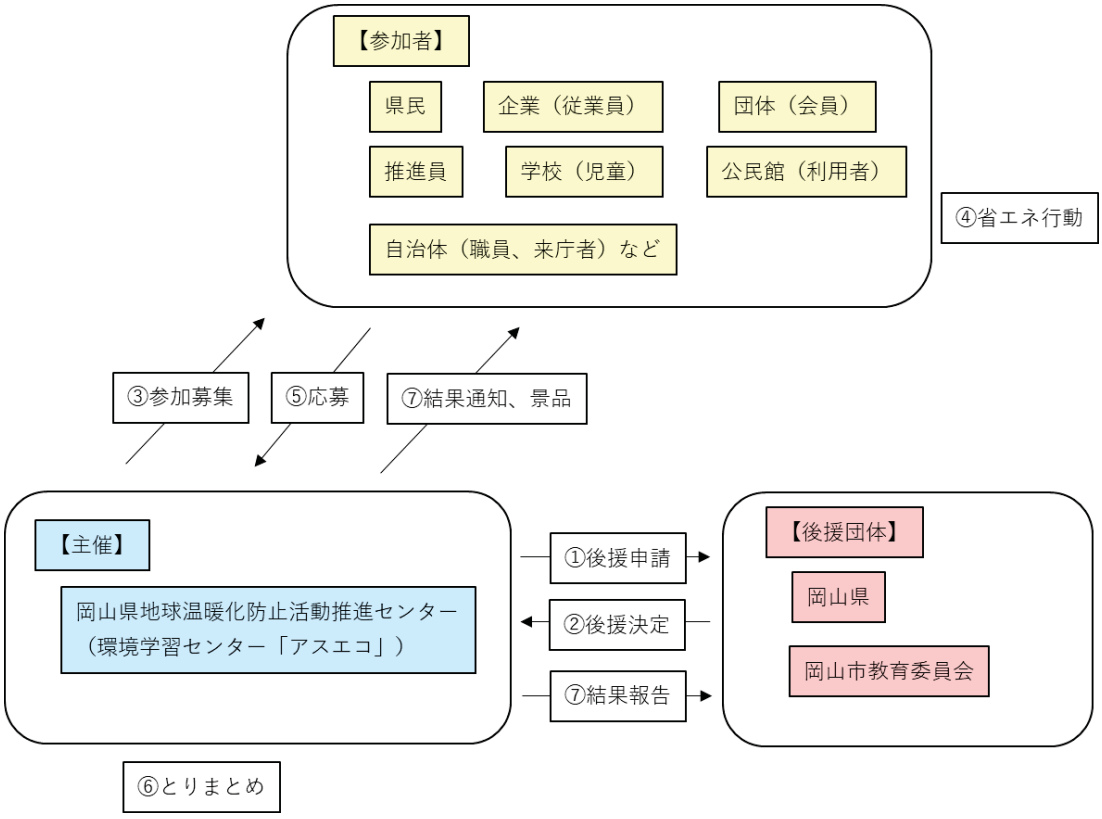
活動概要③

広報用チラシ（おもて面）

応募用紙（うら面）

活動概要④

●地域とのかかわり方・事業スキーム



主な取組み①

コンテスト全体の成果のお知らせ

感謝状の贈呈

成績上位者の表彰

主な取組み②

【提供】省エネサマーチャレンジに参加いただいた県内企業様のレポートから抜粋

6

活動のポイント・今後の課題

●この活動で得られた成果
・応募者数660名
・削減達成者数243名（応募者数に対する達成率=36.8%）
・削減できたCO_2削減量：10t-CO_2
【算出根拠】14,822kWh×0.000691t-CO_2/kWh（H28年度中国電力実排出係数）≒10.2t-CO_2
・削減できた電気使用量：14,822kWh

●効果的な実施のための工夫
・参加者全員に「参加賞（高梁紅茶1パック）」を用意
・民間企業などの地域の団体からの参加を促すため、企業のCSR活動に貢献できることをPR

●結果のフィードバック
・コンテストの結果から啓発チラシを作成し、結果のフィードバック
・希望された企業等に対しては、参加された従業員等の取組みを抽出して、取組データの提供を行った。

●今後の課題
・これまで参加したことのない方へどのような広報を行い、参加者数アップにつなげていくか。

●次年度(2019年度)への展望
・コンテスト参加者のターゲットを設定し、その人物にコンテスト情報を広報できるような方法を検討していきたい。

7

断熱ワークリーダー育成支援
（省エネリフォームの推進）

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター
（NPO法人　ECOフューチャーとっとり）

山本　ルリコ

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
Japan Network for Climate Change Actions

活動概要①

●活動の目的

温暖化対策を「ガマン」から家庭の「快適性」という生活の質の向上や地域の経済循環を促す「豊かさ」へ、持続可能な社会を構築できることが実感できる「小さな経済循環」の実証に一人でも多く巻き込める普及啓発の開発と実証が目的。

背景には、鳥取県の高齢化、住宅の断熱性の低さ(体感)、電気使用量(6位)、冬期の死亡率(17位)、コタツ保有率(3位)、所得(46位)、平均気温の差が激しい、などの社会課題を抱える地域特性がある。

●実施概要

県下3か所で断熱に関する知見普及及び仲間とともに安価に実践できるリフォーム実技を拡げるリーダーを支援することで、断熱の「健康」「長寿」「経済性」「日々の快適性」についての社会的な知見を高めていくことを目指す。

例えば、

・どこで 「町営移住おためし住宅」

・主に、省エネに取り組むポテンシャルが高い30~40代男性を含む、今後住宅性能でエネルギー使用量(CO2排出量)がロックオン(固定化)されてしまう子育て年代

・主に古民家などの断熱DIYワークのリーダーを増やすために、断熱ワークを実施

●期間

主に冬季

鳥取県中部(北栄町)	12月14日	・・・お試し住宅(観光課×住民生活課地域エネルギー推進室)
鳥取県東部(智頭町)	2月9日	・・・移住者のカフェ起業(SDGs未来都市×中心市街地活性課)
鳥取県西部(米子市)	2月15日	・・・中心市街地歴史景観区古民家(企画課×環境政策課)

活動概要②

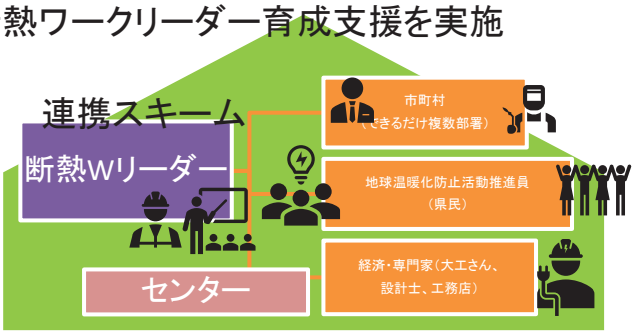
●地域とのかかわり方・事業スキーム

2016年度　中心市街地再生事業にオブザーブ参加。
光熱費試算が甘すぎて起業の失敗につながっていることを指摘。

2017年度　断熱ワークへの勉強会開始（推進員の勉強会でテーマとして取り上げ）
中心人物を講師として招聘し、連携を持つ。
大学事務所や学生アパートで実証。

2018年度　断熱ワークの実施支援（他の小さな補助金経理）
講師のセミナー指導機会および発信を提供
ゲストハウスでの効果検証
TEM（とっとりエネルギーまちづくり団体）設立支援

2019年度　当該事業として、断熱ワークリーダー育成支援を実施



＊センターの役割は、コーディネート、リーダー候補者の募集、効果測定、記録、発信

主な取組み①断熱DIYワークリーダー育成スキーム
当日までのスケジュール「企画から計測、広報まで」

北栄町

自治体の地域エネルギー推進室からの相談 → 協議、下見、測定計画 → 町の広報紙等で参加者募集

米子市

断熱リーダーからの提案 → SNSで断熱作戦会議&下見イベント発信 → 作戦会議&下見イベントに集まった仲間でSNSグループによる企画

智頭町

断熱リーダーからの提案 → 断熱先線会議の企画をSNSグループで進める → 断熱作戦会議開催自治体の担当者も呼び、連携強化 → 手法を研究しながらSNS発信

主な取組み②断熱DIYワークリーダー育成スキーム
断熱DIYワーク当日のスキーム

安全管理を兼ねたアイスブレイク【ラジオ体操】

【断熱の意味】を立体模型で説明

本日の重点作業とスケジュール確認と
【グループ分け】(3チームに分かれることで、仲間づくりと全ての行程を経験できる)

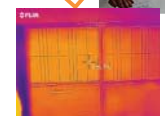
①建具を2重窓にする

最後に記念写真を撮り、楽しい様子を発信

昼食は、必ず【同じ釜の飯】を食べる。断熱ワークを一緒にしあう仲間づくり。この日は地元食材のみで。

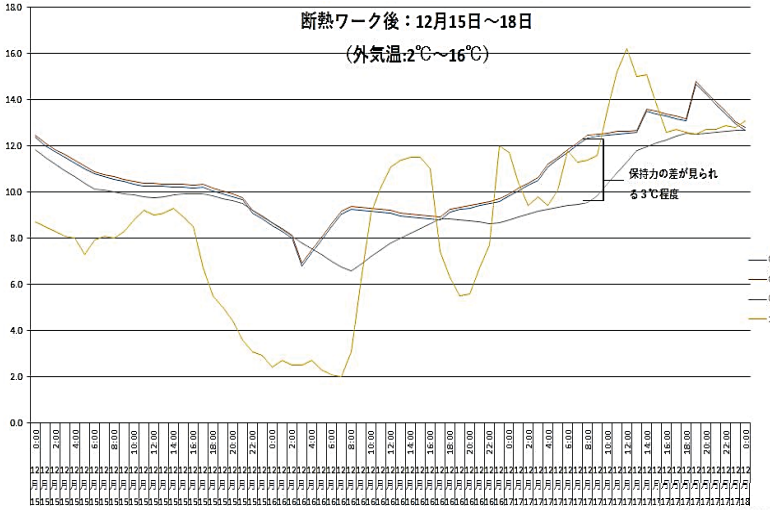
【断熱レクチャー】昼食後は、断熱ワークリーダーによる断熱の多くの便益についてのレクチャーを実施(地元ケーブルテレビ局の取材中)

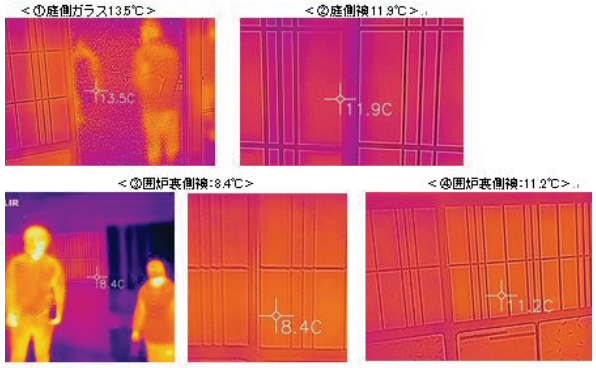
②床に断熱を防水シートと
断熱シートを貼る
赤ちゃん連れの女性も参加↓



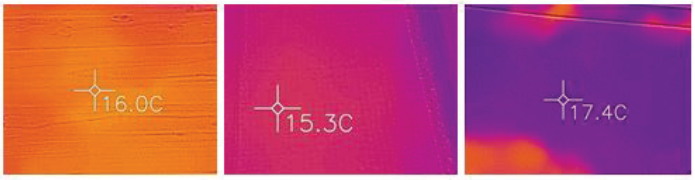
③屋根裏(1階の天井)に断熱材を敷き詰める

主な取組み③効果測定と「成果の見える化」と発信





個室温4か所(ワーク前後の10日間)ビフォーアフターの比較



・窓、床など施行した箇所の表面温度ビフォーアフター比較→

※断熱ワーク前後の室内の表面温度は、3℃程度保温力が上がっている。

No.	断熱ワーク前	断熱ワーク後	床温度	
①	13.5℃	14.9℃	仏間	居間
②	11.9℃	17.7℃	15.3℃	17.4℃
③	8.4℃	18.4℃	床温度差	2.1℃
④	11.2℃	15.9℃		
平均	11.3℃	16.7℃	5.4	
	① ガラス温度差	1.4℃		

((5.4℃−1.4℃)＋2.1℃/2)=3.0℃程度保温力が上がっていると思われるのと、部屋が冷めにくいと実感が出来た。

活動のポイント

●この活動で得られた成果
・今年度の断熱リーダーは、9名（予定）
・その他の参加者合計60名（予定）
・断熱の意義（便益）の発信を、新聞、テレビ、ラジオ、SNSなどあらゆる場所で実施
・断熱リーダーを中心とした自律的な仲間づくりができつつある（資金面であと少し支援があればよい）
・断熱ワークに取組む中で、自治体やまちづくり団体、飲食店や工務店経営者などとの連携構築
・CO2削減量は、暖房エネルギーが24%削減する計算が妥当ではないか？

●効果的な実施のための工夫
＊省エネDIYワークショップは、公開可能な場所（公共施設や飲食店、宿泊施設）が理想（個人宅は公開できない場合が多い）を選定した
＊各地域のワークのスキームは柔軟性を持たせ、地域課題の解決の手段として盛り上げる
＊各基礎自治体に必ず参画を求める。パワフルな公務員を巻き込む（巻き込まれる）
＊センターは、効果の見える化と、レクチャーができる講師の紹介と学生の盛り上げで、切り込む

鳥取県中部(北栄町)　12月14日　・・・お試し住宅（観光課×住民生活課地域エネルギー推進室）
鳥取県東部(智頭町)　2月9日　・・・移住者のカフェ起業（SDGs未来都市×中心市街地活性課）
鳥取県西部(米子市)　2月15日・・・中心市街地歴史景観区古民家（企画課×環境政策課）

●その他
・体験的な普及啓発事業の中でも、このスキルは生きる力や仲間をもたらすもの
・普及啓発であるが、CO2削減の実践、人材育成でもあり、コベネフィットな取り組み

今後の課題・展望

●今後の課題
・ローエネルギーで快適な暮らしが手に入ることであるが、一般家庭の情報がなかなかオープンにできない。このハードルを低くするには？（お金？インフルエンサー？）
・断熱ワークから、本格的なリフォームに結び付けるというゴールは有りか？

●展望
・断熱ワークに参加した自治体職員に影響を与えて、県独自の省エネ基準策定に繋がった。
・今後は、省エネリフォームの基準や手法のパッケージ化を、担当課や基礎自治体に働き掛けたい。

・学校断熱など、猛暑の影響でエアコン導入する学校で、地元有志とPTAなどとの断熱ワークに広げ、公共施設の断熱対策や老朽化による地域課題の解決に結び付けることも可能。

省エネ家電COOL CHOICEキャンペーン（主催：佐賀県）

佐賀県地球温暖化防止活動推進センター
（特定非営利活動法人 温暖化防止ネット）

松尾　真理子

活動概要①

●活動の目的
「COOL CHOICE」を切り口として、家庭部門における効果的な温室効果ガスの削減につなげる。

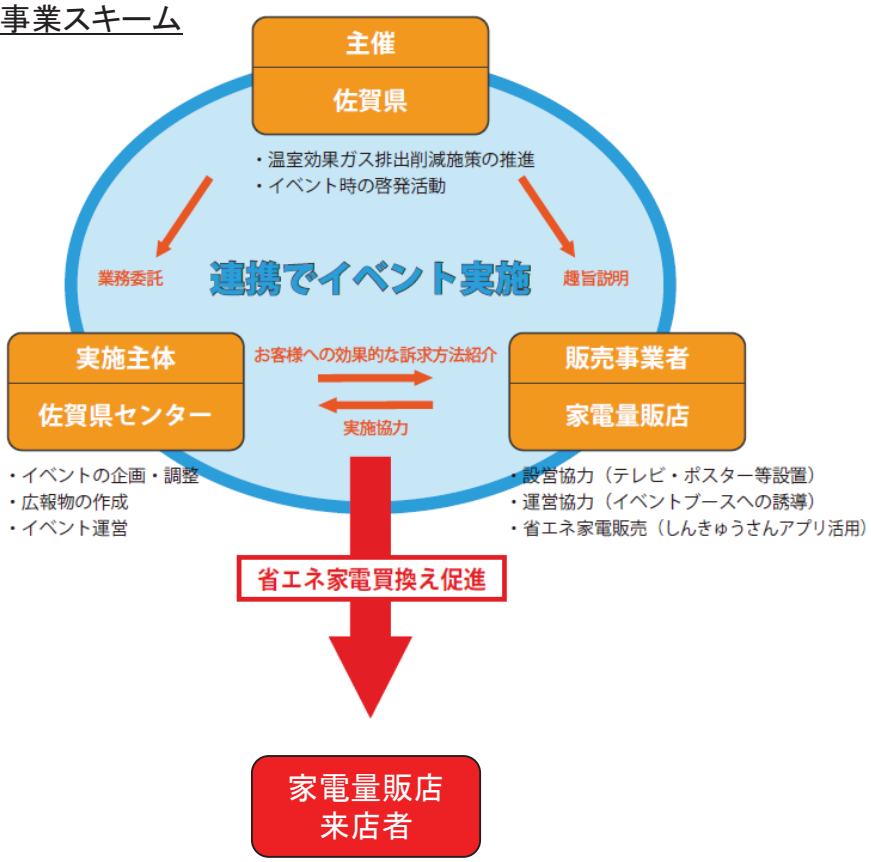
●実施の背景
平成30年3月に佐賀県は地球温暖化対策計画を改定した。この計画における温室効果ガス削減目標を達成するために、「COOL CHOICE」を切り口として各主体と連携して推進する「クールチョイスSAGA事業」の委託を県から受ける運びとなった。当事業では、家電・住宅・交通業界の事業者向け研修会開催や事業者との連携による県民への広報活動などを行っており、その一環として省エネ家電買換え促進イベントを開催した。

●実施概要
家電量販店にて、店舗との連携による来店者向けの省エネ家電買換え促進イベントを開催した。
まず、チラシやパネル等の掲示物を活用して、「COOL CHOICE」全般の取組や「5つ星家電買換え」による一般的な省エネや節約の効果を提示した。また、しんきゅうさんアプリを使って買換えの個別ケースの節約効果を試算したり、COOL CHOICEアプリで地球温暖化の影響を紹介するなど、省エネ家電選択のお得感やCOOL CHOICEに取り組む必要性を感じてもらい賛同を得た。

●期間
【準備】
平成30年7月～　広報物（チラシ、パネル、スタンドポップ等）の作成
8月～　家電量販店への企画提案、 実施に向けた調整
【実施】
平成30年9月24日（月・振休）10時～16時　省エネ家電COOL CHOICEキャンペーン実施

活動概要②

●地域とのかかわり方・事業スキーム



主な取組み①

入店してすぐのスペースにて、COOL CHOICE PR動画「Non 温暖化！～赤鬼化を止めろ～」（環境省）を紹介しました。

売り場では該当商品に「5つ星家電」のスイングポップを掲示しました。

啓発コーナーには、省エネ家電買換えの効果等を示したパネルやスタンドポップ等を設置しました。

主な取組み②

チラシを活用して省エネ家電買換えの効果や省エネ性能ラベルの見方を紹介しました。

主な取組み③

アプリやチラシを活用して省エネ家電買換えの効果などを紹介し、
COOL CHOICEの賛同を得ました。

活動のポイント

●この活動で得られた成果

・対話・体験によるCOOL CHOICE啓発者　98人　・左記のうちCOOL CHOICE賛同者　74人
・チラシ配布数　約200枚
来店者からは「買換えの時は5つ星家電を選ぶようにしたい」との声が多く聞かれた。
従業員からは「お客様に買換えの効果を伝えるために、これからもチラシやしんきゅうさんアプリを活用したい」との声が聞かれ、今後の自律的な販売促進につながると期待される。

●効果的な実施のための工夫

連携先として、コミュニティラジオ番組「わたしのCOOL CHOICE」で共演したことのある家電量販店を選定。事業者の自律的な販売促進にもつながる流れを計画・実施した。

①店舗従業員（管理者・担当者）への事前周知
・COOL CHOICEの考え方やお客様への効果的な訴求方法について紹介
・「しんきゅうさんアプリ」の使い方習得
・2階売り場と1階イベントスペースとの連携について当日の流れの打ち合わせ

②イベント当日の連携
・店舗朝礼にて当日スタッフ全員とイベントの趣旨や流れについて共有
・1階イベントブースにてCOOL CHOICEの取組や省エネ家電買換えの効果を紹介
・2階売り場では5つ星家電の省エネ以外の高機能などの魅力も紹介
・イベントブース、売り場双方にて「しんきゅうさん」アプリを活用

●来店者に足を止めてもらうための仕掛け

・入店してすぐのスペースにテレビ3台を設置し、COOL CHOICE PR動画を再生。最新大型テレビの驚くほど美しい映像と人気女優の出演に多くの来店者が足を止めた。
・のぼりやパネル等の設置物にて「佐賀県」のロゴマークを目立たせることで警戒心を解いた。
・ノベルティとしてエコバッグを準備した。

今後の課題・展望

●今後の課題

活動を通して、事業者や県民の「COOL CHOICE」認知度がとても低いことを実感した。（9割以上が「COOL CHOICE」を知らなかった。）類似の活動の積み重ねにより、認知度向上と意識変容を目指す。

●展望

今後の計画として、電器商業組合との連携による中小家電店合同展示会での啓発を検討している。

昨年度、電器商業組合員向けの「クールチョイスSAGA研修会（※1）」を県内4ヶ所にて開催し、県内全体で組合員の6割の参加が得られた。顧客との付き合が長いまちの電気屋さんに、各家庭に合った省エネ家電を提案してもらうことで効果的に購入を促し、その後の販売実績調査による効果の数値化を図る。

※1「クールチョイスSAGA研修会」…第1章「私たちの暮らしと地球温暖化」、第2章「地球温暖化防止の取組『COOL CHOICE』」、第3章「省エネ家電買換えに向けて」で構成。／　第3章は「地域における地球温暖化防止活動促進事業に係るPLAN集【省エネ家電編】」（平成30年3月環境省作成）より抜粋または参考にして作成。

「うちエコ診断」の推進

兵庫県地球温暖化防止活動推進センター
（公益財団法人ひょうご環境創造協会 ）

事務局長　　大谷　雄治

公益財団法人 ひょうご環境創造協会
Hyogo Environmental Advancement Association

活動概要①

●活動の目的

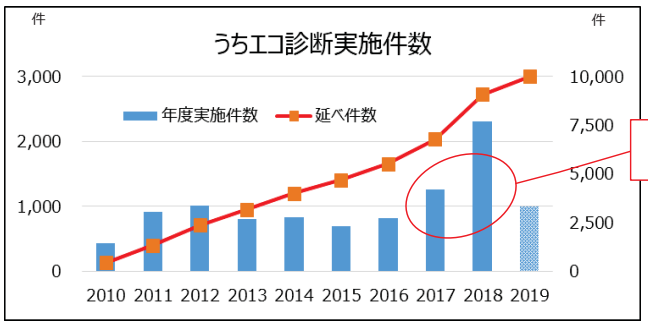
- 「兵庫県地球温暖化対策推進計画」
  - ⇨　2030年度温室効果ガス削減目標　2013年度比 **26.5%削減**
    家庭部門**43.0%削減**を目標にCO_2排出量を見える化する「うちエコ診断」を推進
  - ⇨　兵庫県の実施目標　**年1,000件**　2020年度までの実施目標　10,000件

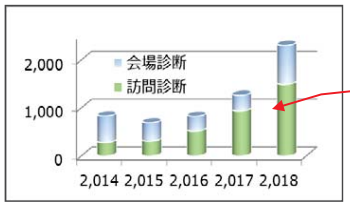
●実施状況

●実施件数
2019年度に10,000件達成見込み

●受診者層のターゲット
①から④への順次拡大
①自治体職員・民間企業社員
②エコフェスティバル等への参集者
③家庭の省エネ設備導入者
④住宅購入・省エネ改修者

さらに個別訪問診断ニーズに対応



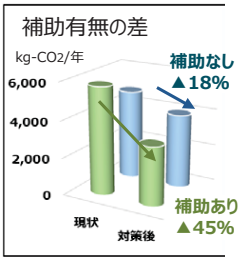


活動概要②

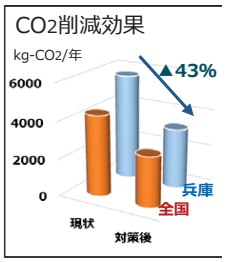
●実施方法

1　県職員向け（特に新任環境部局職員）の診断を実施している。
2　市町職員や市町主催の診断実施を推奨している。
3　県・市町主催のエコフェスティバルや省エネ相談会などでの診断に積極的に応えている。
4　低利融資制度や家庭の省エネ設備補助制度利用者に診断受診を要件化している。
5　受診者の自宅に出向いて診断する「訪問診断」を積極的に取り入れている。
6　ハウスメーカーと連携しモデルハウス等の商談ルームで実施している。

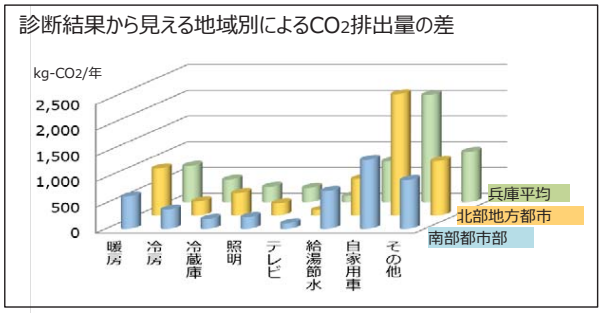
●診断結果（2018年度実績）



・受診者の90%が補助を利用
・補助利用者の削減率は大きい
（省エネ機器＋省エネ行動）



・全国平均より削減率が大きい
全国　▲37%
兵庫　▲43%

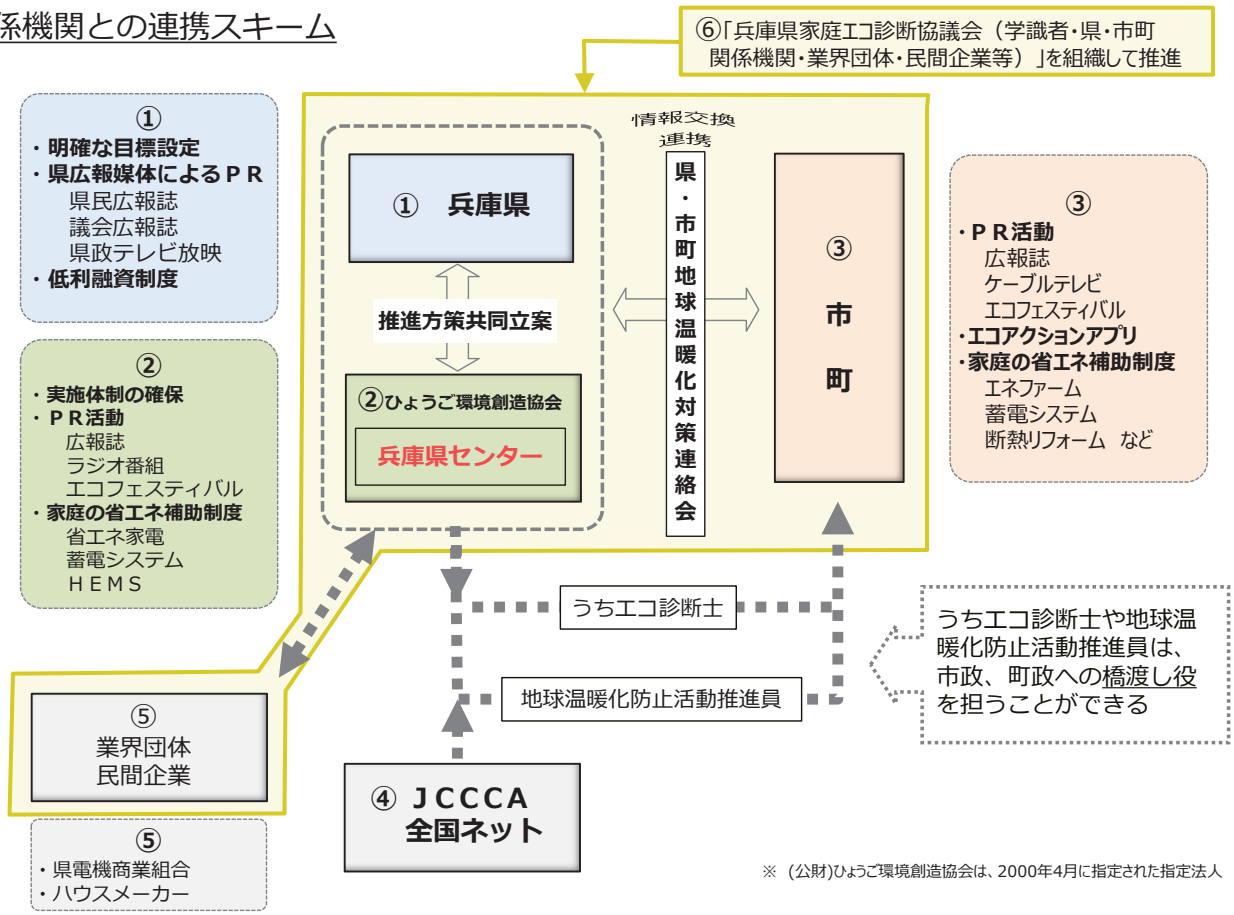


・地方は都市部よりCO2排出量が大
・自家用車による差が大
・北部地方は南部都市より暖房が大
・暖房と冷蔵庫のCO2排出量に差がある
・照明・テレビ・給湯に大きな差はない

⇨ 市町にデータや対策のポイントを提供

主な取組み①

●関係機関との連携スキーム



※（公財）ひょうご環境創造協会は、2000年4月に指定された指定法人

主な取組み②

●兵庫県との連携

- ●県の温暖化対策課職員を指定法人職員として兼務
- ●省エネ設備設置特別融資にうちエコ診断を義務化
- ●県広報媒体によるうちエコ診断のＰＲ

●県ホームページによるＰＲ

●県政広報テレビ番組による放映（10分番組放送）

●指定法人としての取り組み

- ●年1,000件実施のため全面的に財政支援
- ●多様な広報活動①広報誌②ラジオ番組③懸垂幕
- ●うちエコ診断へと誘導する多様な補助制度
  - ①家庭における省エネ・蓄エネ支援事業
  - ②省エネ家電買換促進事業
  - ③省エネ・再エネ相談支援センターを設置

過去のラジオ放送は、HPにおいてすべての番組を公開中

センター壁面にPR用懸垂幕設置

５つ星冷蔵庫買換補助

主な取組み④

●市町との連携

● Ｋ1市との連携

- ●省エネ相談会において診断コーナーを開設
- ●エコアクションアプリへの登録

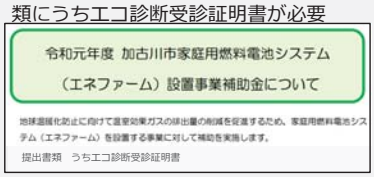
大規模商業施設で会場診断

スマホアプリで診断登録
500ポイント獲得

● Ｋ2市との連携

- ●市の補助制度（家庭の省エネ・創エネ設備）申請時にうちエコ診断を要件化
- ●エコな暮らしの相談会やエコフェスタに診断コーナーを開設

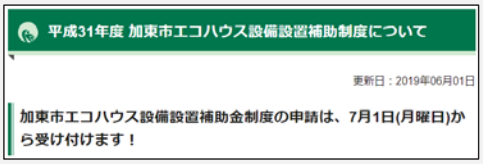
家庭用燃料電池システムの補助申請書類にうちエコ診断受診証明書が必要



エコフェスタ診断会

● Ｋ3市との連携

- ●市の補助制度（エコハウス設備）の対象者はうちエコ受診者に限定



● Ｔ市との連携

- ●ケーブルテレビ用ＰＲビデオ制作支援
- ●省エネチャレンジポイントへの登録

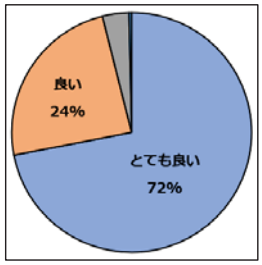
15分番組放送と集団診断実施

診断で500ポイント獲得

市町にCO2排出量データを提供
⇨　その後の市町施策提案につながりやすい

活動のポイント

●うちエコ診断の成果



●受診者の省エネ意識の高まり、診断の満足度は非常に高い。
⇨　診断世帯のCO2排出削減率は43%と高い
　　提案に取り組める回答 90%、受診して良かった回答 96%
●県内の自治体が施策の中にうちエコ診断を取り入れる動きが広がりつつある。
⇨　具体的なCO2排出削減数値の提示が、市町施策の立案につながっている。
●うちエコ診断と補助制度の組み合わせは、地球温暖化問題に関心の薄かった層の開拓になっている。
⇨　補助制度は住宅関連業者を通じて、別チャネルの幅広いPR効果がある。

●効果的な実施のための工夫

●有識者・県・市町・民間企業・業界団体からなる「兵庫県家庭エコ診断協議会」を組織し、会員間の密な関係づくりと情報共有。
●うちエコ診断士の診断技術の向上を図るため、年4回以上の研修実施
①一般研修会、②専門知識研修会、③スキルアップ研修会、④実践研修会
②では　⇨　ハウスメーカーや住宅設備メーカーの協力を得て現地視察や講師として招き専門知識の習得に努めている。
④では　⇨　デモ診断や分野別ロールプレイングを取り入れた研修を実施している。
●うちエコ診断士、地球温暖化防止活動推進員を通じた普及啓発
⇨　診断の成果を診断士や推進員に研修会でフィードバック　⇨　診断士や推進員が市町に施策提案

今後の課題･展望

●今後の課題

●うちエコ診断を継続するには、実施機関として組織・人材・財源確保が求められる。
●うちエコ診断士の高齢化により、訪問診断に対応できる診断士が減少してくる。
⇨　新しいうちエコ診断士の確保が必要　⇨　さらに魅力あるうちエコ診断事業が必要。
●診断の実施率を高めるには、個別診断だけでなく講義型の集団診断方法も求められる。
●手軽に短時間で受診できるうちエコ診断が求められる。
⇨　Web診断に期待
●幅広い世代、特に若年層に受け入れられる診断制度が必要
⇨　小中学生を対象とした環境学習が必要

●今後の展望

●丁寧な診断を求められる受診者向け　⇨　個別診断を実施
●手軽な診断を求められる受診者向け　⇨　Web診断の普及と診断方法の確立
●小中学生向けへの省エネ環境学習　⇨　うちエコキッズの利用拡大

21問の質問で簡易に診断することができ、ゲーム感覚で環境学習が学べる

http://www.uchi-eco.com/

県下の小学校に授業の手引書を配付

(公財)ひょうご環境創造協会

自治体と連携した市民意識調査結果のフィードバック、啓発活動の取組

北海道地球温暖化防止活動推進センター
（公益財団法人　北海道環境財団）

檜森　弘志

JNCCA 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
Japan Network for Climate Change Actions

活動概要①

●活動の目的

2018年度：北広島市の施策検討材料として活用することを目的に、「地球温暖化に関する市民意識調査」を市及び北海道と連携実施。
その他、調査結果の活用方策として、住民へのフィードバックを含めた啓発事業の可能性を検討。

2019年度：前年度の検討を踏まえて、調査結果を活用した啓発やフィードバックを行い、その効果を検証。
① 調査対象者への結果のフィードバック
② 調査結果を活用した啓発

●実施概要

次の①、②の冊子を、意識調査の対象と同一の1,000人に送付。
①：調査結果を分かりやすく伝えるフィードバック冊子
②：省エネ家電への買換えを啓発する冊子。行動を後押しする要素として調査結果の一部を活用。

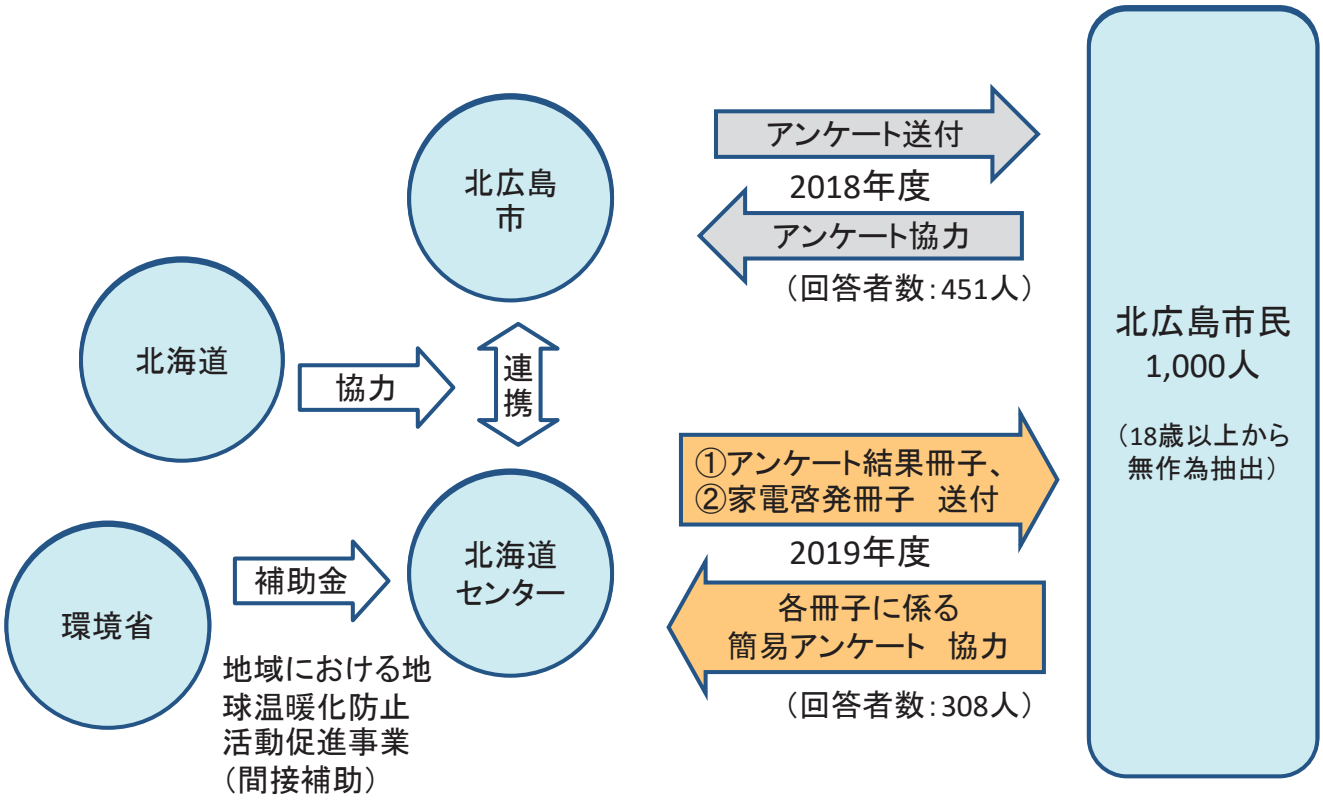
効果検証のため、簡易アンケートを同封し回収、分析

●期間

（2018年11月～12月：市民意識調査）
2019年11月～12月：調査結果のフィードバック、結果を活用した啓発

活動概要②

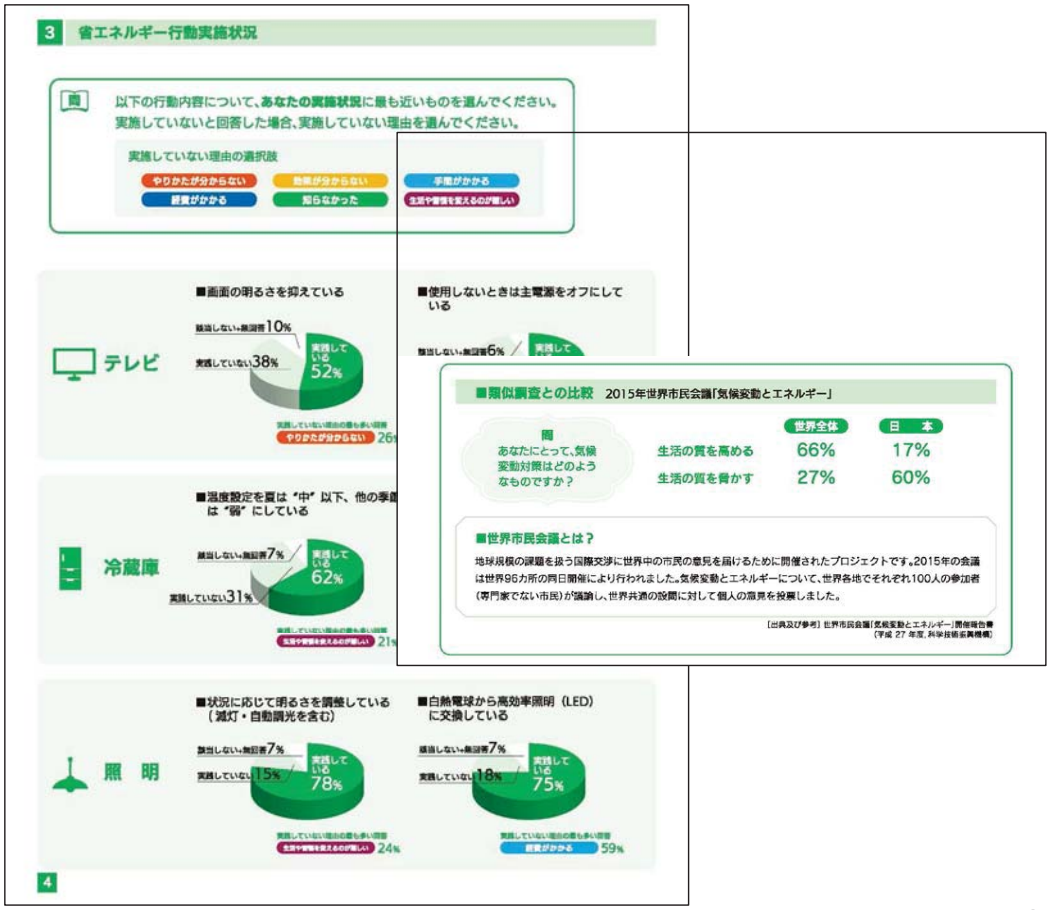
●地域とのかかわり方・事業スキーム



主な取組み①：　調査結果フィードバック冊子

平成30年度
北広島市地球温暖化に関する市民意識調査
報告書（概要版）

A4判、8ページ



主な取組み②： 省エネ家電啓発冊子

実は、家計におトク。
省エネ家電を選ぼう、
使おう。A5判、8ページ

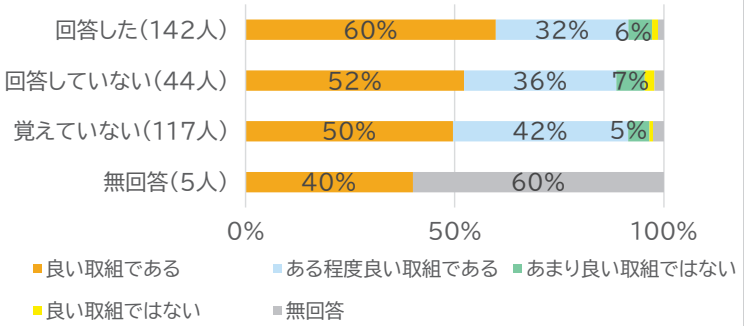
【ポイント】
一般的な情報（省エネのしかたや効果）と、北広島市の取組状況に関する情報を組み合わせて提示

主な取組み③： 主なアンケート結果

回答数：308件（回収率30.8%）

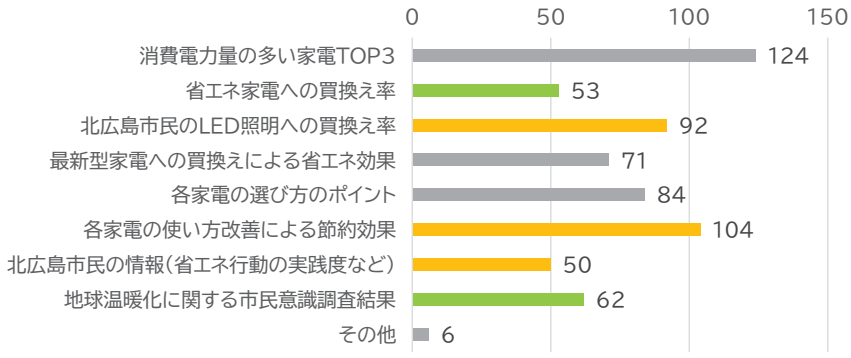
質問： 今回の調査結果パンフレットのように、ご協力いただいたアンケートの調査結果を市民の皆様にお返しすることについて、どう思われますか？

結果： 意識調査にも回答した層は特に高評価。「ある程度良い」までを含めると大差はなく、好意的。



質問：省エネ家電啓発冊子の掲載内容のうち、印象に残ったものを教えてください。

結果： 単に調査結果を示した項目（緑色）よりも、省エネに関する一般的な情報を組み合わせた項目（橙色）で、印象に残った人が多い



活動のポイント

●この活動で得られた成果
- 調査対象者に対して結果をフィードバックすることで、温暖化対策や地域の状況に対する関心を高めることができた
- 調査結果の活用により、省エネ家電買換え冊子をより効果的なものにできた
- 上記取組の効果をアンケートにより評価したことで、今後の企画や自治体への提案の材料となる
- 事業実施を通して自治体との連携体制を築けた
- 調査を継続し、活用例を紹介する中で新たに興味を持つ自治体も出てきている

●効果的な実施のための工夫
- ナッジの考え方（「自分の地域で多くの人がすでに望ましい行動をとっている」という情報が行動変容を促すことを期待。）
- 同封のアンケートは効果測定に加え、啓発冊子の改良やセンターや市が今後同様の事業を行う際の参考とできる内容とした。

●その他
- 北海道とも連携し、企画調整や冊子の作成で協力を得た。

今後の課題・展望

●今後の課題
- 郵便によるやりとりでは無関心層への訴求、効果の把握が難しい。一方で、一部の市民層にはwebでのアプローチが難しい。

→直接フィードバックするのは有効な手段であったが、効果を広げるには情報発信の経路を増やすことが必要。

●展望
- 温暖化に関する意識調査は以前から各地で行ってきており、今後も自治体等のニーズに応じて継続。今回の実績を紹介することにより、調査結果を啓発にも活用することを促す。

- 今年度事業のアンケートでは、前年度調査の結果と比較するため省エネ行動の実践状況を質問した。結果は4項目全てで実践率が向上しており、「平成30年度調査にも回答済み」にチェックした層では特に向上の幅が大きかった。

→意識調査に回答することが、温暖化対策に関心を持ったり、設問内容から省エネ行動を知ったりする機会になっていた可能性がある。
今後、意識調査を啓発の機会としても捉えて実施。

「COOL　CHOICE」普及啓発に資する「ナッジ」応用手法の調査検討

～(独)環境再生保全機構　地球環境基金助成事業～

愛知県地球温暖化防止活動推進センター
（一般社団法人　環境創造研究センター）

清本　三郎

一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
Japan Network for Climate Change Actions

活動概要①

●活動の目的

地球温暖化対策計画では、市民の行動「COOL CHOICE」が期待され、様々な普及啓発活動が行われているが、その手法は十分確立されておらず、**人間心理の特性を考慮しつつ**、現場で**実践的に活用できる**手法を構築することが重要である。

そこで、中部の各地域センターが実施している地球温暖化防止に関わる普及啓発活動について、既存「ナッジ」を調査した上で、新たな「ナッジ」を追加し、その効果を検証し、**「COOL CHOICE」普及啓発に「ナッジ」を活用する。**

●実施概要

本調査では、中部7県1市の地域センターによる**「ナッジ研究会」**を設置し、広報などの情報提供やそれに伴う環境コミュニケーションで実施されている普及啓発活動において、受け取る側の**心理的バイアスを考慮した上で、**「ナッジ」手法の適用可能性について検討する。

① 各地域センターの普及啓発事例について**デザイン分析**を実施し、**既存ナッジ**を抽出した上で、追加ナッジを検討する。併せて、検証のための基準アンケート調査を実施する。

② 上記の普及啓発事例について、**追加ナッジ**を組み込み、普及啓発活動を実施する。併せて、アンケート調査等を実施し、基準アンケートと比較分析し、**効果検証**を行う。

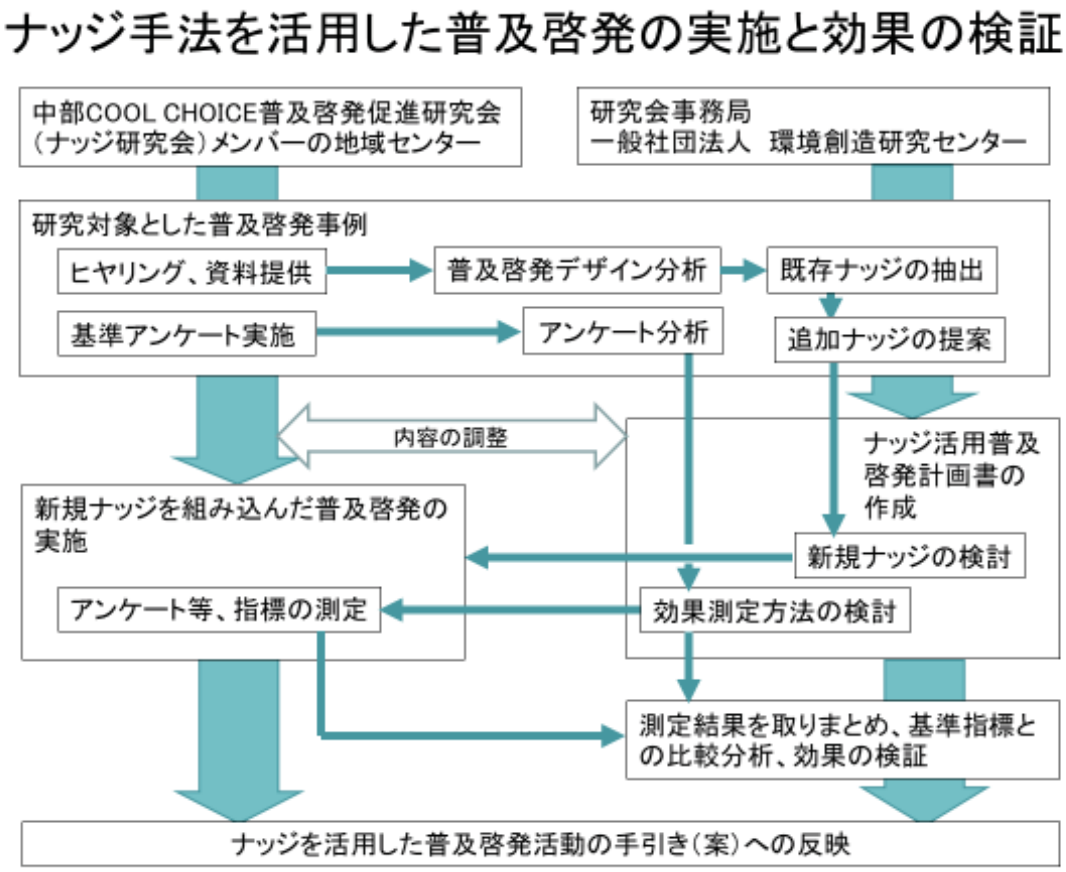
③ 結果を取りまとめ、**「ナッジを活用した普及啓発活動の手引き（仮称）」**を作成する。

●実施期間

①平成30年4月1日～平成31年3月31日（実施済み）
②平成31年4月1日～令和　2年3月31日（実施中）
③令和　2年4月1日～令和　3年3月31日（未定）

活動概要②

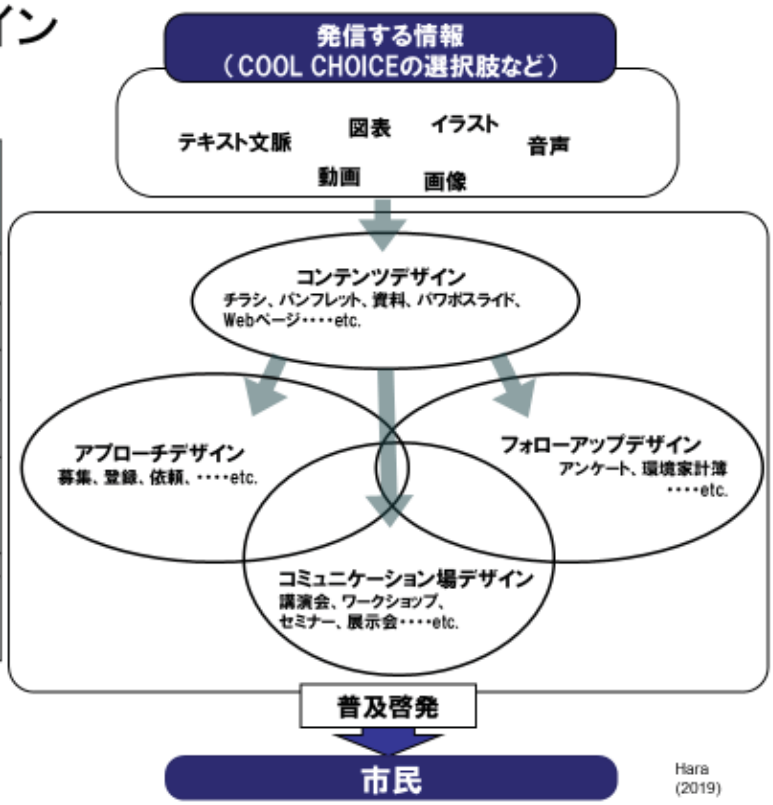
●事業スキーム



活動概要③

普及啓発デザインの考え方

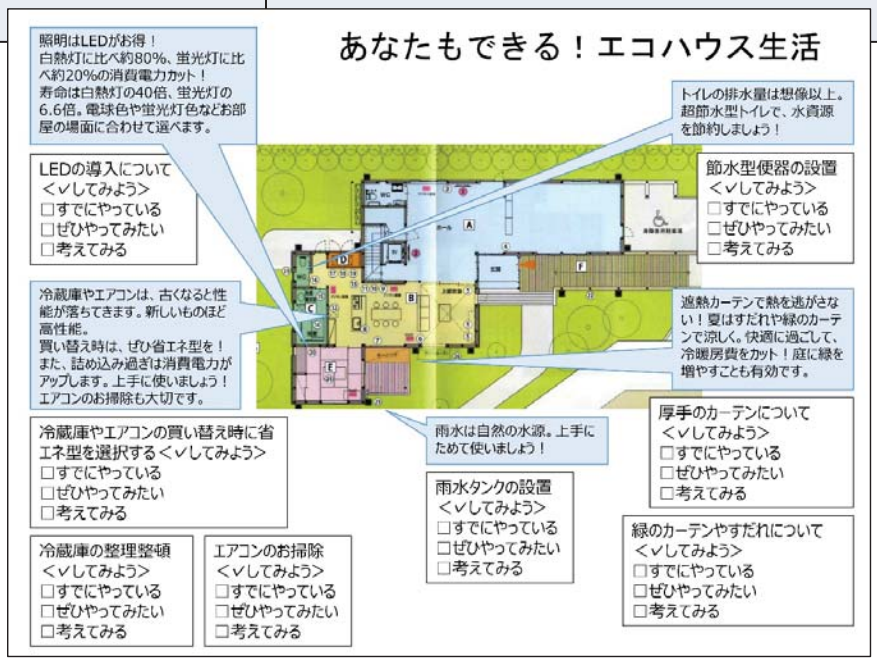
普及啓発デザインの視点	内容	典型的な例
コンテンツデザイン	発信する情報のまとまり	チラシ、パンフレット、HP等
アプローチデザイン	情報を発信する対象への接触	募集、応募、告知、登録、等
コミュニケーション場デザイン	情報を発信する場	講演会、セミナー、教室、等
フォローアップデザイン	結果の「見える化」情報の発信	アンケート、環境家計簿、等



主な取組み＜例＞①

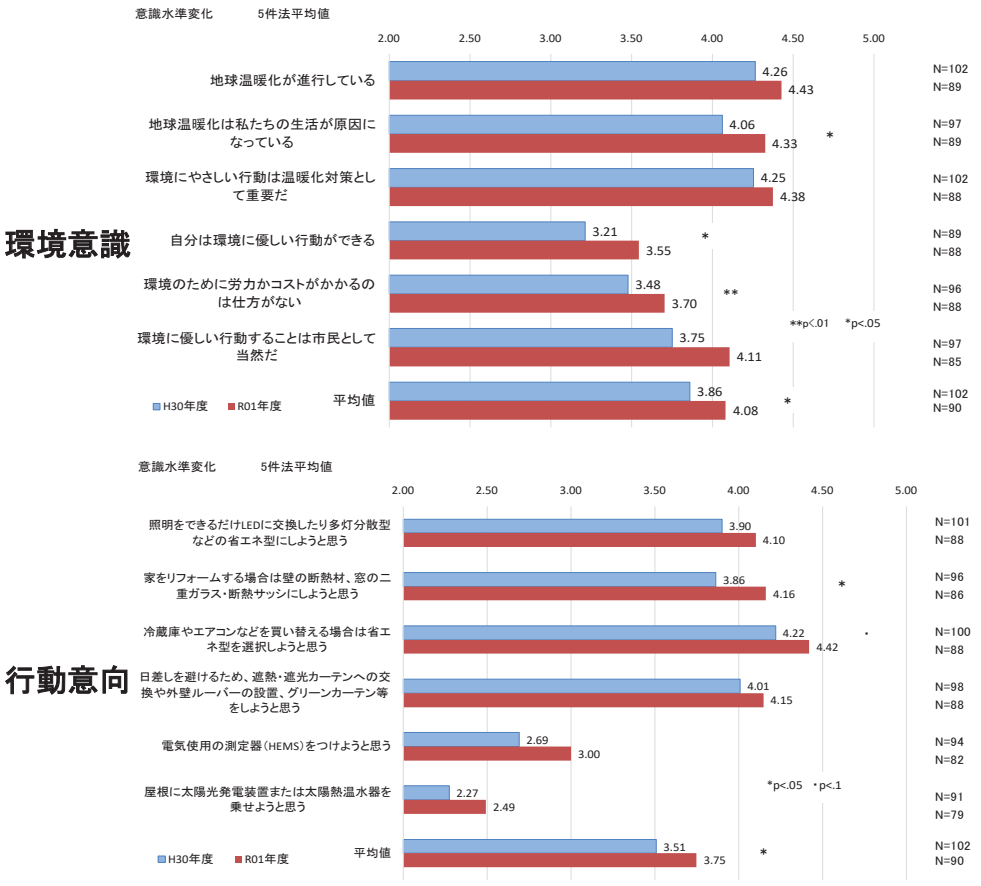
追加ナッジ活用普及啓発実施状況＜石川県センター＞

検討事例	追加ナッジ		期待される効果
県政学習バス受入等によるエコハウスの啓発活動	①コンテンツデザインの追加	・LED、カーテン、省エネ家電など、新築・改築せずにできることに絞った自己評価シートを新たに作成 【対応付け・フィードバック・構造化】	・「環境にやさしい行動ができる」に注目しつつ、アケート結果がポジティブに変化することを期待
	②コミュニケーション場デザインの改良	・ガイドツアーの中で、上記シートの内容について、メニューを強調して丁寧に説明 【構造化】	



主な取組み＜例＞②

追加ナッジ指標分析結果＜石川県センター＞



指標分析結果の概要

・すべての項目について水準が向上。

・環境意識6項目中3項目で有意。

・行動意向6項目中1項目で有意1項目は有意の可能性。

・追加ナッジの効果が認められる。

活動のポイント

●この活動で得られた成果
【1年目：平成30年度】
①各地域センターの普及啓発活動**14事例**についてヒヤリングを実施。
②ナッジ観点で14事例を分析。全体で**59件の既存ナッジ**を抽出。**83件の新規ナッジ**を提案。
③ナッジの活用を想定した活動の現状アンケート調査を**11事例**で実施し、**計1,501件**を回収。
【2年目：令和元年度】
①普及啓発活動14事例の内**8事例**について、**追加ナッジ**を組み込み、普及啓発活動を実施。
②併せて、8事例について**検証アンケート、及び補足ヒヤリング**を実施中。
③基準アンケートと比較分析し、**効果検証**を実施中。

現時点で、石川県センター始め4事例で追加ナッジ組み込みの効果が認められた。この結果は、**「普及啓発のデザイン分析⇒既存ナッジ抽出⇒追加ナッジの組み込み」**という普及啓発活動改善の枠組みが有効である可能性を示唆していると考える。（残り4事例は分析中。）

●効果的な実施のための工夫
①**普及啓発デザイン（環境コミュニケーションデザイン）の構造化**を試みた。
②既存の普及啓発活動において、**無理なく実施可能な「追加ナッジ」**を模索した。

●その他
本調査を推進するにあたり、**中部ブロック7県1市**（富山県、石川県、福井県、長野県、長野市、岐阜県、三重県、愛知県）で「中部COOL CHOICE普及啓発促進研究会**（ナッジ研究会）**」を設置し、各地域センターの協力を得ながら調査・検討を進めた。

6

今後の課題・展望

●今後の課題
現時点で、普及啓発活動8事例中4事例で「新規ナッジ追加」の効果が認められているが、どのようなナッジがどのような形で効果があるのか、**個別に分析していく必要**がある。
従来の普及啓発をより効果的なものへと改善していく際に、ナッジの活用は有用であると考えられるが、応用可能にしていくためには、**複数の知見を総合的に精査し、汎用性ある事例**として丁寧にまとめていく必要がある。

●展望
来年度は、さらに普及啓発活動における**追加「ナッジ」の検証**を実施しつつ、これまでの調査結果をもとに、**「ナッジを活用した普及啓発活動の手引き（仮称）」**を作成する予定である。
地球温暖化問題に関する普及啓発の様々な領域・段階で、本「ナッジ」調査検討の成果を活用することが期待でき、特に以下の展開が望まれる。
○全国の地域地球温暖化防止活動推進センターへの展開
○地球温暖化防止活動推進員、及び基礎自治体担当者への展開

●参考：「ナッジ」活用のポイント
【ナッジの前提】/できるだけシンプルに/強制は嫌い/
【①インセンティブ】/楽しさを予感させる/お得感が大事/損失感はもっと大事/
身近な利益に変える/参考情報を添える/
【②対応付け】/注目を集める/キャッチコピーが大事/直感的な表現に変換/
【③デフォルト】/初期設定で誘導/選択肢から誘導/
【④フィードバックの提供】/結果から見直しを促す/
【⑤間違いの予見】/思わずやってしまう仕掛け/人のエラーを防ぐ（警告）/
【⑥選択の構造化】/簡単に選べる工夫/マークやデザインで工夫/　　など

7

転入・転居者への「ナッジ」を活用した啓発による省エネ行動変容の検証

大阪府地球温暖化防止活動推進センター
（一般財団法人大阪府みどり公社）

主査　　松岡　亜希子

JNCCA 一般社団法人 地球温暖化防止全国ネット
Japan Network for Climate Change Actions

活動概要①

●活動の背景・目的

- 近年、ナッジを含む行動科学の知見に基づいて、一人ひとりの行動変容を促し、ライフスタイルの変革を創出する取組みが国内外で実施され、費用対効果の高い手法として着目されている

- 本事業は、**エネルギーの利用への関心が高まる機会の一つと考えられる「引っ越し」のタイミング**に、**行動変容を促す情報発信（ナッジ）を行う**ことにより、転入・転居者の省エネ行動が促進されるかの検証を目的とする（平成30年度に引き続き実施）

●実施概要

転入者数が府内トップレベルである吹田市において実施　※昨年度同様、大阪府、吹田市と連携

① 吹田市役所窓口での実態調査アンケート・リーフレット配付による啓発
- ✓ **実態調査アンケート**：転入・転居者、その他在住者の省エネ行動の実態を把握
- ✓ **啓発リーフレット**：省エネ行動4項目について、行動科学の要素を取り入れて情報発信
  ※比較対象として啓発リーフレットを配付しない群も設ける

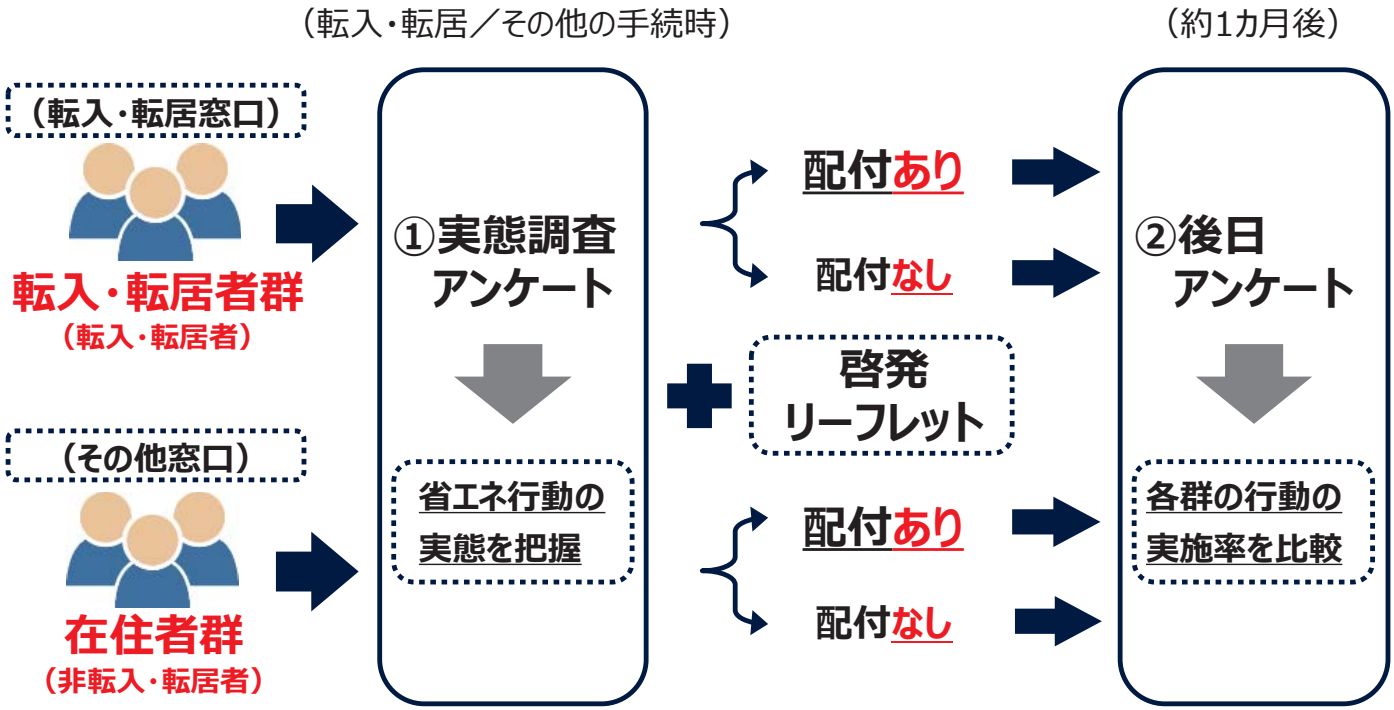
② 約1か月後の後日アンケート：行動変容について検証
  ※リーフレットの配付の有無による差異の確認を含む

●期間

① 実態調査アンケート・リーフレット配付：令和元年10月1日～令和2年1月10日
② 後日アンケート：令和元年11月より順次発送依頼、令和2年2月中旬までに回収
※結果検証は令和2年2月下旬以降に実施

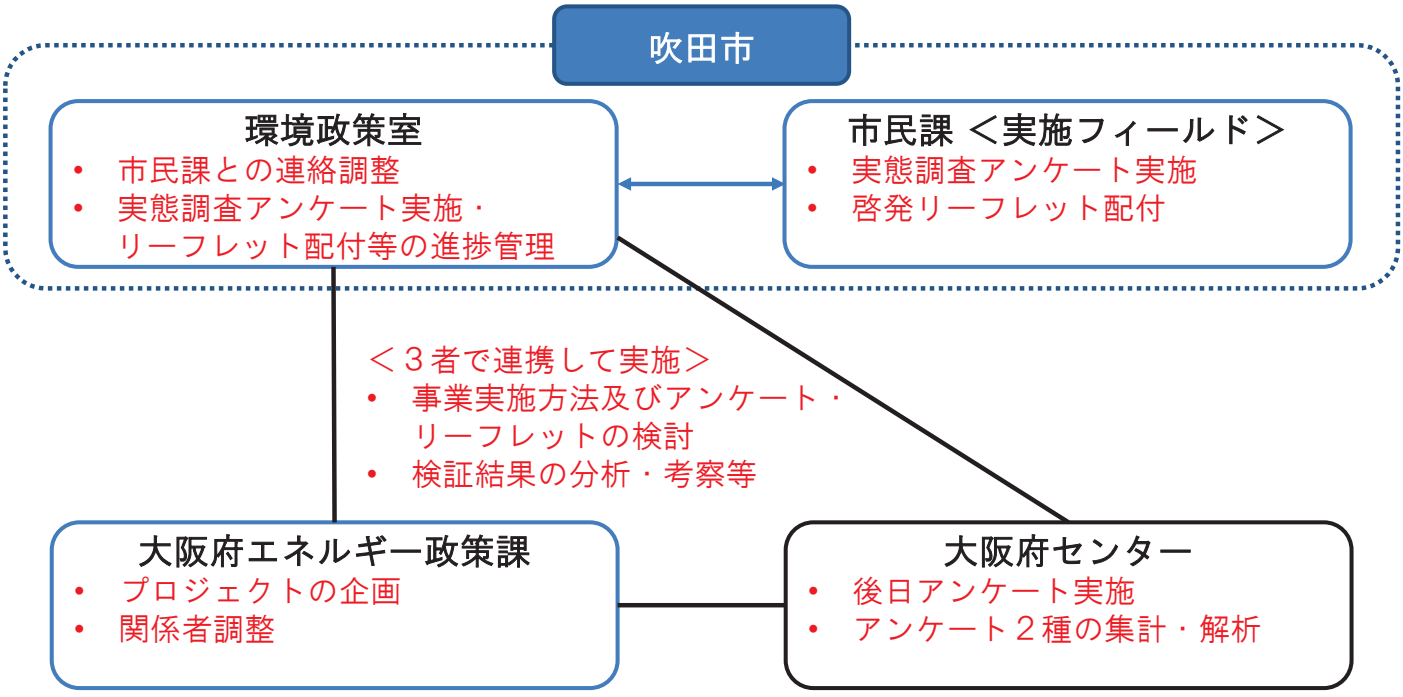
活動概要②

●「実態調査アンケート」及び「後日アンケート」の流れ



活動概要③

●地域とのかかわり方・事業スキーム



主な取組み①

●啓発リーフレット：行動科学の要素を盛り込み、省エネ行動を促進

タイムリー
⇒ 行動を変えやすいと感じる時期を考慮して行動を促す

イージー
⇒ 簡単に行動できるよう、容易さを伝える

チェックリスト
⇒ 行動の手順を示すことで、実行に移しやすくなる

パーソナライズ
⇒ 個人の属性に応じて働きかける

同調性（社会規範）
⇒ 他の人が何を行っているかに強く影響を受ける

マッピング
⇒ 選択と結果の対応関係をわかりやすく表示する

損失回避性
⇒ 利得より損失に強く反応することから、損失を強調する

情報過多（情報の絞り込み）
⇒ 情報が多すぎると注意の貧困をもたらすため、提供する情報を4項目に絞り込む

（転入・転居者用の例）

- **昨年度事業で転入・転居者の実施率が高かった2項目**：「LED照明に交換」「電気の切り替え」
- **住所変更や周辺環境の変化のタイミングに応じた2項目**：「おでかけ・通勤は電車・バスで」「宅配事業者のウェブサービスに登録」

主な取組み②

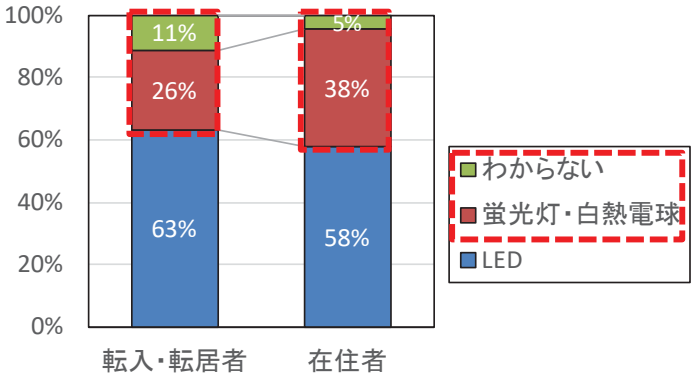
●アンケート調査の概要（設問と回答選択肢を抜粋）

	実態調査アンケート（用紙回答）＠吹田市役所 **市役所届出時点で省エネ行動（下線部）を実施しているか把握** アンケート回収箱（吹田市役所）	**後日アンケート**（用紙またはウェブ回答） ※前回アンケート後（最近1か月間）について **市役所届出後に新たに省エネ行動を実施したか（下線部）を把握** **（リーフレットによる啓発効果の検証）**
照明	➢ **自宅の主な照明** ①LED ②蛍光灯・白熱電球 ③不明	➢ **自宅の蛍光灯・白熱電球をLEDに交換したか** ①した ②していない ③以前から全てLED
電気	➢ **現在契約している電気（電力会社・料金プラン）を選んだ理由**（複数回答可） ①料金 ②再エネ・エコ ③大手・実績 ④前から利用 ⑤その他	➢ **電気の切り替え（会社・プラン変更）をしたか** ①した ②していない ※②のうち、再ｴﾈ等の電気の使用状況も確認
移動	➢ **現在、通勤や通学等の普段の生活で利用している主な移動手段** ①電車・バス ②マイカーなどの車 ③自転車・徒歩	➢ **車・バイクの利用頻度は変わったか** ①減った ②あまり変わらない ③増えた ④以前からほぼ利用しない
宅配	➢ **現在、宅配事業者のウェブサービスに登録しているか** ①登録している ②登録していない ※②のうち、再配達の利用頻度等も確認	➢ **宅配事業者のウェブサービスに登録したか** ①新たに登録した ②以前から登録していた ③登録していない ※③のうち、再配達の利用頻度等も確認

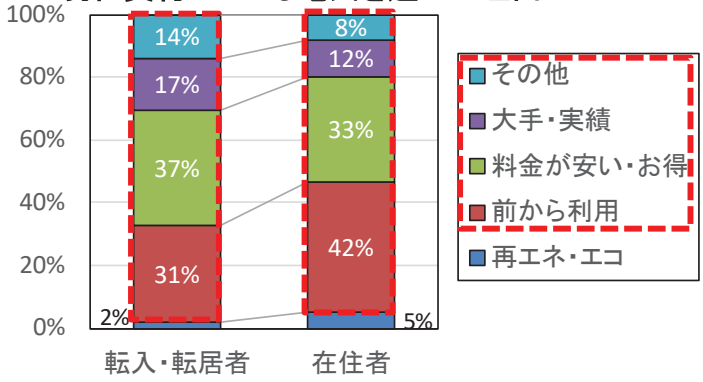
主な取組み③

●実態調査アンケート結果（速報・暫定版）　※有効回答数2,576（転1,116、在1,460）、回収率70.4%

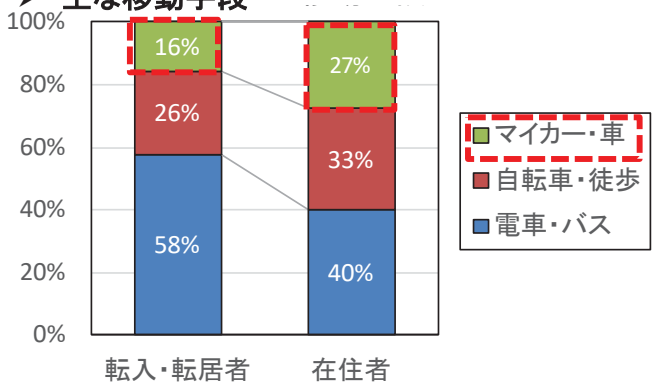
➢ 自宅の主な照明



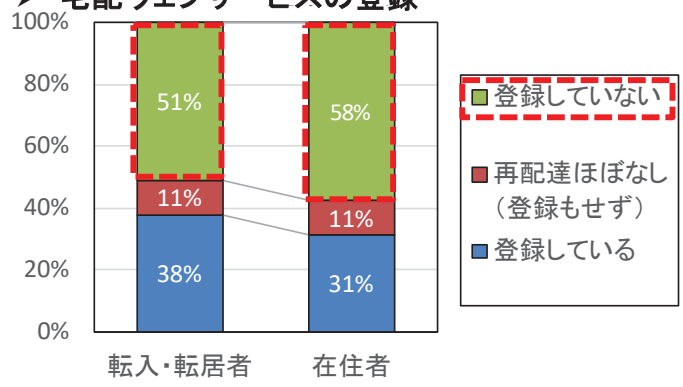
➢ 現在契約している電気を選んだ理由



➢ 主な移動手段



➢ 宅配ウェブサービスの登録



：省エネ行動を実施していない＝**訴求対象**　※契約電気を除き、転入・転居者の実施率が高い

活動のポイント・今後の展望

●今後の予定

・後日アンケートの集計・分析による啓発効果の検証（令和2年2月5日時点の回収数415、回収率40%）
→ **転入転居者・在住者**（2群）×**リーフレット配付あり・なし**（2群）＝4群の統計的有意差を検定

・みなしCO2排出削減量の推計

●効果的な実施のための工夫

・**後日アンケート**について、多数の回答協力を仰ぐため、**ノベルティ2種を用意した。**
- QUOカード500円×50人分（大阪府センター自己負担）
- ビール1箱×5人分（地元企業より無償で提供）

・リーフレットには、**吹田市のプラスチックごみの取り組みに係る啓発内容**や、**ノベルティ提供企業の市内工場紹介**等を盛り込んだ。また、省エネ行動の各項目においても、**吹田市の施策や公共交通の利便性を紹介**し、実施フィールドに適した内容とした。

・**後日アンケートのウェブ回答（メールで依頼）**については、回答締切直前に未回答者に**リマインドのメールを送付すると回収率が向上**した。

●展望

・府内の省エネ行動のさらなる拡大を図るため、**大阪府と連携して、府内の市町村における水平展開**を実施予定。市町村が希望する啓発内容に応じ、リーフレットを複数パターン検討中。

・次年度に向け、より効果的と考えられる様々なライフイベントに着目した啓発を検討予定。

地域の小学校と連携した環境教育

青森県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：小学生,環境学習,ツール開発

◯活動の目的

地域の小学生と継続的に環境学習を行うことで、子どもたちが自分の住む地域の環境について知り、課題の解決や実践に向けて自ら行動するようになること。

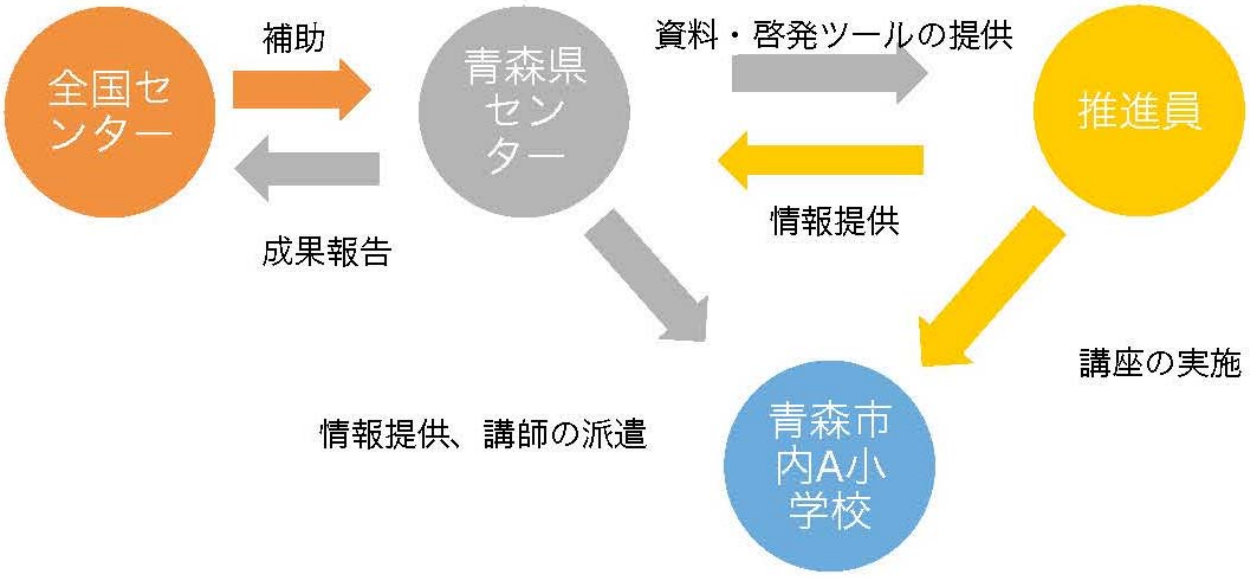
◯実施までの経緯

平成25年度より、地域で主に小学生を対象とした環境出前講座を実施しているが、単発のイベント的なものになりがちで、継続性に欠ける面があった。また、実施先の先生や担当者についても、意識変容につながっている実感がなかった。啓発の効果を継続的なものとするため、１年を通して計画的な講座実施を目指した。

◯主な取組み

総合学習の時間に１年を通して環境について学ぶ青森市内の小学校と連携し、4年生児童47名を対象に、地球温暖化や地域の環境についての外部の専門講師として、推進員が講座を実施した。６月、８月、２月の３回の講座を通して、対象の子どもたちが現状を理解し、身近な問題に気づくこと、問題の要因を考え、自分事として捉えること、課題解決のための行動を起こすこと、というように段階的に実践につなげることを目標とした。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

推進員が製作したツール「キューブでむつ湾」

○効果的な実施のための工夫等

・青森県の整備した小学生向けのプログラム「買い物ゲーム」や、推進員が製作したツール「キューブでむつ湾」などを活用し、楽しみながら環境について興味を持ち、学べるようにした。また、活動の中で子どもたちから出てきた疑問や質問事項に講師が丁寧に答えるなど、講座の内容が一方的にならないようにした。

・年間を通して３回の講座実施で、継続することによる効果があった。また、子どもたちとの距離が縮まり、温暖化防止活動をより身近なものと感じてもらえた。

○活動の成果

・活動の中で出てきた疑問に対する答えを得ることで、地域の環境と自分たちの活動がどのように結びつくのか、子どもたち自身が実感できた。令和元年度も同じ小学校の4年生と同様の取組みを継続する。
・令和元年度に県内の小中学校の先生を対象としたESD研修会を実施することとなり（開催主体は別団体）、当該小学校の校長より企画に対するアドバイスや周知についての協力をいただいた。

○今後の課題・展望

この取組みを他の小学校へも広げていきたい。そのために、対象児童と小学校に対して活動報告の場を提供したり、取組み自体を広報したりすることが必要と考える。

いわて温暖化防止フェア2018

岩手県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：小学生,環境学習,ツール開発

◯活動の目的

地球温暖化防止のために私たちは何をすればよいのか。緩和と適応を知り、温暖化防止に資する情報を伝えるために開催

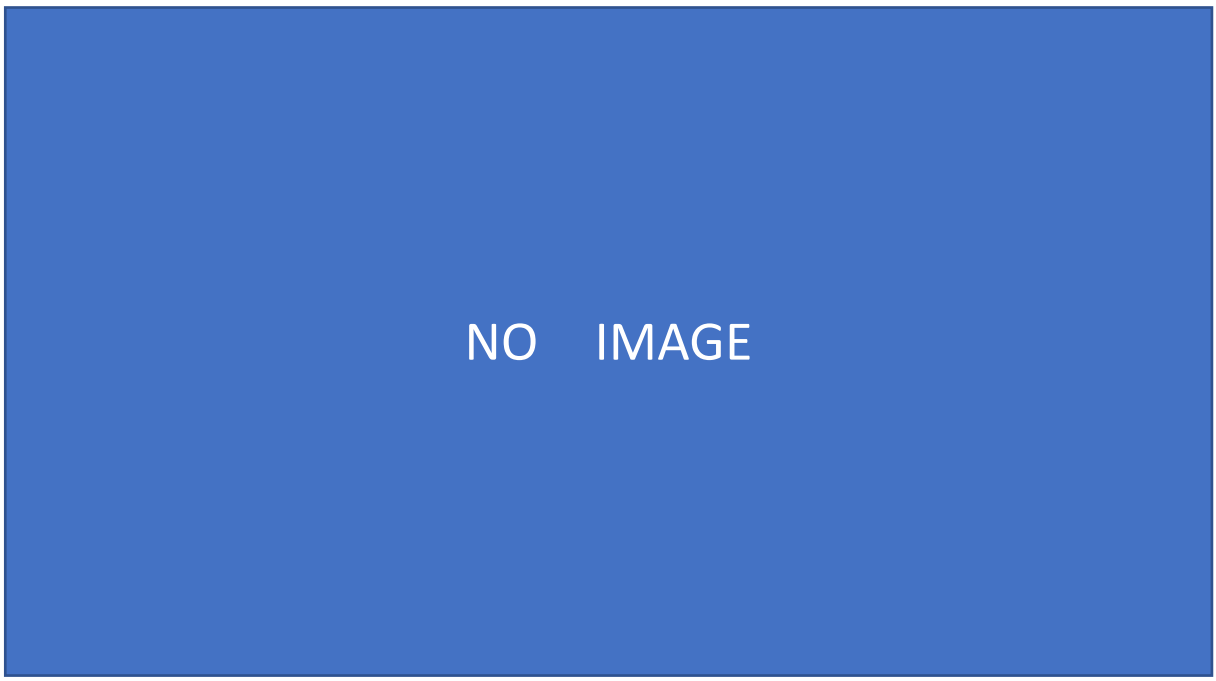
◯実施までの経緯

県の委託事業の仕様要件に含まれる。温暖化防止活動推進センターの行事の中で最も大きなものに位置づけ、温暖化防止の啓発に努めた

◯主な取組み

・対象：岩手県民
・内容：イオンモール盛岡でのフエアの開催、10月13～14日の2日間
・成果：家庭での省エネ、節電の普及、啓発
・準備：実行委員会を組織し5回開催、事務局は岩手県地球温暖化防止活動推進センターが担う
・実施場所：イオンモール盛岡
・連携先：温暖化防止いわて県民会議、岩手県、岩手県環境保健研究センター、盛岡気象台、岩手県環境保全連絡協議会、推進員、県立大学、岩手県地域婦人団体協議会
・キーとなった連絡先：岩手県地球温暖化防止活動推進センター
・計画時に参考とした資料：前年開催した同様のイベント

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

イベントチラシと当日の様子

○効果的な実施のための工夫等

・温暖化の現状、適応と緩和を知らせるため展示品などを活用
・各展示ブースを参加者が見て廻るためラリーを実施
・岩手県よりハンカチなどノベルティの提供を受ける
・家庭のエコチェックアンケート（ＣＯＯＬ　ＣＨＯＩＣＥの賛同欄を入れ、これに誘導するものを含む）：アンケートを通じて各個人の生活スタイルの見直し
・行委員会の開催
・展示、ステージ出演において地元の環境保全団体との協力、支援、連携

○活動の成果

・来場者数：4900名
・温暖化の現状、適応策と緩和策の概要を県民に知らせることができた

○今後の課題・展望

・温暖化防止フェアは2日間の開催のため繰り返し開催し県民に温暖化防止の重要性を訴える必要がある

省エネチャレンジキャンペーンみやぎ

宮城県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：省エネ,検針票,景品

◯活動の目的

前年同期と比較した使用料の変化（削減）量を数値化して示し，気づきとするきっかけとして，電気またはガスの検針票を提出いただき，2ヶ月連続で，前年同月比で使用量が減少していた方には抽選で景品を贈呈するもの。

◯実施までの経緯

県民に楽しく省エネを実施してもらうため

◯主な取組み

*誰を対象にしたものか：宮城県民
*どのようなことを実施したか（実施方法・実施時期）：平成30年12月と平成31年1月の2ヶ月連続で、前年同月比で電気もしくはガスの使用量が減少している方に応募してもらう
*期待した成果：積極的な省エネ活動
*実施のために必要な準備、連絡調整（準備期間）：半年間

◯地域とのかかわり方

○活動の様子等

省エネに取り組んで景品がもらえる！！

省エネチャレンジキャンペーンみやぎ

2018年12月～2019年1月の2か月間に
各家庭で省エネに取り組んで応募しませんか？

「電力」もしくは「ガス」の使用量が、前年同月比で2か月連続減少した方の中から抽選で景品をプレゼント！！
申込方法は裏面をご覧ください！

※検針票対象の日数が異なっている場合には1日当たりで換算した数値の比較とします
※1世帯当たり1回の応募に限ります。

©宮城県・風プロダクション

景品一覧

※景品の種類は選べませんのでご了承ください。

(公社)宮城県物産振興協会
選べるギフトカタログ
樽コース 5名様 / 萩コース 8名様
70種類の宮城の「味」や「技」がギュッと詰まった名産品・特産品のギフトカタログ。樽コースは2品、萩コースは1品選べます。
※商品の掲載内容は、萩コース、樽コースとも同じになります。

11名様
クラフトショップもくもくハウス
フルーツフォーク5本組
宮城県産材の広葉樹からいろいろな木でつくられたフルーツフォークです。

20名様
三陸石鹸工房 KURIYA
小さな石鹸3個セット
(シルク、トウキ、米ぬか)
自然の成分をぎゅっと閉じ込めた小さな石鹸。

26名様
関上あみーす
レインボーアクリルたわし
洗いやすさにこだわって創った、洗剤なしでもきれいに洗えるエコたわし。

30名様
(公社)宮城県観光連盟
むすび丸エコバッグ
(水色、モカベージュ)
仙台・宮城観光PRキャラクターのむすび丸が描かれたエコバッグ。

ダメだっちゃ温暖化

企画 宮城県 環境政策課 温暖化対策班（TEL：022-211-2661）
運営 ストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）
〒981-0933 宮城県仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F
公益財団法人公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）内
TEL：022-301-9145 FAX：022-219-5710 E-MAIL：stop_gw@miyagi.jpn.org

MELON

省エネチャレンジキャンペーンチラシ

「省エネチャレンジキャンペーンみやぎ」の応募方法

以下の①と②を郵送もしくはメールで提出してください。

①「電気ご使用量のお知らせ」もしくは「ガス会社が発行する使用量のお知らせ」
※ 前年度の使用量が分かるもの
※ 2018年12月～2019年1月の2か月分（いずれも写し、撮影データ可）

② 応募する世帯の代表者情報（氏名、住所、電話番号）、取り組んだ省エネ内容と感想（うまくいったこと・いかなかったこと等）が明記されたもの
※ 提出していただいた応募書類は返却いたしません。
※ 当落の発表は景品の発送をもって代えさせていただきます。（景品発送は3月上旬ごろを予定しています）
※ 頂いた個人情報は「省エネキャンペーンみやぎ」の景品発送以外には使用いたしません。

応募期間：2019年2月1日(金)～2月28日(木)消印有効

【応募先】
◆ 郵送の場合 ➡ 〒980-8570 宮城県仙台市青葉区本町3-8-1 宮城県庁 環境政策課 温暖化対策班「省エネチャレンジキャンペーンみやぎ」係御中
※郵送する場合は下部の宛名、応募用紙をご利用ください。
※応募用紙の項目が全て満たしていれば様式は問いません。
◆メールの場合 ➡ syoene-challenge@pref.miyagi.lg.jp
※右のQRコードからメールで送信できます。
※件名に「省エネチャレンジキャンペーンみやぎ」、本文に応募する世帯の代表者情報（氏名、住所、電話番号）、取り組んだ省エネ内容と感想（うまくいったこと・いかなかったこと等）を明記してください。

どうすれば電気代、ガス代が減らせるの？
そんなお悩みの方！「うちエコ診断」を受診してみませんか？

うちエコ診断とは
◆環境省の診断ソフトを用いて光熱費などのエネルギー消費を見える化！
◆環境省認定の「うちエコ診断士」が各家庭のライフスタイルに合わせた省エネ・省CO2対策を提案・アドバイス！

(c)宮城県・風プロダクション

【宮城県内うちエコ診断実施機関一覧】

●株式会社三創
〒983-0822 仙台市宮城野区燕沢東1-10-30 TEL：022-388-1391 FAX：022-388-1393 E-mail：info@yane-sanso.com
対応可能診断方法：訪問診断，窓口診断

●ストップ温暖化センターみやぎ（宮城県地球温暖化防止活動推進センター）
〒981-0933 仙台市青葉区柏木一丁目2-45 フォレスト仙台ビル5階 （公財）みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）内
TEL：022-301-9145 FAX：022-219-5710 E-mail：stop_gw@miyagi.jpn.org
対応可能診断方法：訪問診断，窓口診断，団体診断 ※会場診断についてはお尋ねください

●株式会社北洲（北洲リフォーム ストック循環事業部）
〒981-3212 仙台市泉区長命ヶ丘三丁目32-5 TEL：022-342-5788 FAX：022-342-5830 E-mail：hokushurf@hokushu.net
対応可能診断方法：窓口診断 ※会場診断（自社イベント等）詳しくはお尋ねください

※環境省「うちエコ診断の受診申込」からでもお申し込みいただけます。 うちエコ診断 検索

キリトリ線 ✂ 【応募用紙】切り取ってご利用ください キリトリ線 ✂

〒980-8570
宮城県仙台市青葉区本町3-8-1
宮城県 環境生活部
環境政策課 温暖化対策班
「省エネチャレンジ
キャンペーンみやぎ」係 御中

氏名 電話番号
住所 〒
取り組んだ省エネ内容と感想（うまくいったこと・いかなかったこと等）

○効果的な実施のための工夫等

・広く応募者を募るため、景品の充実を図った。
・主に主婦層をターゲットとし、スーパーなどにチラシを掲示していただけるよう依頼した。

○活動の成果

・みなしCO2排出削減量：3024.3 kg-CO2/年

県内イベントでの普及・啓発活動

秋田県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：COOL CHOICE,体験型ツール,楽しくエコ,親子連れ

○活動の目的

県内各地域の市町村で、地域住民に対して直接、COOL CHOICEについて説明し、一人でもできる、「賢い選択」の普及啓発を行うこと。

○実施までの経緯

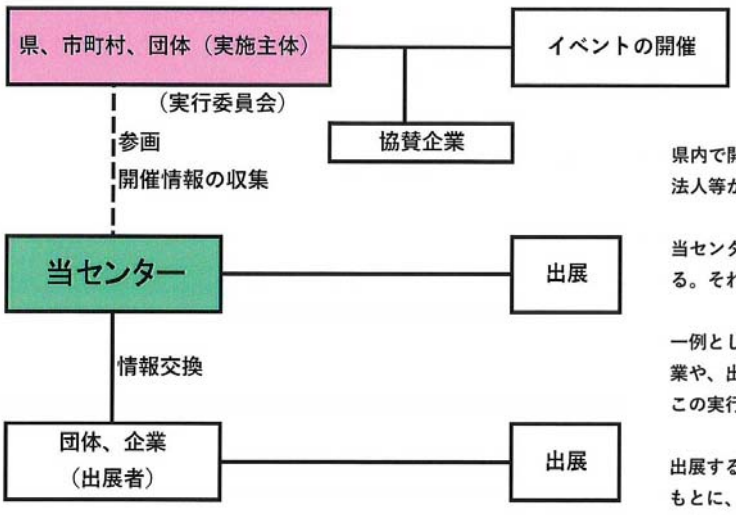
当法人の設立趣旨でもある、環境問題に関する取組は、広く県民の理解と協力なくしては進まない。県内で行われるイベントに参加し、直接住民に説明し、理解を得ることが大切だと感じている。

○主な取組み

参加した市民に（子供から大人まで）、地球温暖化の現状を知ってもらい、賢い選択とは何かを、当センターで作成したチラシで説明し、理解してもらった。また使用済みロウソクを活用した「エコキャンドル作り」や、海のゴミを意識した「エコ釣りゲーム」などを実施し、環境問題に対する意識付けを行った。期待した効果としては、環境保全や地球温暖化について身近であることの意識付けと、楽しくエコができる紹介により、地球を取り巻く環境問題について、興味をもってもらうことができた。
当センターは４イベント中の1つの実行委員に参画しており、その実施場所の選定は、人通りの多い駅前や広場とし実施した。

○地域とのかかわり方

事業スキーム　（県内イベントでの普及・啓発活動）



県内で開催されるイベントは自治体が実施主体となるものや、商工団体やＮＰＯ法人等が実施主体となるものがある。

当センターは県が主体となって実施するイベントには実行委員として参画している。それ以外は出展したイベントでの普及・啓発に力を注いでいる。

一例として、参画しているイベントでは実行委員会で企画、募集を行い、協賛企業や、出展企業の協力を得て、イベントを実施している。
この実行委員会の構成は、県、市、民間企業、大学、当センターとなっている。

出展するのみのイベントでも実施主体者からの要望や来場者の様子などの情報をもとに、イベントの出し物の検討を行い、より効果的なイベントにするための、工夫を行っている。

：予算元

○活動の様子等

エコキャンドル作り（左）とエコ釣りゲーム（右）の様子

○効果的な実施のための工夫等

・子どもが興味のあるゲームや体験できるものを考え、若い親御さん世代に積極的に説明し、少しでも多くの方に足を止めてもらう工夫をした。
・ノベルティ等は手持ちのものや、手作りのものを配布。当センターのマスコットキャラクターなどを使った。
・家庭で使用できる、エコキャンドル作りを体験し持ち帰っていただくことで、家族や周辺への口コミでの普及効果が期待できる。実際に家でも作ってみたいという声もあった。
・出展等の協力を募るうえで、視野を広く持ち結果として地球温暖化防止につながることの説明をしながら、地産地消での飲食ブース出展などをお願いした。

○活動の成果

・体験型ツールを複数用意した結果、ターゲットとしていた親子連れに効果的に立ち寄ってもらうことができた。
・子どもたちがツールを体験している間に、保護者に対して丁寧にCOOL CHOICEについて説明することができた。

○今後の課題・展望

地球温暖化防止には色々なアプローチの方法があると思われるが、その地域の実情に合った、より効果的な方法で、また、より多くの地域で普及・啓発活動を実施していきたい。

茨城県地球温暖化防止活動推進員スキルアップ研修会

茨城県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：推進員,研修会,SDGs,自治体,環境政策,地域づくり

◯活動の目的

茨城県地球温暖化防止活動推進員の更なる活動の促進のため、SDGsなど自治体等が進めている環境政策・地域づくりの取組みについて共有する。

◯実施までの経緯

各地域の強みを活かした戦略的な連携により、環境政策・持続可能な地域づくりの取組は「SDGs」を理解して進める必要がある。
そのため、県内でも積極的に環境問題に取組んでいる「環境自治体」である東海村長を基調講演者としてお呼びし、また、環境省及び環境自治体会議の担当者をから地域の取組等を推進員等に紹介する。

◯主な取組み

・茨城県地球温暖化防止活動推進員及び市町村職員を対象
・研修会の実施
　第１部　基調講演　「SDGsを推進する自治体の役割」東海村長
　第２部　「地域気候変動適応計画作成のポイント」
　　関東地方環境事務所環境対策課　地域適応推進専門官
　第３部　「SDGs事例講演」
　　①「環境自治体会議からSDGsを考える」　環境自治体会議　事務局長
　　②「推進員としての行動」　とうかい環境村民会議　低炭素社会部会　副部会長
　第４部　「エコ工作のワークショップ」　茨城県地球温暖化防止活動推進員Ｇ

◯地域とのかかわり方

NO　IMAGE

○活動の様子等

研修会の様子

東海村長による基調講演

○効果的な実施のための工夫等

当センターでは、SDGsや気候変動適応についての研修会等を、2018年度に２回、2019年度にも２回開催し、推進員等に周知を図った。これまでは、制度や企業の紹介であったが、今回はじめて自治体の取り組みを紹介することにより、県内の自治体と連携した具体的な活動が推進されると期待している。

○活動の成果

・研修会参加者：71名（推進員35名,市町村職員10名,センター職員等26名）
・東海村長による具体的な事態の取組事例、環境省による地域循環共生圏を含めた関東地方の動ぎ、環境自治会会議からの全国の自治体の動向等を紹介により、推進員の理解が深まり、推進の地元での行政等とのつながりが緊密になることが期待される。

○今後の課題・展望

台風１９号等による災害対応で市町村職員の参加が少なかった。
第２回スキルアップ研修会を１月１５日に開催するので、多くの市町村職員の参加を図りたい。

脱！寒くて暑い栃木県

栃木県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：冬季死亡率,快適,健康,省エネDIY,行動変容アプローチ

○活動の目的

「冬季死亡増加率」ワースト１から脱却。

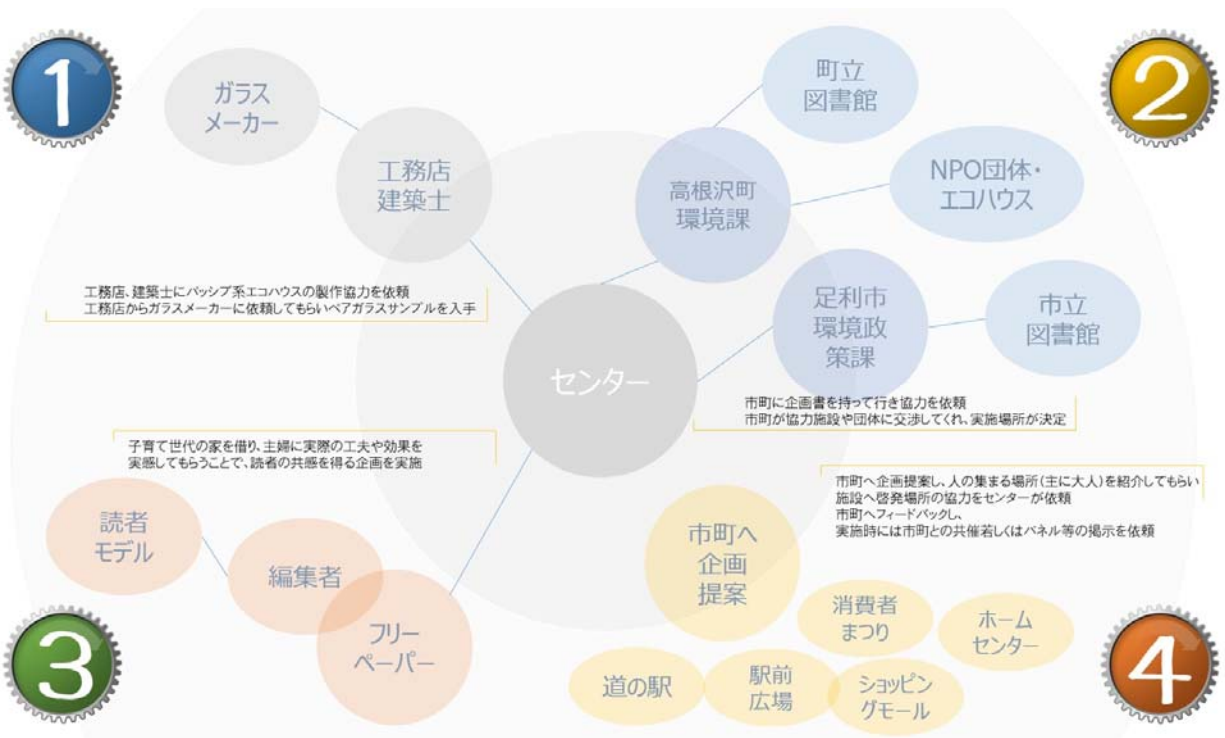
○実施までの経緯

栃木県は内陸県のため寒暖の差が大きく、冬は乾燥し寒く、夏は湿度が高く暑いが、慣例的に関東造と言われる家が多く、「冬季死亡増加率の都道府県比較」ではワースト1位である。また、啓発時の経験からは、高額なことを理由に省エネ住宅や、リフォームは無理という方が多く、それらが「快適・健康」に繋がることを知らない。そのためには大掛かりな省エネリフォーム以前に、住まい方、暮らし方の工夫を広げる必要を感じた。

○主な取組み

①啓発資材の製作、購入
「省エネDIYゲーム」、「冬季死亡増加率の都道府県比較グラフパネル」等パネル、「パッシブミニハウス」の製作。「よしず」「カーテンライナー」等を購入。「ペアガラスサンプル」を入手。
②連続企画展示
2つの市町に協力を得て、日中図書館を訪れる高齢層をターゲットに、夏の時期は県北の図書館、冬の時期は県南の図書館で約1ヶ月間の企画展示を実施。パネルの他に快適グッズ（よしず、カーテンライナーなど）の実物も設置。「やってみる」シールアンケート実施。
③フリーペーパーに記事体広告
30代～40代主婦がターゲットのフリーペーパーで、「Pick up　ママと～く」読者モデルの家で、エコテクとアドバイスを掲載。
④イベントや講座で大人がターゲットとなる場所では、「省エネDIYゲーム」などの資材を使った啓発を実施。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

フリーペーパー記事体広告

パッシブミニハウス（1/40模型）

省エネDIYゲーム

○効果的な実施のための工夫等

行動変容アプローチ「無関心期」「関心期」「準備期」に対して、コンセプトDiagramイベントシナリオにより啓発活動を3分類し、「無関心期」→「関心期」、「関心期」→「準備期」、「準備期」→「実行期」への変容を促すことを目標に、実施場所、実施時期、参加者の年齢層やジェンダーと想定されるペルソナに合わせそれぞれの活動を計画する。また、分かっていることを「やらない」インパクトを付けるため、ゲームやクイズは「×」を選択するものにしたり、ワーストという言葉を使ったり、他と違うことを印象付ける工夫をした。

○活動の成果

まだ、事業の半分も終わっていないが、夏に実施した連続企画展では「やってみたい」シールは202枚集まった。また、「省エネDIYゲーム」は他の団体でも実施することになり貸し出す予定で、各地の団体も同じ内容の啓発をすることで「暮らし方の工夫」が広がることを期待したい。

○今後の課題・展望

実際に消費者としての声を直接聞くことができる、街の電気屋さん、街の工務店と連携を組むことを考えている。広く浅くの啓発だけでなく、狭いが深い啓発も試みたい。

COOL CHOICE ぐんまフォーラム
持続可能なスマートムーブの普及・発展を目指して

群馬県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：スマートムーブ,公共交通の充実,自転車,エコ通勤,阻害要因

○活動の目的

公共交通や自転車利用を促進することにより、自動車からの温室効果ガス排出削減を図るとともに、免許返納後の持続可能な移動手段の確保を目指す。

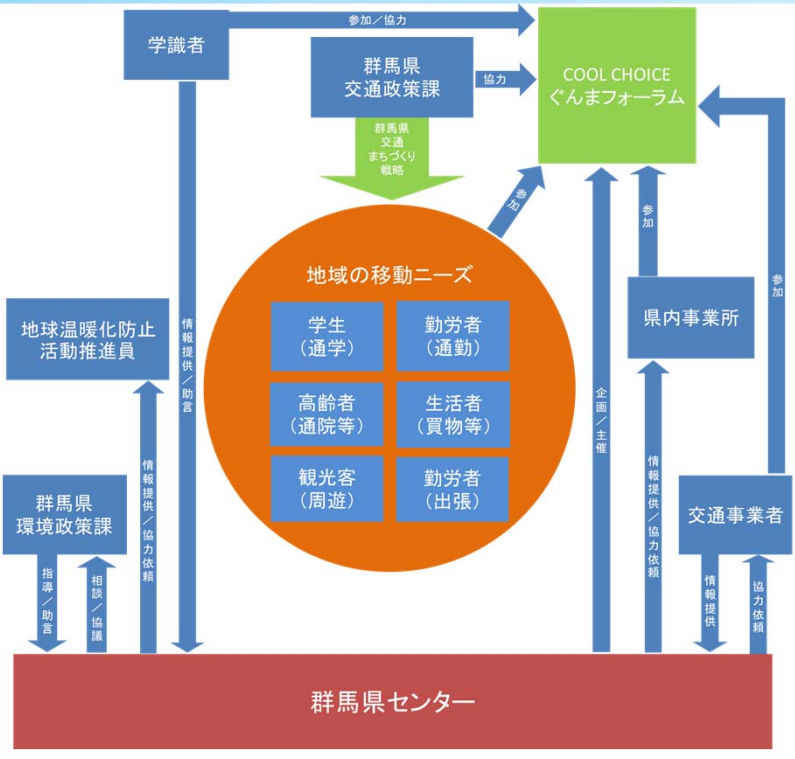
○実施までの経緯

群馬県は一人当たり自動車保有台数が全国1のマイカー王国であり、運輸部門からの温室効果ガス排出割合が全国平均より10ポイント程度高い。公共交通、特にバスの衰退が著しく、輸送分担率は0.3%程度。県の調査では、4人に1人が100m未満の移動でも自動車を利用している実態がある。高齢ドライバーによる交通事故も目立つが、免許返納をためらう人が多い。公共交通の充実と自転車で安全に走れる道路整備が課題である。

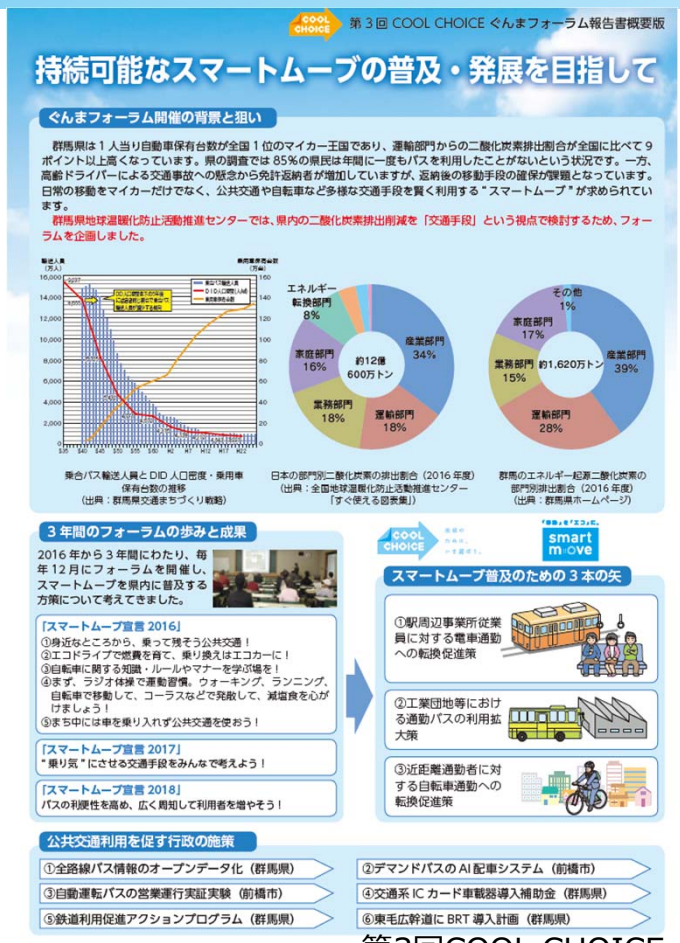
○主な取組み

＊対象者：①県民、②バス事業者
＊基調講演：「群馬の路線バス再生の可能性」（高崎経済大学大島登志彦教授）により、バスの輸送分担率低下の要因と回復の方向性が示された。
＊話題提供1「地方バスの再生・活性化事例」（群馬県センター長代行片亀光）により、トラベル・フィードバック・プログラムなどの手法が有効であることが示された。
＊話題提供2「バスのオープンデータ化」（群馬県交通政策課松田隆行補佐）により、県内バス路線の利用が容易になることが示された。
＊フロア討論「自分事としての公共交通」を通じて、バス事業者の課題（運転手の高齢化や人手不足）も浮き彫りとなった。
＊群馬県交通政策課及び群馬県バス協会によるバスのオープンデータ化の取組がバス利用の敷居を下げることが期待された。
＊京都府宇治市におけるTFPの事例など、国土交通省の報告書が参考になった。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等



第3回COOL CHOICE ぐんまフォーラム報告書概要版

○効果的な実施のための工夫等

・エコ通勤への転換を阻害する要因を抽出するために、マイカー通勤者や経営者、総務人事担当者との意見交換を行った。
・意見交換を通じて、自転車通勤に切り替える場合の通勤手当や通勤災害等に関する運用が阻害要因になっていることが浮き彫りとなった。
・群馬県バス協会及び一部のバス事業者との意見交換を通じて、利用者と事業者及び行政のギャップを埋めていく必要性を確認できた。
・センターの指定元である環境部局だけでなく、交通政策課とも連携することにより、県の政策への理解が深まるとともに、県当局からも政策推進のパートナーとして認識されつつある。

○活動の成果

・平成28年度から30年度の3年間同一テーマでフォーラムを継続開催し、スマートムーブの重要性についての理解は深まったが、それを普及させるための具体策を展開するまでには至らなかった。今後行動変容を促すターゲットとして、①駅周辺事業所への公共交通利用通勤、②工業団地等への通勤バスの導入、③近距離通勤者への自転車通勤の奨励の3つを明確にすることができた。
・この活動を通じて、①超高齢社会に向かう地方において、免許返納後の移動手段としての公共交通を維持・再生することの重要性は理解されつつある。
・マイカーへの依存度を下げることにより、運動量が増加し、健康や体力の維持・向上につながる可能性を示すことが行動変容につながることが示唆された。

○今後の課題・展望

①エコ通勤を普及拡大するために、個別事業所の意向や事情を把握することが必要。次年度においてアンケート調査を実施する。
②二次交通やデマンド交通など、利用者のニーズに対応する多様なサービスが求められる。

第９回低炭素まちづくりフォーラムin埼玉

埼玉県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：推進員,研修会,SDGs,自治体,環境政策,地域づくり

◯活動の目的

低炭素社会の実現に向けて、ワークショップや議論等をとおして、現代のライフスタイルを見直すとともに、問題や課題を発見し、今後の取組へと繋げることを目的とする。

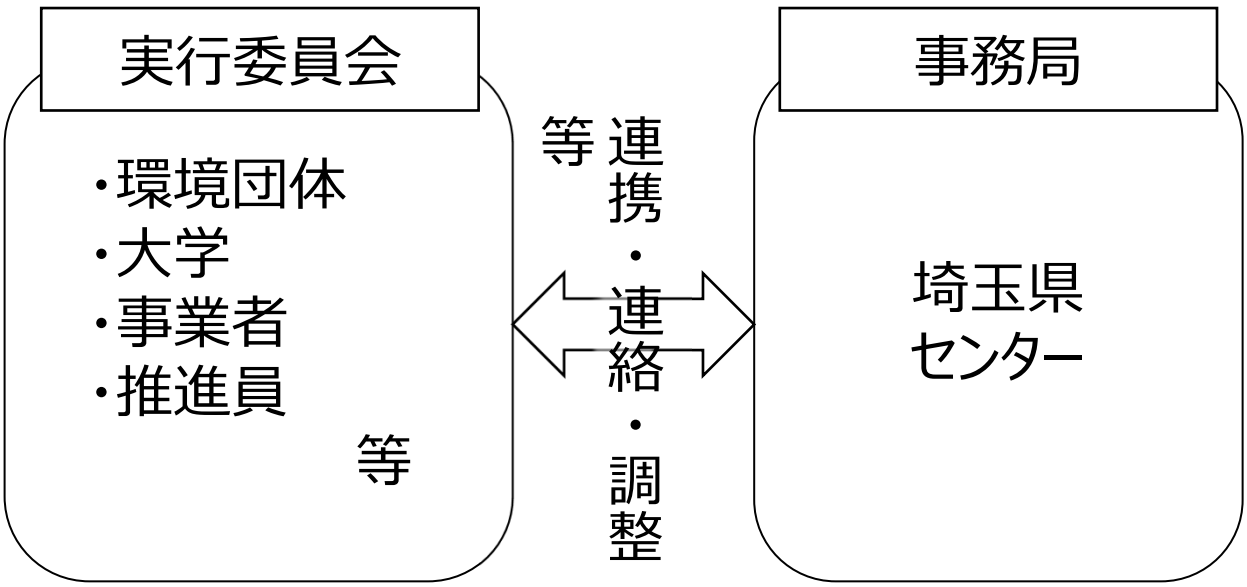
◯実施までの経緯

2001年に「はじめよう！つながろう！環境まちづくり」をテーマに環境諸団体が行っていた「環境まちづくりフォーラム・埼玉」を母体として、2010年より県内各地域の環境団体・市民・行政・行政関連機関・事業者・大学などが連携して、新たに「低炭素まちづくりフォーラムin埼玉」と改称し、「つながろう 広がろう エコの環」をテーマに開催することになった。

◯主な取組み

推進員や民間の団体構成員が実行委員会を組織化し、広く県民が参加する「低炭素まちづくりフォーラムin埼玉」の開催に対して支援を行った。本フォーラムを推進員や民間団体の活動交流や情報交換の場と位置づけ、実行委員会の運営が円滑に進むよう、連絡調整、情報の発信、会議の設置、準備、当日の運営補助、結果のとりまとめ等の支援を行った。より多くの県民に参加してもらえるよう会場や内容、周知方法を改良し、今回は芝浦工業大学で開催することで若者からシニア層まで多くの参加者を得ることができた。さらに今年度は企業のSDGsの発表を交えた展示会も開催することができた。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

フォーラムチラシ

基調講演の様子

パネル展示の様子

○効果的な実施のための工夫等

・学生の参加を得るためパネル展示を実施し、学生による研究成果発表も兼ねることで幅広い世代による交流を促した。

○活動の成果

参加者延べ445人

○今後の課題・展望

時代のニーズに合わせて、持続可能な社会を構築するために新たな視点を取り入れ、より多くの世代間による議論の場としていく必要がある。

緑のカーテン事業

熊谷市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：クールビズ,緑のカーテン,ゴーヤ

○活動の目的

日本一暑い街、熊谷で暑さ対策の一環として緑のカーテンを普及させ、併せて温暖化対策に貢献する。

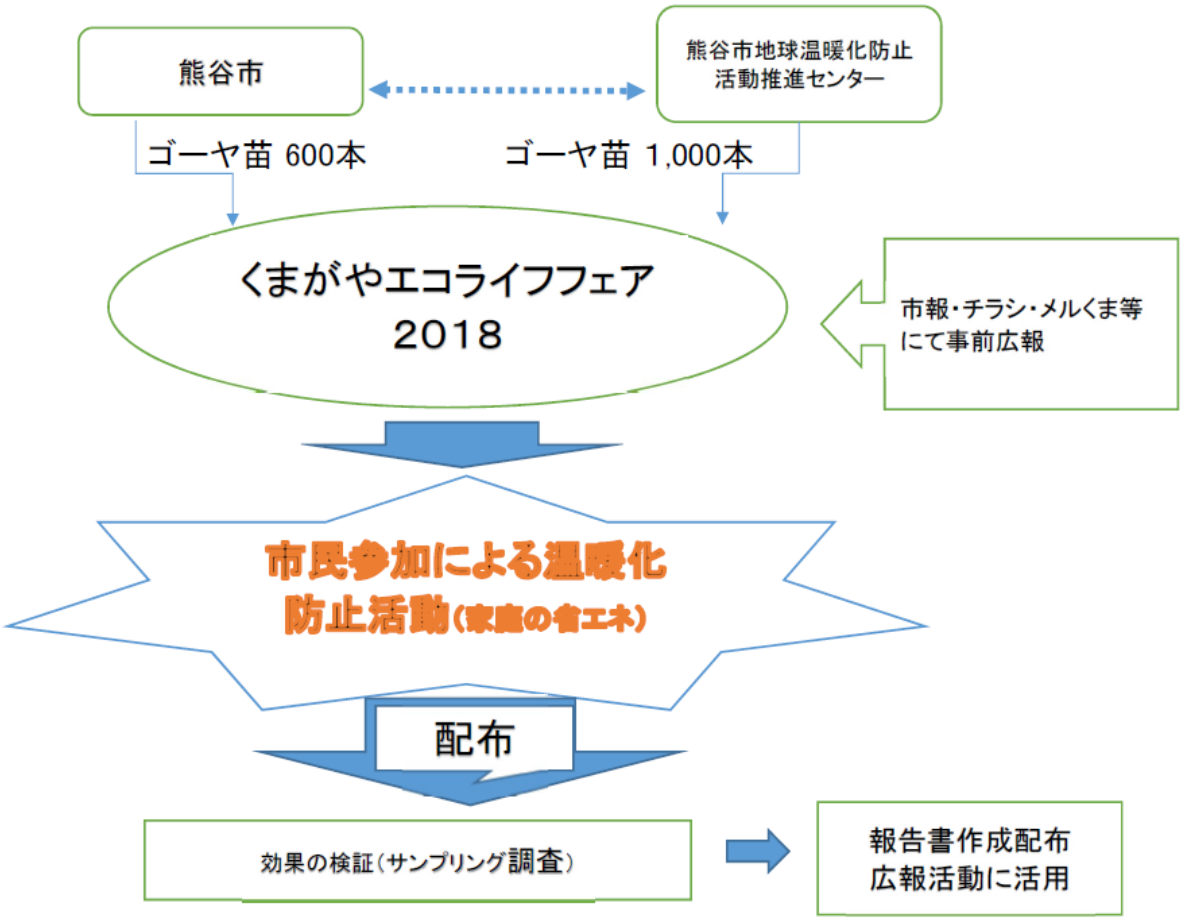
○実施までの経緯

熊谷市は、平成19年8月16日、日本最高気温40.9度を記録しました。そこで、日本一暑い熊谷市がさまざまな事業に取り組み、暑いまちをクールダウンし、快適に過ごせるまちを目指すため、「ヒートアイランド対策推進都市」を宣言した。当センターにおいても市と連携し、平成２４年度より「緑のカーテン」事業を実施している。

○主な取組み

当センターから1000本、熊谷市から600本、計1600本のゴーヤ苗を5月熊谷市エコライフフェアー時に無償配布した。その後、緑のカーテン実施者10件に対して、緑のカーテンの有無による室内の温度差を検証するため、7，8，9月の３ケ月間、温度ロガーを活用した室温記録を要請した。その結果を活用し、CO2排出削減量を推計したところ、30.6t-CO2削減となった。分析後の報告書を作成した。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

エコライフフェアチラシ

配布されたゴーヤ苗による緑のカーテン成果事例写真

○効果的な実施のための工夫等

・データの精度を上げるためモニター件数を５件から１０件に増やした。
・「くまがやエコライフフェア」に参加し会場にてゴーヤ苗の無料配布を実施した。
・ＮＰＯ法人熊谷の環境を考える連絡協議会と連携し地域の団体や企業との交流をしている。

○活動の成果

・ 緑のカーテンによるみなしCO2排出削減量を佐保・福田（2009）※を基に試算
※佐保・福田（2009）：緑のカーテンによる省エネ及び二酸化炭素削減効果の試算.横浜市環境科学研 究所報告.第 33 号.pp1-4

○今後の課題・展望

熊谷市が先行して実施している緑のカーテン写真コンテストや緑のカーテン補助金制度(本年度は補助金交付窓口を当センターが担当)等を通じた情報を精査すると、安定的な参加者はいるものの市域全体への広まりまでは至っていない。配布方法に更なる工夫が必要。

CO2CO2スマート出前講座

千葉県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：出前講座,推進員

◯活動の目的

多くの方に地球温暖化の現状や課題、省エネなどの日常的な取組について学んでいただけるよう、学校や公民館等、さまざまな学習の場に講師を派遣する

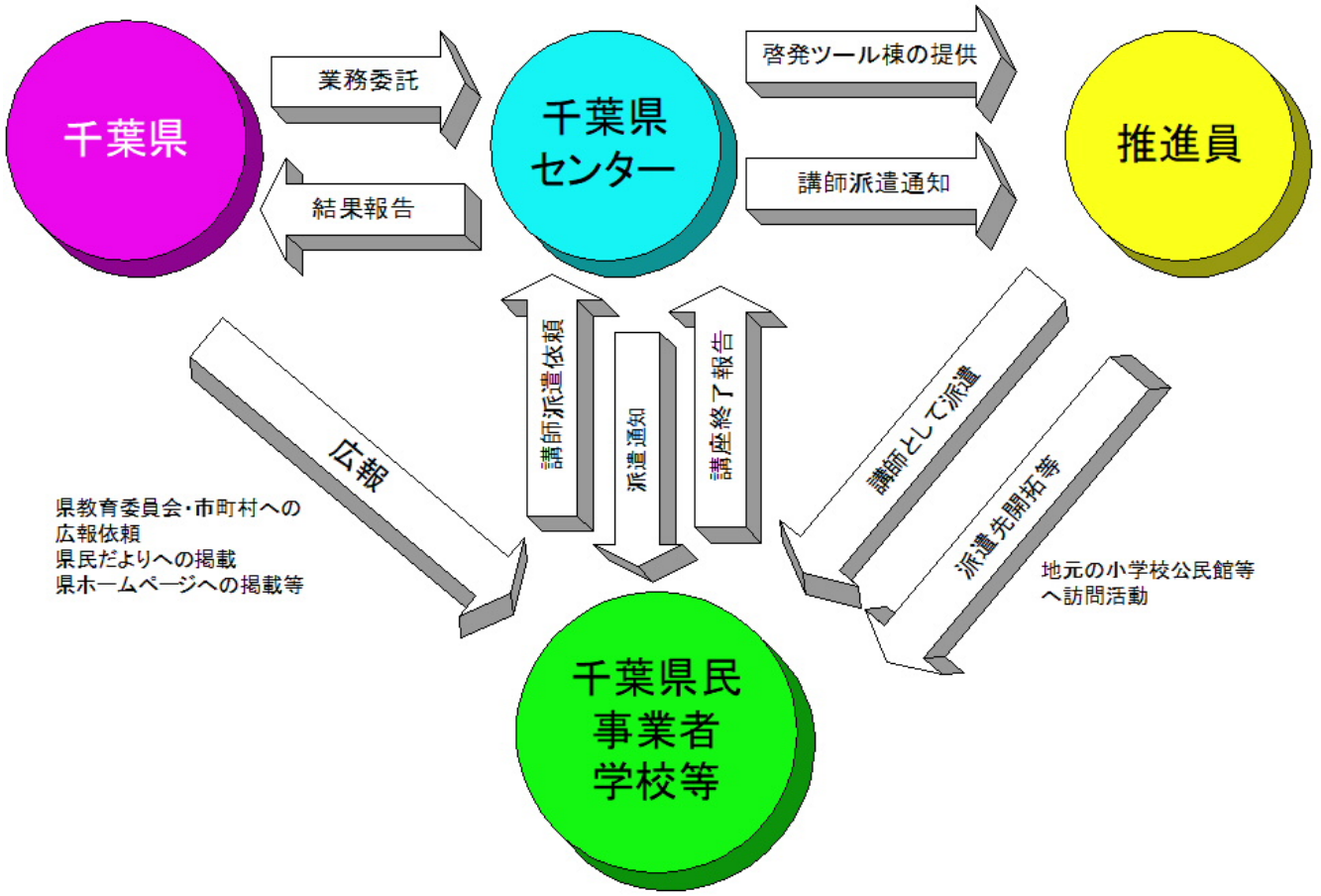
◯実施までの経緯

平成１８年当初は、推進員の活動の場として出前講座を開始し、次世代を担う、小中学生や公民館講座など地域に密着した講座を行っている。また、本県は首都圏への一大エネルギー供給であるとともに京葉コンビナートを有し消費地でもあるため、市民レベルでの温暖化防止の意識が希薄な面があるため、市民に対し地温暖化の問題や防止するための取り組みの重要性を伝え、実践してもらうことが喫緊の課題である

◯主な取組み

主に県内の小学校の総合学習の時間や公民館等の市民講座で活用して頂くために各主体への広報及びホームページの掲載内容の充実を図った。
広報等にあたっては、、プログラム集を同封または、添付し実施できる講義内容を明らかにすることで派遣依頼を申請しやすくした。
これにより、新規の派遣依頼が増加し、期待した結果が得られたが、依頼先と講師との調整が煩雑になり事務量が増加した。

◯地域とのかかわり方



◯活動の様子等

CO2CO2（コツコツ）スマート出前講座　プログラム事例集

1．子供向けプログラム

No. 1

所要時間	90 分　(1) スーパーしろくま物語　(2) エコ帽子作り
対象	小学生
参加者数（想定）	90 名（3 クラス）
テーマ	みんなで地球温暖化について考えよう
目的	・地球温暖化の問題に関心を持ってもらう。 ・家庭や学校生活などにおいて CO2 をあまり出さないようにする。
プログラム	(1) スーパーしろくま物語（3 クラス合同） （パワーポイントによる紙芝居　スライド 26 枚） ・どうして海に氷がはらないのかなあ？ 海に氷が張らなくてアザラシを捕まえに行けない。 ・海の水が、なぜ増えるのかなあ？ 毎年少しずつ、海の水が増えて島が海に沈んでしまうよ ・どうしてサンゴ礁が死にそうなの？ 海の中へもぐってみたら、サンゴ礁が死にそうなの。 お魚たちは生きていけない。 ・山の雪や氷が溶ける？ 雪や氷が少ない今はどんどん溶けてくる。 理由を調べて、みんなと一緒に考えよう。 (2) 牛乳パックを利用したエコ帽子作り（クラスごと）
関連リンク	

出前講座プログラム事例集（抜粋）

◯効果的な実施のための工夫等

・地元とのつながりが強い推進員が出前講座の営業をすることで、他県センターより多くの講座を実施し出来ている。

◯活動の成果

・平成30年度実績：派遣件数137件
・平成30年度実績：受講者数5,828人
・みなしCO2排出削減量：804（ｔ-CO2/年）
　算出方法：講座参加者数×原単位138（kg-CO2/年/人）
・小学校への派遣では、家に帰って家族で話し合い、みんなで省エネを行うようになった等の感想が寄せられている。

◯今後の課題・展望

講座メニューの充実（適応策、SDGｓ、地域循環共生圏）

第〇回　STOP！　地球温暖化まつり

八王子市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：環境イベント、省エネ相談

◯活動の目的

センターの知名度アップと、家庭における省エネ活動をはじめ、地球温暖化防止の普及啓発を行う。

◯実施までの経緯

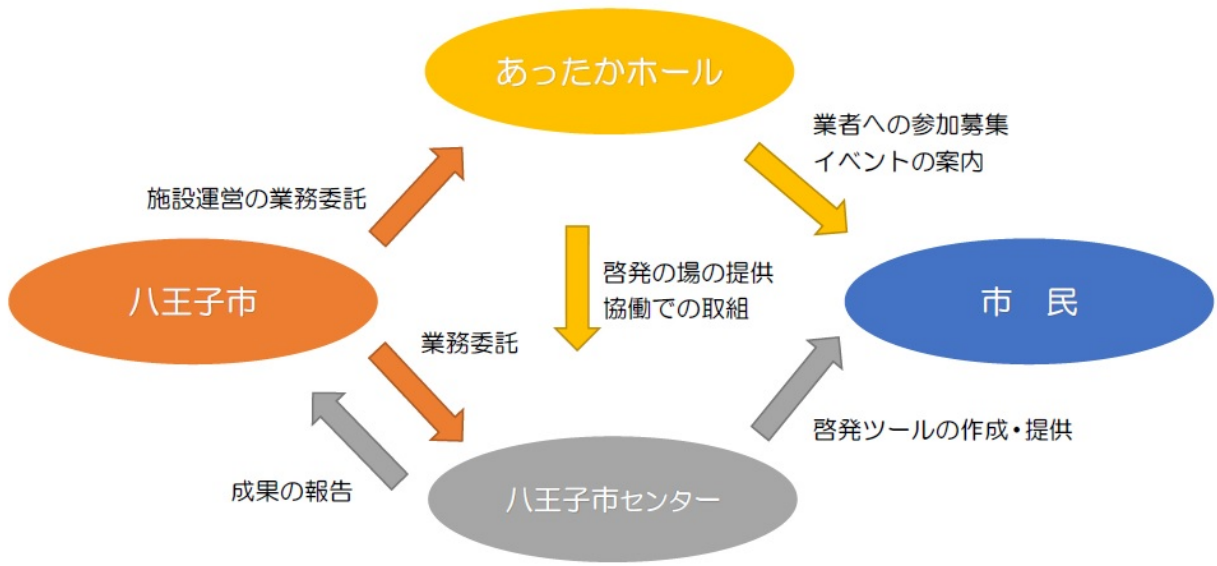
センターが入居する八王子市北野余熱利用センター（通称：あったかホール）は、偶数月の日曜日に1回、屋外においてフリーマーケットを行っており、屋内ではエントランスホールおよび多目的ホールにおいて、多彩な催し物が開かれている。
普段は、接点が少ない若年層が訪れる数少ない機会であることから、「まつり」と称して地球温暖化防止に関する催し物を行う。

◯主な取組み

年間を通じて環境に関するイベントや、家庭の省エネ講座をはじめとする省エネ等に関する講座を数多く手がけ、参加者は高齢者層が多く、省エネに対する意識が高い。
一方で、若年層の参加が少なく、この層への訴求が弱かった。この課題を解決するために、若年層が集まり易い日曜日のイベントに活動の場を設けることにした。
イベントは、八王子市北野余熱利用センターにおいて、偶数月の第1日曜日に、屋外で行われるフリーマーケットに合わせて、室内で出展する。
主に、センターの会議室を使用して出展場所としているが、来場者により多く訪れていただくために、会議室に加えて展示ホールのフロアに出展する場合もある。
内容は、子供達に夏バージョンは「うちわにお絵描き」、夏以外は「エコバッグのお絵描き」に参加、その間に親たちは「家庭の省エネ相談コーナー」において、COOL CHOICEをはじめ地球温暖化防止の活動対象者になる。

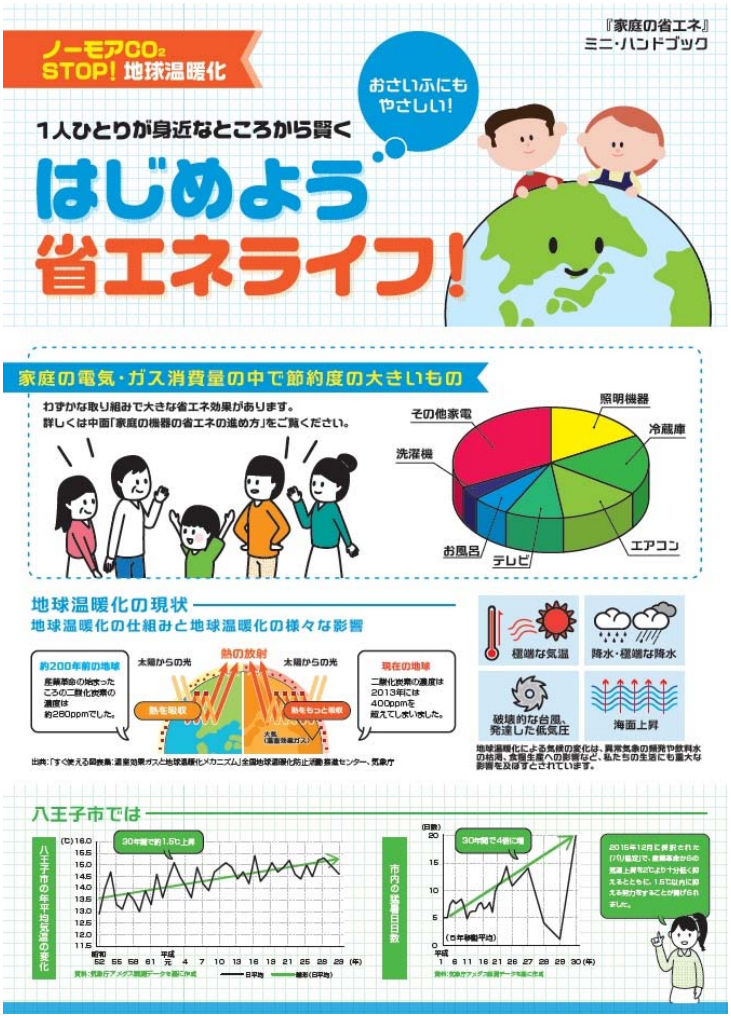
◯地域とのかかわり方

事業スキーム・地域とのかかわり方関連図



あったかホールのフリーマーケットおよび催し物に訪れる来場者（主に家族連れ）に、地球温暖化防止の普及啓発を行う。

○活動の様子等



省エネ相談コーナーで説明・配付したツール

親たちの省エネ相談コーナーでの様子

子供達によるエコバッグにお絵描きの様子

○効果的な実施のための工夫等

家族連れの来訪者が多く、子ども向けにエコバッグにお絵描きするコーナーを設けた。
単なるお遊びコーナーではなく、絵を描くエコバッグは何を意味しているかを、家族みんなに理解してもらい、集客力アップとエコの一石二鳥を狙った。

○活動の成果

実施日	COOL CHOICE賛同数	年間換算CO2排出削減量	動員数
7月8日	34枚	53t-CO2/年	384人
9月 2日	14枚	43t-CO2/年	314人
1月13日	13枚	22t-CO2/年	163人

○今後の課題・展望

来訪者は、リピーターが何割か占めているため、新規の来訪者を獲得する工夫が必要である。

夏休み自由研究週間

川崎市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：夏休み、小学生自由研究

○活動の目的

小学生を対象として、実験や工作、体験等の各種講座を開催し、若年層への環境を学ぶきっかけや場づくりを提供する。

○実施までの経緯

環境や科学を楽しく学べ、夏休みの自由研究や工作にも役立つ講座やツアーを開催した。推進員、民間団体が主体的に企画し、次世代へつなぐものである。また、期間中は、環境に関する自由研究の相談も行った。

○主な取組み

対象：小学生全児童
実施内容：実施方法）対象児童を対象に講座参加募集。
実施時期）2018年7月21日（土）～8月5日（日）　14日間
期待した成果：若年層の環境を学ぶきっかけ作り、場づくりの提供。
実施のために必要な準備、連絡調整（準備期間）：全26講座の講師との日程を含む調整及び広報等、開催迄の準備期間は約６カ月。
実施場所の確保：高津市民館の各会場を早期に予約。その他環境を学べる施設や企業等の訪問ツアー実施の為、訪問先の早期確定と依頼を実施。
連携先：各企業、市民団体、行政等。

○活動の様子等

○活動の様子等

夏休み講座の様子

○効果的な実施のための工夫等

・講師の企業や市民団体との連携はのみならず、各小学校や市内各施設へのチラシをメインとした広報活動のタイミングに留意した。（夏休み期間中であることを意識したスケジューリング）

・当センターの所在する好立地条件（駅前且つ商業施設（マルイ）の上）も活かした集客。

○活動の成果

・講座については、毎年多くの応募実績があり、今年度は、申込み人数1,890名　申込件数3,066件となり定員を上回る応募となった。また、実際の参加率は約84%と、大幅な欠席実績はみられなかった。

・全27講座実施動員数：参加者660名　見学者389名　講師109名　スタッフ70名　合計　1,228名

・参加者の小学生のみならず、見学や付き添いの保護者に対しても環境問題への訴求が行えた。また、参加者や見学者に対しては、COOL CHOICE宣言の賛同をよびかけ、参加者数を上回る実績を得られた。

○今後の課題・展望

環境に取り組んでいる企業との連携。

グリーンカーテン下越地域協働プロジェクト事業

新潟県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：グリーンカーテン、市との連携

○活動の目的

各市で実施しているグリーンカーテンの取組をより効果的に実施するため、新潟県センターの呼びかけで下越地域４市と推進員が参加して協働プロジェクト事業を実施した。

○実施までの経緯

新潟県センターでは以前から県内市町村に呼びかけて「グリーンカーテンプロジェクトinにいがた」の取組を行ってきた。しかし最近は、「取組が温暖化対策の啓発につながっていない」「地域での活動が広がらない」「事業の構築が難しい」などの意見が市担当者や推進員からもあったため、センターと県北の４市（村上市、胎内市、新発田市、五泉市）が協議会を立上げ、活発な取組を行っている新発田市が中心となり各市のグリーンカーテンプロジェクトの活性化を図った。

○主な取組み

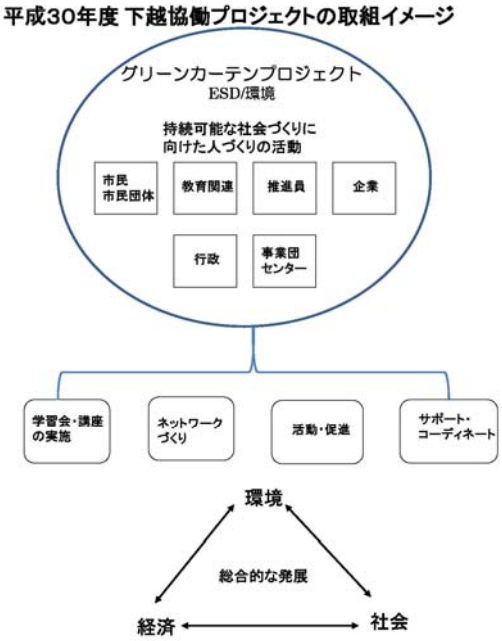
センターと４市（村上市、胎内市、新発田市、五泉市）の市担当者、推進員が参加して協議会を設置し、意見交換会を実施した。
４市ともこれまで独自にグリーンカーテンの取組を実施してきたため、参加した市担当者、推進員とも活動の活発化に対する関心が高く、新発田市のこれまでの活発な取組内容や推進員・行政の役割などを聞き、各市の事業の参考とした。
さらに各市の事業にも相互に推進員が協力・連携していくこととした。

H30.2（第１回目）各市での取組（活動、周知、効果、問題点）
H30.4（第２回目）30年度の事業計画の発表
H30.5-10　各市での活動の実施
H31.1　　30年度の活動のふりかえり

○地域とのかかわり方

平成30年度 グリーンカーテンの取組を実施している市町村

平成30年度 下越協働プロジェクトの取組イメージ



○活動の様子等

保育所などの子ども向けの啓発用に作成した環境紙芝居

一般向けのグリーンカーテン講座のテキスト

当センター作成のガイドブック。毎年、約2000冊を配布している。

○効果的な実施のための工夫等

①意見交換会では保育所などでグリーンカーテンの啓発を行うためツールの作成が提案され、市担当者と推進員の協力により手作りの「環境紙芝居」が作成された。作成した環境紙芝居は各市の保育所などで広く活用された。
②胎内市をモデル地域として市と推進員が連携するとともに、センターや他市の推進員の協力を得ながらグリーンカーテンの取組の充実と強化を図った。その他の3市については、これまでの活動の加えて、グリーンカーテン講習会の実施などの新しい取組を行うこととした。
③各市のグリーンカーテンの取組やイベント情報を取りまとめて関係者に発信し、お互いが協力・参加しやすい環境を提供した。

○活動の成果

①胎内市では、新発田市のゴーヤ大使（お笑い芸人）から「かんきょうの話」「グリーンカーテンの取組の意味」を保育所でお話をしてもらい、園児の意識変化や率先的な行動につながった。また、ゴーヤの収穫後には園児に食育学習やエネルギーの学習を行い、さらにへ園児が「伝え手」となることで関心を持つ家庭が増えた。推進員もグリーンカーテンの育て方やその意義の伝え方のスキルを学び自信を持つことができた。
②村上市では、推進員がグリーンカーテンの育て方講座・料理教室などを実施し、温暖化対策の啓発を行った。五泉市では、市民や団体に向けて内容を工夫してグリーンカーテンの講座を行った。また、新発田市では、全保育所にグリーンカーテンを設置し、併せて推進員が中心となって生育管理の指導を行った。また、市内からの応募に限定していた「レシピコンテスト」は広く県内からの応募を可能とすることで情報発信を強化した。これら新発田市の取組は評価を受け、地球温暖化防止活動環境大臣表彰を受賞した。

○今後の課題・展望

協議会での検討と活動を通して、グリーンカーテンの取組についてセンターと市町村・推進員の総合的な連携と活発化が図られた。この成果により、さらに次年度の活動も活発になってきている。

やまなし環境教育ミーティング
～地域の自然を活かした教育／暮らし／仕事～

山梨県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：ネットワーク構築、協働・共創

○活動の目的

県内における地域の自然を活かした魅力的な教育・暮らし・仕事をしている人たちのネットワークの推進及び連携による協働・共創の深化・拡大。

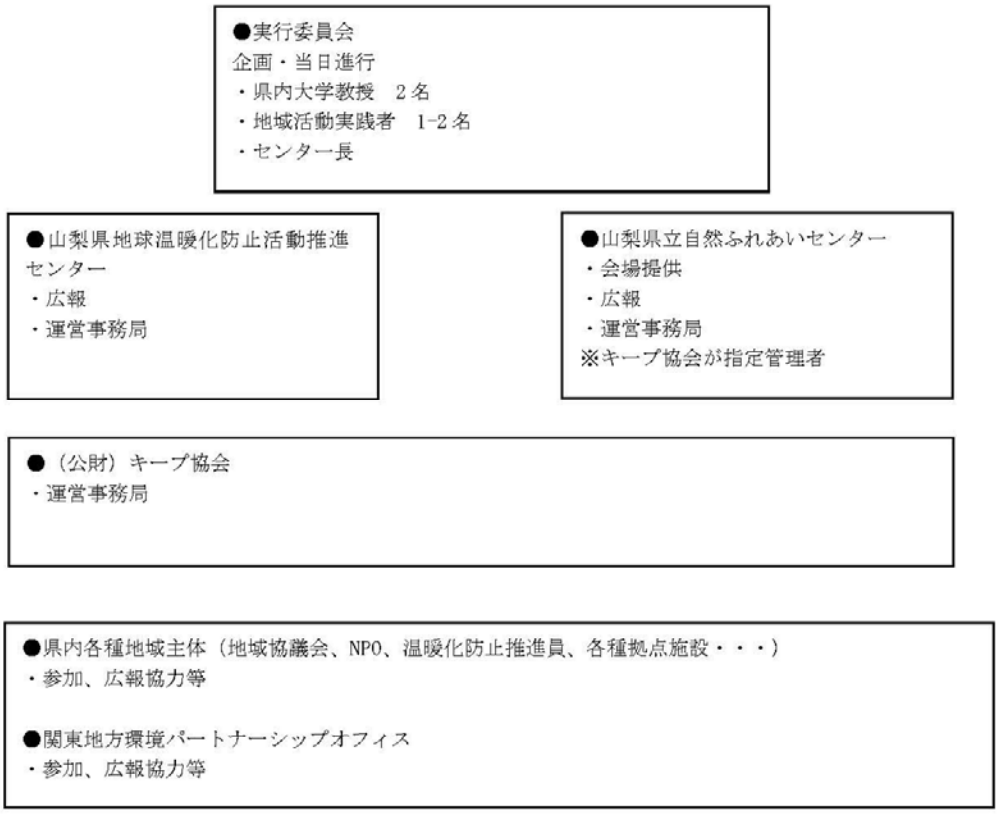
○実施までの経緯

県内では、地球温暖化防止、自然体験、エコツーリズム、森のようちえん、リユース食器の推進等多くの全国レベルでの先進事例がある。しかし、互いに知っている段階にとどまり、より協働と共創をすすめる基盤づくりが課題であった。全国の環境教育等のネットワーク構築の実績のあるキープ協会がセンター指定を受けたことを機に、県内有識者と共に実行委員会を組む形で2016年度から開始した。

○主な取組み

本事業テーマに広く関心のある方を対象に毎年3月に60～90名にて日帰りの形で実施。主な内容は、パネルディスカッション、参加者による事例紹介（ブース）、全体会。半年前より実行委員会を数回実施。会場は、山梨県立八ヶ岳自然ふれあいセンター。同センターと実行委員会との共催事業。実行委員会には、県内大学教授、県内実践者が参画。地球温暖化防止活動推進員、NPO、各種地域実践者をはじめ、行政、大学、学校関係者、県内拠点施設管理者、関東地方環境パートナーオフィス等が参加。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

○効果的な実施のための工夫等

キープ協会の環境教育ネットワークの構築の中で培われた、ネットワーク集会の運営ノウハウが「ワーキングネット（つながるだけでなく、実際に機能する意味のあるつながり）」が、本事業の目的達成のために有効に機能している。名札の工夫、交流を促すファシリテーション、つながりのうまれる場のデザイン（時間・空間・関係性）、「えんたくん」などのツール活用等が、相互のつながりと協働・共創を生み出すために機能している。

「温暖化防止」を前面に出していないことで、幅広い関心層がつながる機会を生み出している。また、実行委員やキープ協会とつながる各種ネットワークがつながりの幅を広げている。

○活動の成果

本事業は狭義の「温暖化防止」活動と地域の自然に根差した教育・暮らし・仕事をしている人達との協働・共創の基盤を作る機会である。実際につながり動きが起きていることに大きなメリットがある。顕著なものとしては、第2回のミーティングをきっかけに発足した「山梨マイクロプラスティック削減フォーラム」がある。海と面していない県では、全国に先駆けて市民連携によりこの波が生まれていることはSDGｓの視点からも大きな成果のひとつ。県内関係者同士のため、相互の現場に足を運びやすく、各種協働事業や相互交流の報告がされている。温暖化防止活動の普及啓発機会が、森のようちえんや地域拠点施設等とつながっていくことが意義深い。

○今後の課題・展望

本事業は、現在も年に1度継続的に実施される。開催場所が県北西部のため、東部富士五湖地方からの参加がしづらい状況がある。
また、参加層のさらなる広がりをどのように生み出していくかも課題のひとつである。

プロサッカー・ラグビーチームとのコラボレーションによるCOOL CHOICE啓発

静岡県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：スポーツチーム,無関心層

○活動の目的

来場者にCOOL CHOICEについてチラシやポスターを活用しての周知を図り、COOL CHOICE宣言募集を集中的に行いたい。

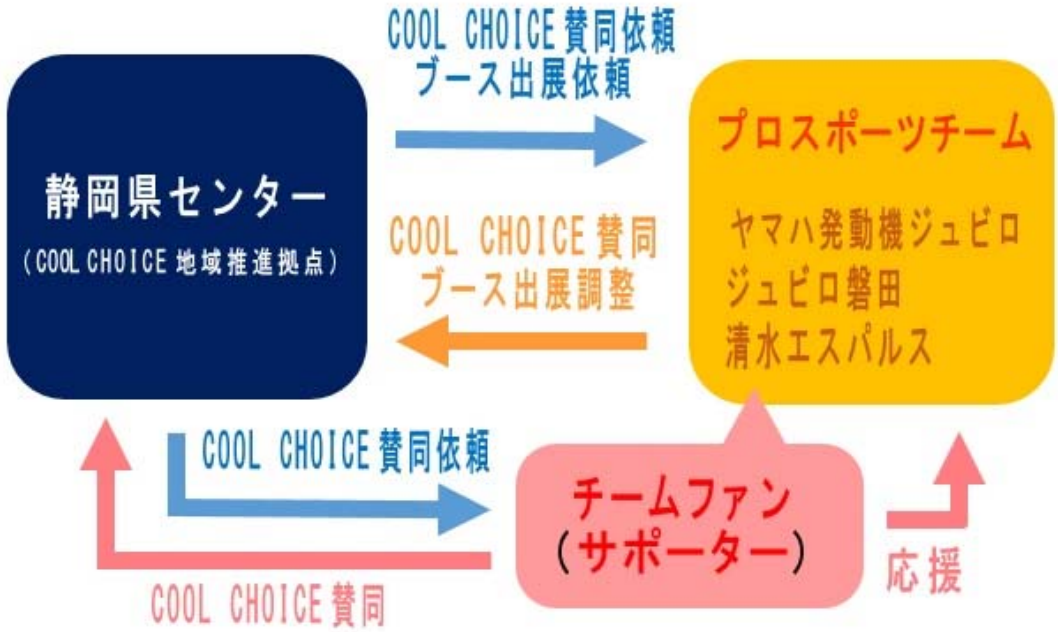
○実施までの経緯

スポーツの公式戦会場へは、環境問題等無関心層も含め多数の来場者があり、一度に多くの方への情報発信が可能。また、特に次世代を担う若年層に対して、温暖化がスポーツ環境へどう影響するかを知る機会となるよう展示や呼びかけを行うことで、温暖化の影響や適応策を身近に感じてもらうため。

○主な取組み

以下3会場でCOOL CHOICE　PRブースを出展、COOL CHOICEについての掲示物や宣言を来場者に案内。スポーツやチームと温暖化・エコの関係も掲示した。
（②の会場のみ大型ビジョンでCOOL CHOICEのPRも）
①7/13（土）ラグビートップリーグ　ヤマハ発動機ジュビロの試合会場（磐田市）
②7/20（土）サッカーJ1リーグ　ジュビロ磐田戦の試合会場（袋井市）
③9/13（金）サッカーJ1リーグ　清水エスパルス戦の試合会場（静岡市）
・対象：プロスポーツ観戦者
・成果：実際のCOOL CHOICE宣言獲得数は以下の通り。（）内は目標。
①344人（700人）　②1,215人（1,000人）　③1,481人（1,000人）
■計3,040人（2,700人）
・調整：6月から随時準備、各プロスポーツチームと連絡調整
・その他：今年度は③のエスパルスとも地域促進事業でも連携した。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

会場での啓発の様子

○効果的な実施のための工夫等

◎各会場でスポーツと気候変動の繋がりを見せる広報・展示（熱中症などのスポーツシーンに及ぼす影響など）を行うことで無関心層へのPRをはかる
◎サポーターの興味喚起のため、チームの環境活動も紹介する
◎COOL　CHOICE賛同カードをなるべく簡易なものにし、宣言、とわかりやすく言い換えて賛同者を募った。
◎お互いの宣言をチェックし、今後の話題や取組みチェックに繋げるため、家族や仲間と一緒に賛同していただけるよう声掛けを行った。
◎宣言カードに具体的取組を羅列し、行動への意識を促した。
◎サポーター巻き込み型のチームのエコ活動なども紹介。

○活動の成果

・ブース来場者数
　①2,865人　②23,060人　③1,481人
・COOL CHOICE宣言獲得数
　①344人②1,215人③1,481人
　　計3,040人
◎地元チームへの（金銭の協賛ではない、協力・連携）新しい応援の提示ができた。
◎来場者には、子供さんも多いため、次世代への意識啓発がかなった。

○今後の課題・展望

プロスポーツでも他の種目、またはユースや学生・社会人チームにも広げていきたい。

県民運動アプリとの連携

静岡県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：スマホアプリ,再配達防止

◯活動の目的

地域促進事業における、COOL CHOICE賛同・再配達防止事業アンケート・検針票募集を、県民運動アプリと連携して行うことにより、幅広い層の県民にアプローチをかける。

◯実施までの経緯

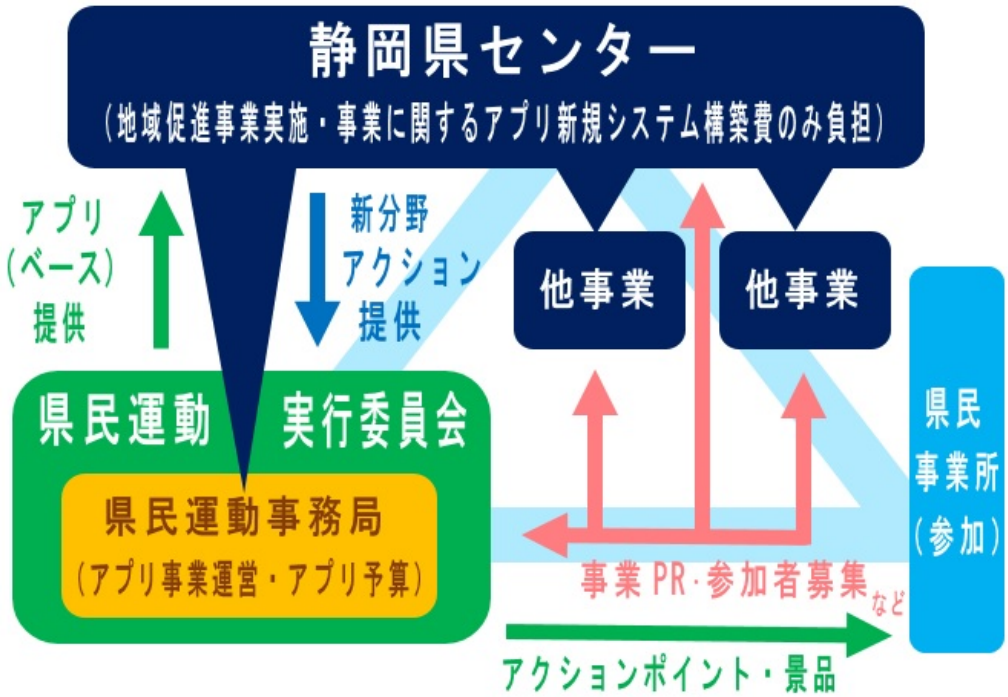
2018年度より県民運動アプリ事業がスタートしており、連携することにより、本事業の実施費用を抑え、かつ相互にPRを行うことで相乗効果が見込めるため。

◯主な取組み

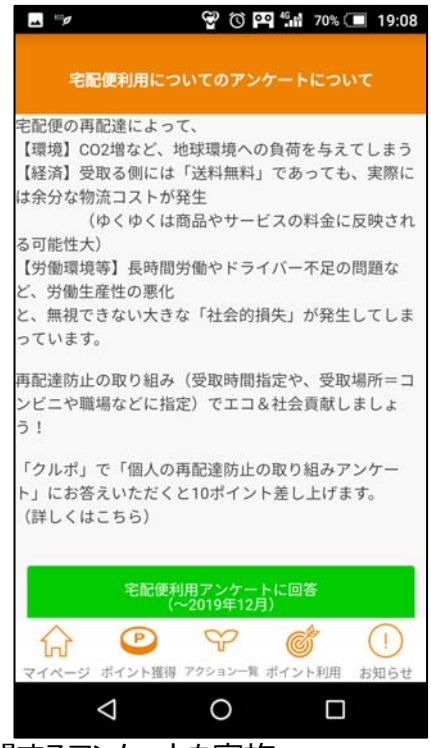
県民運動アプリ「クルポ」を介して、以下を実施中。
①COOL CHOICE賛同（宣言）の募集→参加者に10ポイント付与
②再配達防止事業アンケートの募集→参加者に10ポイント付与
③電気・ガス検針票（7-12月）の募集→参加者に5ポイント付与

対象：県民
準備：6月～調整開始、随時微調整など
期待成果：①昨年度より継続実施中：1,500件以上/10月中旬現在（目標：3,000件）
②新規で実施中：1,000件以上/10月中旬在（目標：50件）
③昨年度より継続実施中：未集計（目標：1,000件）
連携先：ふじのくにCOOL チャレンジ事務局

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等



アプリ上で再配達に関するアンケートを実施

再配達防止事業ちらし

職場受け取りのメリット紹介

○効果的な実施のための工夫等

◎アプリのポイント付与（30ポイント貯めるごとに抽選でき、当選すれば賞品がもらえる）。
◎県民運動と連携し、それぞれの事業紹介時に（イベント・営業等）、互いの事業PRを加えた。
◎③については、モバイル端末からの添付作業などが難しい高齢者層（推進員など）には、用紙で完結できるフォームも案内している。
◎アプリのポイント付与（30ポイント貯めるごとに抽選でき、当選すれば賞品がもらえる）。
◎ ②については、再配達防止についての情報をまとめたホームページを作成、アプリでアンケート入力前に閲覧を促すメッセージをつけた。
◎県民運動事務局を静岡県センターが長年担っているため実現した。県民運動の新規分野開拓ニーズと、本事業の実施のため必要なネットワークのニーズを満たす良い関係を構築している。
◎県民運動事務局との連携
◎センター他事業での告知連携も可能

○活動の成果

◎地域促進事業における①②③の事業におけるPRで県民運動アプリについての紹介ができ、また県民運動事業でアプリのPRの際に、アクションの幅を広げて案内ができる。
◎参加者側もどちらかを知り、それをきっかけにもう一方についての情報を得て、行動を起こす機会となる。

○今後の課題・展望

◎ポイントアップやより取組みやすいアクションでCO2削減と削減量把握を求めたい

省エネフェア

浜松市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：省エネ家電,スタンプラリー

◯活動の目的

普段温暖化防止に関心のない層に対して、環境問題や地球温暖化防止を知ってもらうためのきっかけをつくる。

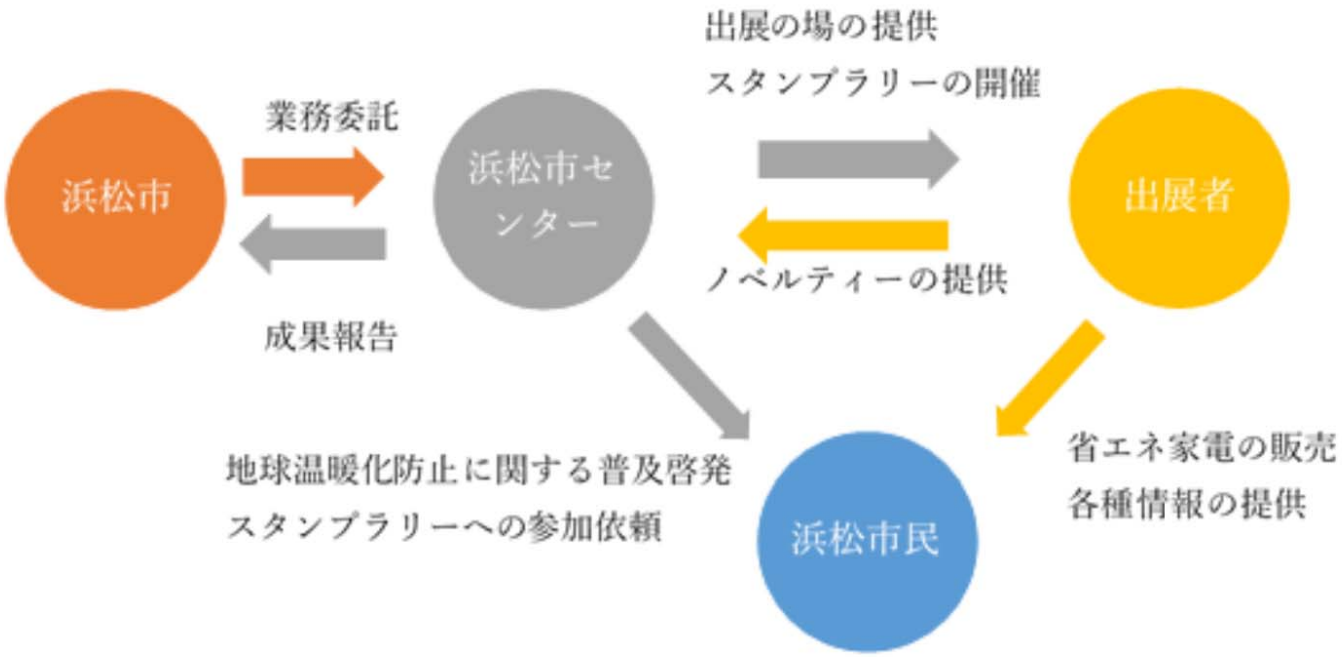
◯実施までの経緯

地球温暖化に関心のない市民への訴求

◯主な取組み

市内の事業者や団体から出展者を集め、地球温暖化防止に関する展示会を実施した。目的達成のためには地球温暖化防止活動に関心のない不特定多数の人が集まる場所での実施が最も効率的と考えられることから、市内の大型商業施設内にてイベントを開催した。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

開会式

○効果的な実施のための工夫等

・各出展者のブースを回り、何が展示してあるかを知ってもらうため、スタンプラリーを開催、各ブースで出されるクイズに答えてもらう方式とした。
・出展料は無料とする代わりに、スタンプラリーの景品として利用可能なノベルティーの提供を出展者に依頼した。
・各出展者のブースを回ることで自然と地球温暖化防止の知識を吸収できる形とした。
・会場との交渉に当たっては、市主催のイベントで公共性の高いものである点をPR。

○活動の成果

・市民１，０００人程度への啓発を目的として計画し、実際に１，０００人程度がイベントに来場した。
・回ったブースの活動や商品に関心を持った来場者が、後日、それらを実施したり、購入したりすることで、温暖化防止に貢献する。

○今後の課題・展望

不特定多数の人が集まる大型商業施設で実施したにも関わらず、老若男女問わずたくさんの市民が来場した。事前の予想を超える来場者がいたこともあり、出展者の中には、用意していた物品等が途中で終了してしまうケースが散見された。

とやま環境フェア2018

富山県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：環境イベント、異業種連携

○活動の目的

企業・団体の環境保全活動の見聞や、環境に配慮した実践事例の学習・体験などを通じたエコライフの定着・拡大

○実施までの経緯

京都議定書の採択や温暖化対策推進法の施行等を受け、県民の環境保全意識の高揚やエコライフの定着を図る必要があったことから、1998年に第１回となる環境フェアを開催し、以降毎年、県、市町村、企業、団体等が連携した県内最大の環境イベントとして開催している。

○主な取組み

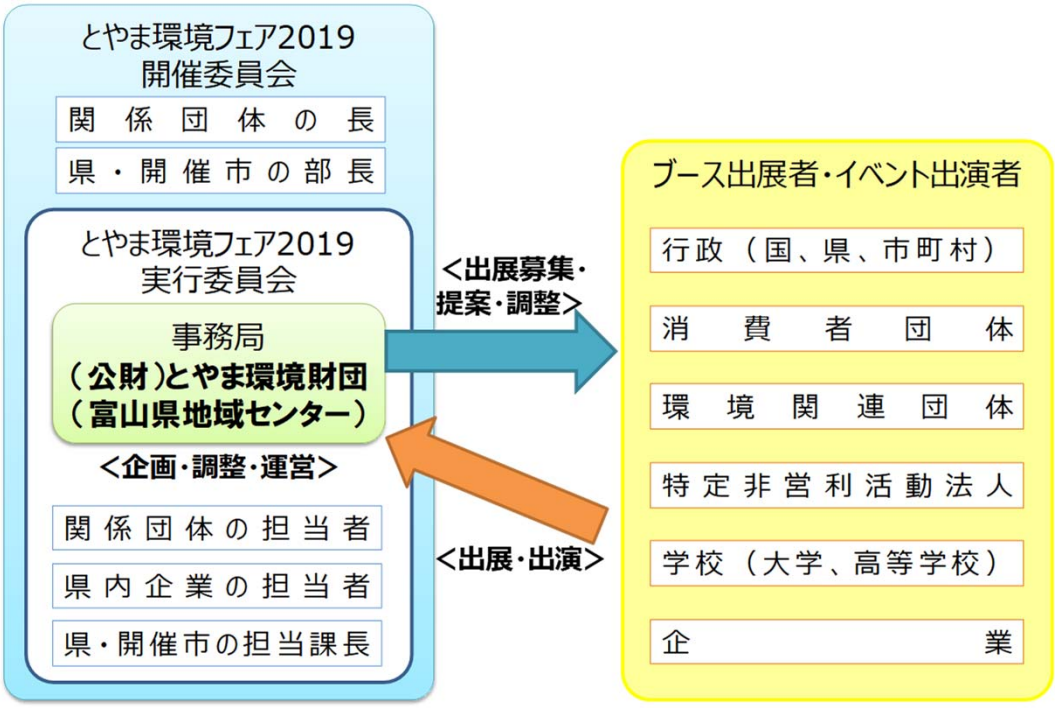
県民に循環型・低炭素社会づくりに向けた取組み事例を紹介するとともに、３Ｒ推進全国大会を機に、３Ｒの取組みなどエコライフについて楽しみながら見聞・体験するイベントを開催し、家庭等における実践拡大を図った。

・ 開 催 日　平成30年10月13日(土)、14日(日)
・ 開催場所　高岡テクノドーム（富山県産業創造センター）
・ 内　　容　ブース展示及びステージイベント等

＜ブース展示＞
地球温暖化対策、環境保全に対する取組み、エコライフ、３Ｒへの取組み等の紹介、親子で体験コーナー、地球温暖化防止活動推進員ブース、次世代バス・自動車展示等、65企業・団体が出展

＜ステージイベント＞
富山県ごみゼロ推進県民大会、工作ショー、エコな科学実験教室、キャラクターショードラえもん、わくわく抽選会、地元団体によるパフォーマンス　等

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

２日間で約11,500名が来場した。

来場者にCOOL CHOICE等について知ってもらうため、会場入口に大型パネルを設置した。

○効果的な実施のための工夫等

・特に小・中学生等を含む家族連れの来場者の増加を図るため、学校へのチラシの配布等、子ども向けの周知を強化した。
・親子等がエコライフについて楽しみながら学習できるよう、体験型イベントの充実を図った。

○活動の成果

・参加者数約15,000人
・小学生向け新聞（県内全ての児童に配布）にて開催告知を行うことで、小学生及びその親に対して効果的に周知を行うことができた。

○今後の課題・展望

フェア全体としてのテーマや方向性を出展者と共有することで、参加者への普及・啓発効果を高めつつ、経費の節減に努めながら、今後とも参加者の増加を図るため、魅力あるイベントとなるよう今以上の検討が必要である。

いしかわ環境フェアとタイアップした普及啓発

石川県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：環境イベント,夏休み,発電体験

◯活動の目的

未来のためにクールチョイス'をテーマに開催したいしかわ環境フェア２０１８に県センターブースを出展し地球温暖化防止活動やCOOL CHOICEの普及啓発等を推進

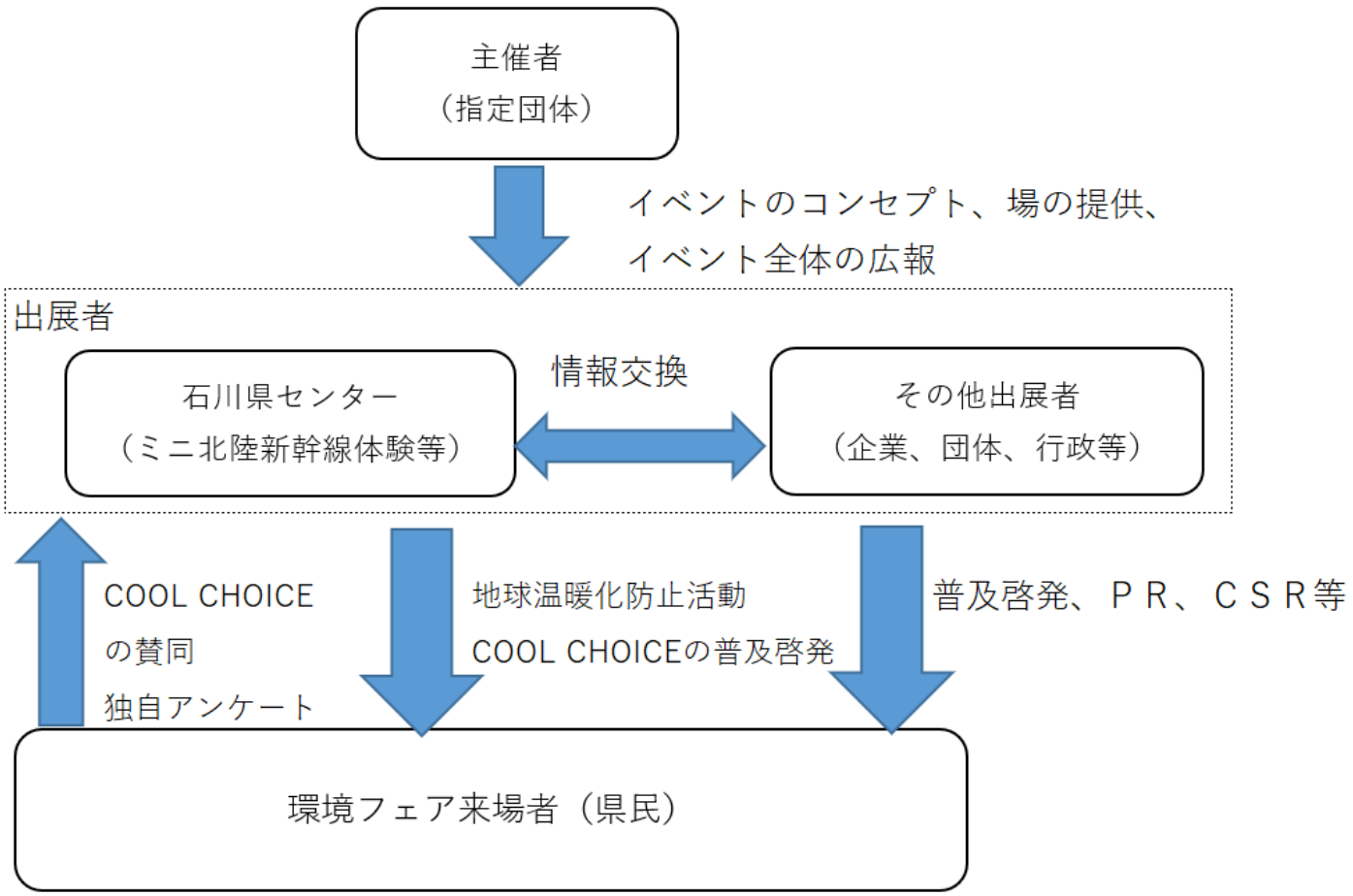
◯実施までの経緯

いしかわ環境フェアは、環境に関する様々な展示、体験やステージイベントを通して楽しみながら一と環境との関わりについて理解を深め実践していく契機となることを目的に１９９０年から開催している県内最大の環境イベントであり、県センターとして多数の県民に地球温暖化防止やCOOL CHOICEについて普及啓発が可能

◯主な取組み

・毎年夏休み中の８月に開催されるイベントで、CO2削減取組ゾーンにセンターとして参加
・親子連れでの来場者中心と予想させることから、親子で人力発電のミニ北陸新幹線を体験してもらい、電気の有難みや日常生活で使用している電化製品との電力量の比較を実感してもらった。
・人力発電体験終了者に今後取り組む活動をパネルに貼り宣言してもらいCOOL CHOICEの紹介・賛同を募った。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

人気のミニ北陸新幹線を体験

COOL CHOICE普及啓発コーナー

COOL CHOICE賛同の様子

○効果的な実施のための工夫等

・COOL CHOICEの普及啓発のためブースでの紹介のほかクイズラリーや来場者アンケートを兼ねた賛同票を使用
・従来から実施していたクイズラリー兼来場者アンケートを賛同票を一体化させることでクイズラリーの景品を賛同のインセンティブとして活用

○活動の成果

・ミニ北陸新幹線は、２日間で252組1,192人が体験
来場者アンケートを兼ねた賛同票で、3,239人が賛同(目標2,300人以上)　（H29　2,296人）
・センター事業ではないが、国連大学サステナビリティ高等研究所、地元大学や環境カウンセラーズ石川と協同でＳＤＧｓのワークショップを開催

○今後の課題・展望

・イベントでの普及啓発のため、効果を持続させる方策の検討が必要
・一般家庭だけでなく企業や団体等への働きかけの強化

COOL　CHOICE落語による啓発

福井県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：落語,ラジオ

◯活動の目的

特に、COOL CHOICEに関心が薄い高齢者に対して落語を通して身近な事からできるCOOL CHOICEを伝え、賛同の拡大を推進する。

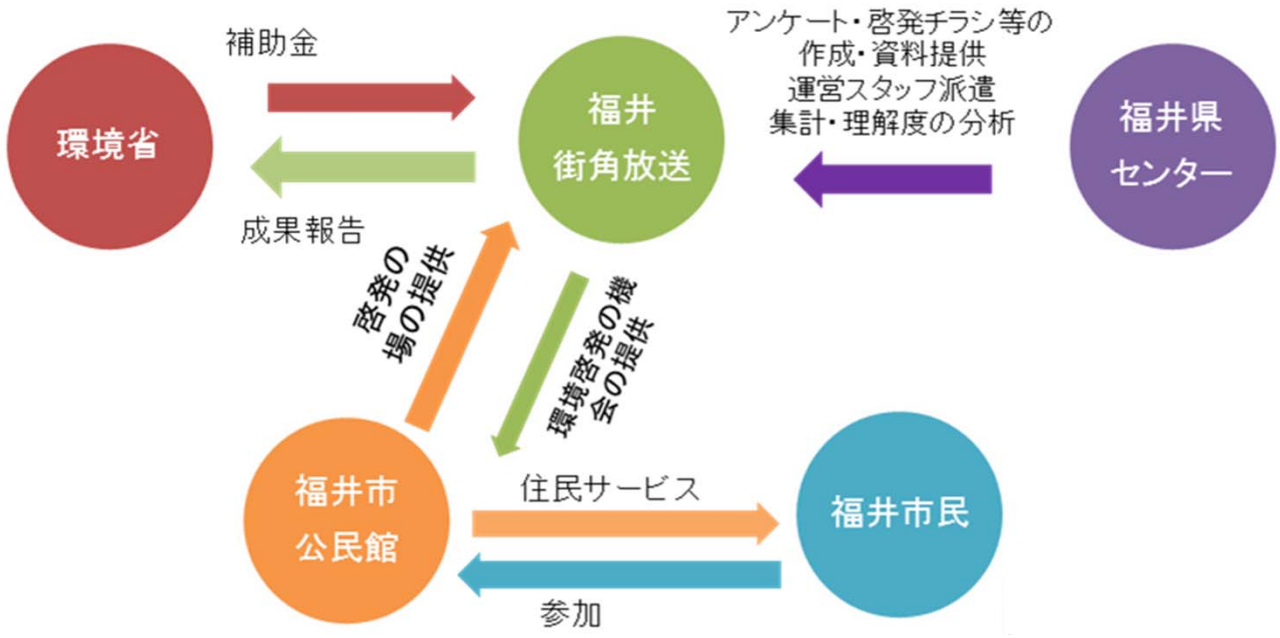
◯実施までの経緯

福井市民は、地球温暖化防止や省エネに対する意識が有るにもかかわらず、国民運動「COOL CHOICE」の認知度は必ずしも高いとは言えない。また、家庭部門、業務部門の温室効果ガス削減40%の認識も低く、二酸化炭素排出削減の取組がまだ浸透していない。(2017年申請)
コミュニティ放送のCOOL　CHOICE事業としてアマチュア落語家でもある街角福井放送株式会社代表の鳴尾氏によるCOOL　CHOICE落語での啓発活動をすることになった。

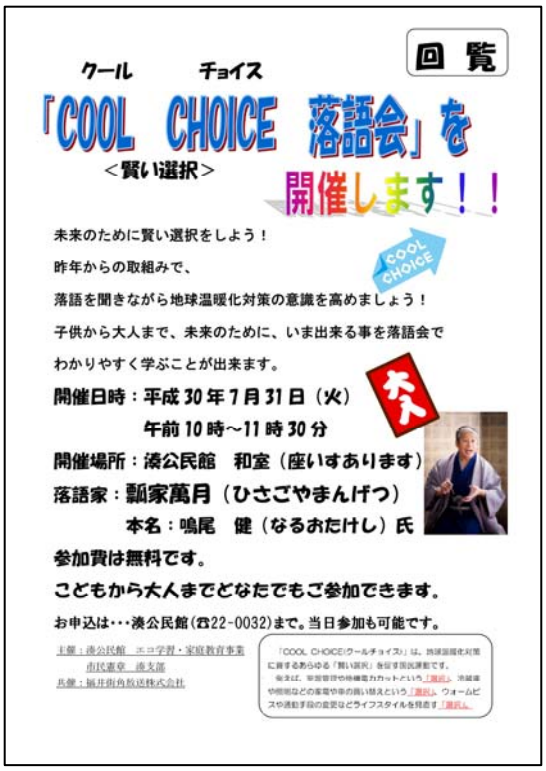
◯主な取組み

- 季節に応じて月別のCOOL CHOICEのテーマを選定する。
  クールビズ/省エネ住宅/省エネ機器の買換促進/照明の効率的な利用促進/
  エコドライブ/ウォームビズ
- 月別のCOOL CHOICEのテーマに応じた「落語調」のラジオスポットを制作、毎日複数回放送する。
- 「COOL CHOICE落語」を創作し、福井市内の公民館で地域住民に披露する。
  落語は、月別テーマに応じて創作し、福井市在住のアマチュア落語家・瓢家萬月が福井市内の公民館・小学校で毎週一回程度、落語会を開催し披露する。市内公民館には行事としての開催を依頼。
  準備期間:採択日より3週間程度
- 落語前後に２回COOL　CHOICEアンケートを実施する。
- 公民館で披露した「COOL CHOICE落語」をラジオで放送する。
- 地元企業に対してCOOL CHOICE賛同の拡大を図る。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等



地域に配布された公民館作成のチラシ　福井市在住のアマチュア落語家・瓢家萬月氏によるCOOL　CHOICE落語

○効果的な実施のための工夫等

・季節に応じてCOOL CHOICEのテーマを変えた。
　7月　クールビズ実施の推進（冷房時の室温28℃など）
　8月　省エネ住宅の普及促進
　9月　省エネ機器の買換促進（LED他、省エネ機器への買換促進）
　10月　照明の効率的な利用促進（照度調整、電灯の間引き・ライトダウンなど）
　11月　エコドライブの推進（11月は「エコドライブ推進月間」）
　12月　ウォームビズ実施の推進（暖房時の室温20℃など）

・月別のCOOL CHOICEのテーマに応じた「落語調」のラジオスポットを制作、コミュニティFMで60秒×2回／1日を日常的かつ継続的に通年にわたり放送した。
・落語の前後にCOOL CHOICEに関するアンケートを実施し、認知度等の変容を確認した。
・各公民館で披露した落語を収録し、7月～12月の毎週土曜日の早朝（高齢者の聴取が多い時間帯）にラジオ番組として放送する事によりCOOL CHOICE認知度を高めた。
・福井街角放送の株主（約100社）やスポンサー企業をはじめとする地元企業に呼掛け、COOL CHOICE賛同を宣言してもらった。
・落語はCOOL　CHOICE落語の他、更に１席古典落語を披露し、住民に対してもインセンティブがあり、参加率が高くなった。
・落語は、月別テーマに応じて毎月一席（計六席）創作し、福井市在住のアマチュア落語家・瓢家萬月が福井市内の公民館で毎週一回、落語会を開催し披露する。
・落語会開催に際し公民館は地域住民が集まる機会に別事業と組み合わせて同時開催するなど工夫を行なってもらった。

○活動の成果

・29カ所（7～12月の6カ月間×毎週1回）に実施、計1101人の参加者。

令和元年度　県下一斉ノーマイカー通勤ウィーク

長野県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：ノーマイカー、公共交通機関の利用促進

○活動の目的

マイカー通勤者が、公共交通機関の利用又は徒歩、自転車といった「環境にやさしい通勤手段への転換」と「日常生活の中で体を動かす」きっかけづくり

○実施までの経緯

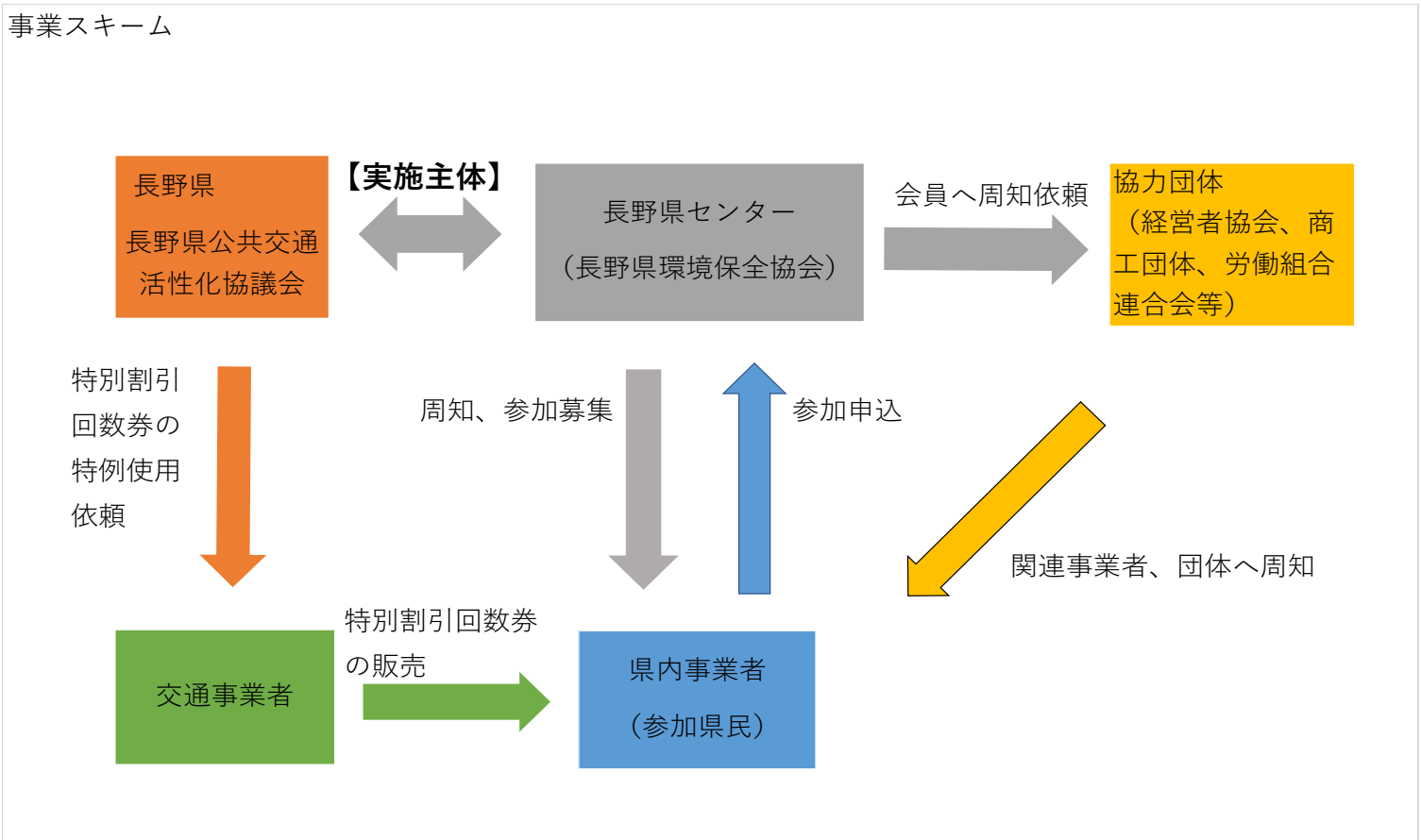
本県は自動車等の運輸部門から排出される温室効果ガス排出量の割合が全国の割合に比べて高く、この部門における対策が重要となっています。また、健康長寿世界一を目指して健康づくりの県民運動「信州ＡＣＥ（エース）プロジェクト」を推進しており、通勤時のマイカー利用を自粛し、公共交通機関や徒歩、自転車といった環境にやさしい通勤手段への転換と、体を動かすきっかけとするため、特定の期間にノーマイカー通勤を実施しています。

○主な取組み

自動車から排出される温室効果ガスの削減対策として、普段マイカー通勤している方に、実施期間中、1日以上、マイカー通勤を自粛し、バスや電車などの公共交通機関の利用、徒歩、自転車、相乗り等により「ノーマイカー通勤」を実施いただきます。「環境にやさしい通勤手段への転換」だけでなく、健康長寿世界一を目指す長野県では、「日々の生活の中で体を動かす」きっかけづくりにも、と呼びかけています。

○地域とのかかわり方

事業スキーム



○活動の様子等

参加事業所募集に使用したチラシ（左：表面、右：裏面）

○効果的な実施のための工夫等

過去に参加実績がある事業所へ積極的な参加をメールや郵便による呼びかけ、この事業のもう一つの目的でもある「日常生活の中で体を動かす」きっかけづくり（健康づくり県民運動「信州ACE(エース)プロジェクト」）の観点から県内事業所の約4,000所が加入している全国健康保険協会長野支部発行のメールマガジン「協会けんぽ」への掲載を新規参加事業所の開拓も兼ねて行いました。

○活動の成果

・52.0t-CO2
　過去に実施したデータを用いて、マイカーから転換した通勤距離を推計して算出
・参加事業所数：87事業所、参加人数：8,098人

○今後の課題・展望

長野県は広いため、公共交通の運行や整備の関係上、毎年参加事業者がほぼ同じになってきた。今後も県下一斉に取り組むためには、新規事業所の参加と内容の見直しも必要な時期にきている。

親子環境学習会　自然エネルギー普及シンポジウム

長野市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：シンポジウム,自然エネルギー

○活動の目的

自然エネルギーと私たちの生活について、こどもから大人まで一緒に勉強し、自分は何ができるのかを考える契機となる場を提供する。

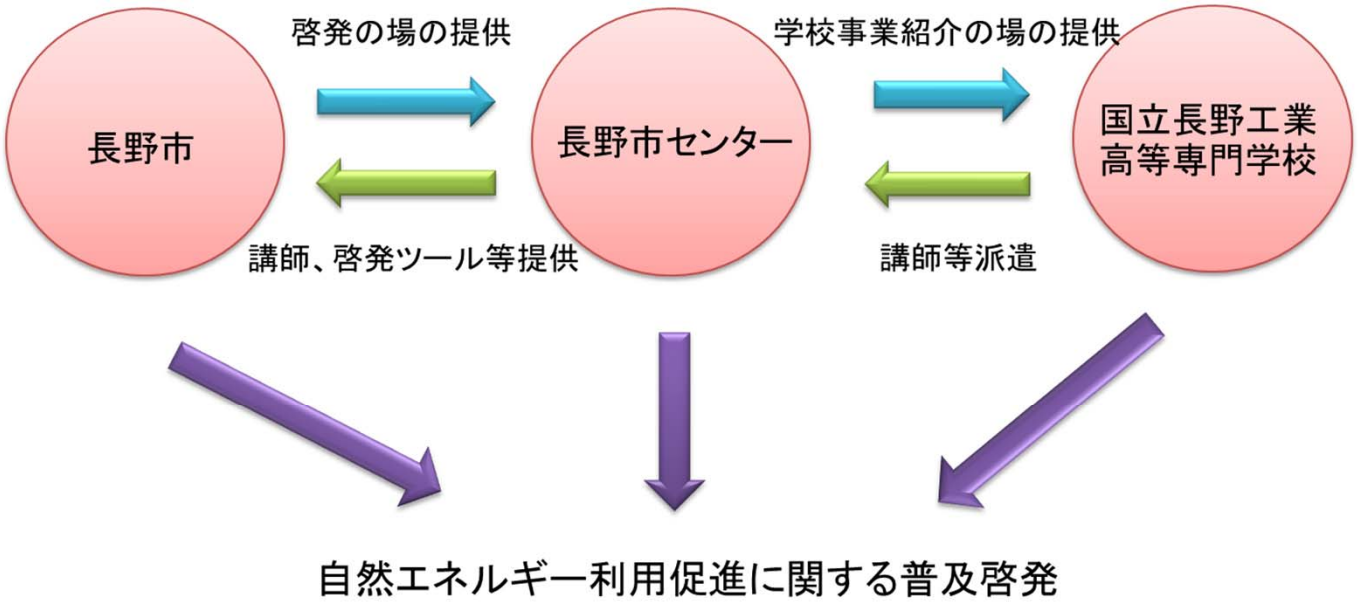
○実施までの経緯

地球温暖化をはじめとする環境問題を解決するためには、次世代を担う子供たちへの環境教育が非常に重要になってきている。また、子どもたちの環境に対する意識の高まりや環境活動が活発化することは、子どもたちを取り巻く大人や地域への波及効果が期待できる。そのため、地球温暖化防止月間を前に、長野市と共同で開催し、「自然エネルギー」をテーマに、自然エネルギーのすばらしさを学び、体験し、今後の具体的な行動に活かす。

○主な取組み

対象者は、小・中学生とその保護者で、地球温暖化防止月間前の11月に実施。内容は、自然エネルギーに関する学習会、ソーラーカーの親子工作教室、体験・展示コーナーとなっている。工作教室と学習会は予約制とし、午前と午後の２回、各回25組で合計50組を募集。体験・展示コーナーは自由に参加できるようにし、発電いろいろ実験、ソーラークッカーの実験、野外用携帯型ストーブの実演、資源作物「ソルガム」の試食・紹介するなどした。イベント全体をとおして太陽光、風力、水素、地産地消など環境にやさしいエネルギーや活動の重要性を学び体験できるようにした。会場は市庁舎の市民交流スペース及び芸術館展示サロンにて実施。学習会の講師は長野市センターの職員が務め、工作教室は国立長野工業高等専門学校の教授が講師となり、教授の研究室の学生が補助を務めた。市環境保全温暖化対策課の職員、市地球温暖化防止活動推進員もスタッフとして参加した。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

広報活動に使用したパンフレット

展示コーナーの様子

開会式の様子

○効果的な実施のための工夫等

・親子体験工作教室（スーパーソーラーカー制作）への参加申し込みが予想以上に多かったため、当初の50組を抽選で決定した上で、より多くの方に会場へ足を運んでいただくため20組を追加抽選し、材料を調達して基本実験仕様のソーラーカー作りに挑戦していただいた。
・長野工業高等専門学校との連携を重視し、様々な取り組みを行っている。特に高専の専門性を活かし「自然エネルギー」について児童への解説等を依頼し、実例などを交え、出前講座やイベントを企画してきた。また、高専での日頃の取り組みなどを、子どもたちや、多くの方に紹介する場を設けた。最近では、イベントに於いて教授の指導のもと、子供達にソーラーカーの模型の組み立ての指導を仰ぎ、さらに連携を深めた活動となっている。

○活動の成果

・イベント参加者：153人
・7.71ｔ-CO2
イベント参加者数による見なし削減量：138（kg-CO2／人）で算出
・携わった学生も環境問題への関心が深まり、将来の活動につながることが期待できる。

○今後の課題・展望

・最新技術が生活に活かされていることがわかり、環境問題の解決の一つと考えることができ、行動変容を促すきっかけとなる。
・長野高専の教授や学生の負担も大きいため、長野工業高等学校など他の関係機関との連携も広げていきたい。

ぎふ清流COOL CHOICE（地球温暖化対策広報）

岐阜県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：親子,自治体のCOOL CHOICE賛同

○活動の目的

「ぎふ清流COOL CHOICE」をキャッチフレーズに掲げ、幅広い層の県民を対象とした地球温暖化対策の効率的・効果的な普及啓発を図るための広報を実施する。

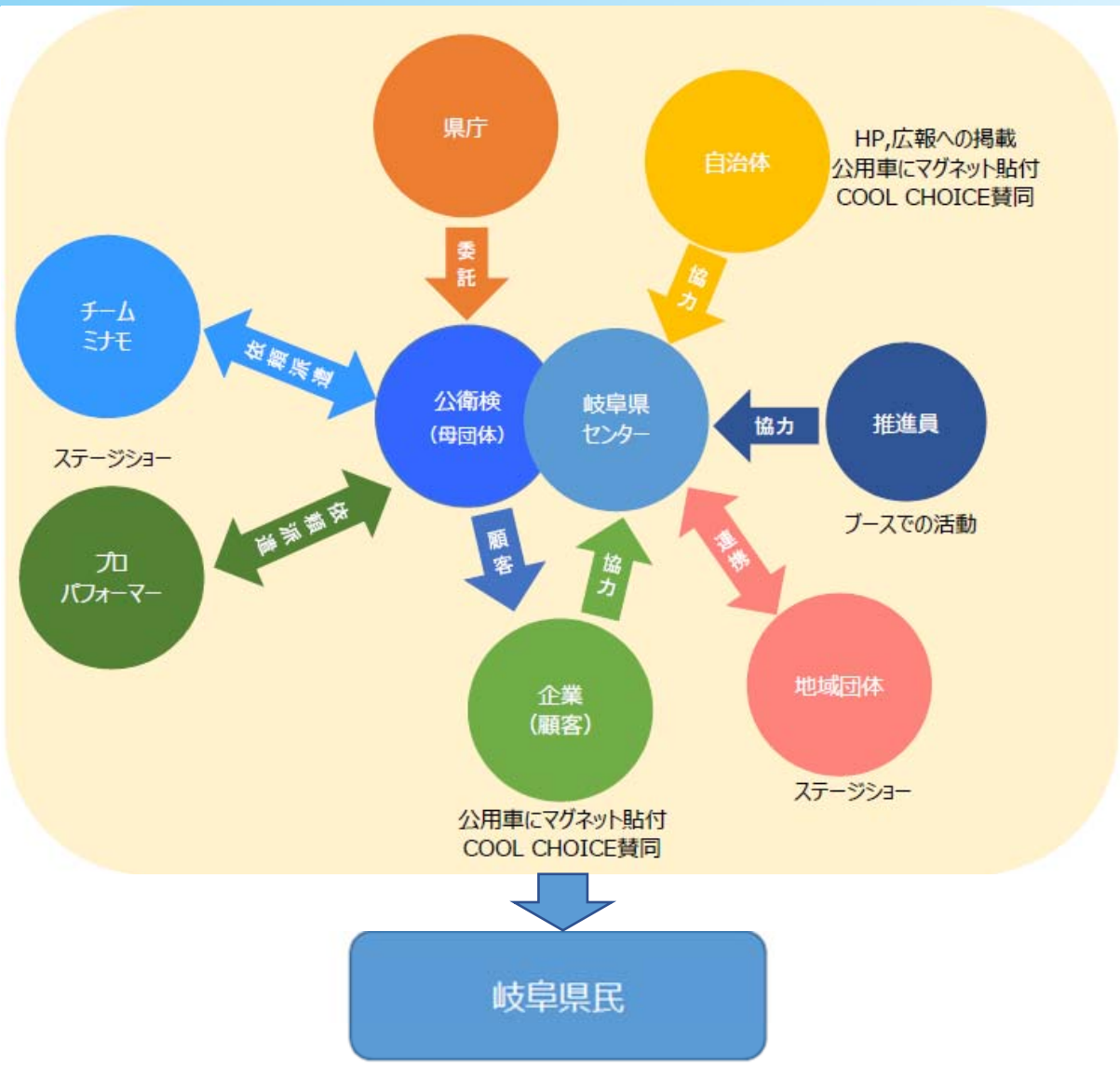
○実施までの経緯

県が実施した公募型プロポーザルにより受託。

○主な取組み

・夏と冬に親子で楽しみながらCOOL CHOICEを学べるように、ステージショーやゲームなどを盛り込んだイベントをショッピングモールで実施した。
・週末に商業施設でクイズやくじ引きなどで楽しみながら、具体的に省エネ行動について考えるブースを通年で実施した。
・県内全市町村がCOOL CHOICEに賛同することを目標として、全自治体を訪問して取り組みを説明するとともに、県民へのPRを目的に作成したCOOL CHOICEマグネットステッカーを公用車に貼付していただいた。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

親子イベント
COOL
CHOICE宣
言

商業施設ブース出展　活動状況

○効果的な実施のための工夫等

・COOL CHOICEクイズ及び賛同をしてくれた人は、くじ引きに参加でき、景品が当たる仕組みとすることで、参加したくなる広報となるよう工夫した。
・県のマスコットキャラクターと楽しく学べるステージショーや地元幼稚園等のパフォーマンスやプロパフォーマーの実験ショーなどを開催した。
・くじ引きに用いたくじを具体的な行動を示した複数の箱から選んで入れさせることで、COOL CHOICEを具体的に理解させた。

ミナモと一緒にCOOL CHOICE

地域団体　北方幼稚園

○活動の成果

・事業開始前は、岐阜県内42市町村のうち、COOL CHOICE賛同市町村はわずか9市町村（21.4%）であったが、31市町村から賛同を得ることができ、岐阜県市町村の賛同率は95.24%となった。さらに母団体の取引先企業にも声かけをし、30社から賛同を得た。
・商業施設やショッピングモールでの広報では、7,319名がCOOL CHOICE宣言（エコ行動の具体的な選択）をし、8,923名の賛同が得られた。
・469.38（t-CO2）（削減量の測定方法：　原単位（138 kg- CO2）×イベントでの賛同数×啓発手法による係数（1）×　啓発内容による係数（1）×イベント翌日から2/28までの日数
（出典：平成28年度地域での地球温暖化防止活動基盤形成事業委託業務報告書））
・COOL CHOICE賛同数
（個人）：8,924名（商業施設、ショッピングモールでのイベントで実施）
（団体）：31市町村（8,617名）　30社（2,632名）
・推進員活動数：延べ55名
・市町村や企業に、配布したCOOL CHOICEマグネットステッカーは、459台の公用車・社用車が貼付して走行しており、全県下で広く不特定多数の県民の目に触れることとなり、COOL CHOICE広報に大きく寄与した。

これまで面識のなかった商業施設が地温センターを知り、活動に共感していただけるようになり、施設が主催する環境イベントに出展依頼があるなど、連携が可能となった。県との関係がこれまで希薄であったが改善されつつあることは大きな副次的効果である。

○今後の課題・展望

啓発にとどまっている広報を実際に効果がわかる行動に繋げるため、COOL CHOICE推進キャンペーンの取り組みとリンクさせて、具体的で実現的な広報に発展させたい。

みえ環境フェア開催事業

三重県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：環境フェア

○活動の目的

来場者に広く地球温暖化防止の重要性を認識してもらい、行動変容を促す。

○実施までの経緯

地球温暖化防止に関する活動を行っている企業・団体等に対して、その活動の発表の場を設けるとともに、環境フェアへの来場者に対して、地球温暖化防止活動の重要性等について啓発する場とする。

○主な取組み

対象：一般県民
概要：地球温暖化についてさらに認識を深め行動変容を行う
　　出展者の募集及び開催の告知（3か月半）
　　翌年度の開催日時を仮押さえ
　　昨年度の出展者

○活動の様子等

みえ環境フェア2018チラシ表

○活動の様子等

みえ環境フェア2018 出展内容

番号	団体	出展内容
1	伊勢広域環境組合 リサイクルプラザ	新聞紙のカラー部分を使ったコサージュ作り
2	伊勢市環境会議	洗剤を使わずに汚れを落とすアクリルたわしづくりの体験講座、活動紹介の写真展示
3	三重交通株式会社	環境への取組みの展示・カーボンオフセット商品の販売・お子様向けクイズ
4	環境省中部地方環境事務所	地球温暖化対策関係のパネル展示 クールチョイスの普及啓発
5	津地方気象台	地球温暖化パネルの展示・気象測器の展示 気象実験と「教えてはれるん」等の上映
6	JAF三重支部	顔写真を撮ってJAFエコカードの発行
7	三重県環境生活部 大気・水環境課	大気・水環境の保全 -環境測定機器・パネルの展示-
8	津市下水道局	パネル展示等による下水道事業の紹介など
9	津市環境政策課	ごみの出し方等のクイズや省エネの推進啓発など
10	鈴鹿市環境部 環境政策課	地球温暖化防止や環境保全に関するパネル展示 エコ工作
11	松阪市環境生活部 環境課	松阪市に関する環境クイズ（景品付き）
12	四日市市環境部	四日市の環境に関する取組み
13	三重県環境生活部廃棄物対策局	小型家電や衣服を回収します（デロリアン乗車券【先着150名】エコバック）と交換、パネル展示
14	三重県環境生活部廃棄物対策局 廃棄物・リサイクル課	デロリアンの展示（運転席に座れます。ご希望の方は出展番号13を参照してください）
15	シャープ株式会社 亀山工場・三重工場	クリスマスリース作り・パネル展示
16	三重大学国際環境教育研究センター	社会人等を対象として、地域で活躍できる環境人材（サイレッツ）を育成する事業の紹介
17	東芝メモリ株式会社 四日市工場	クリーンルームVR体験、工場紹介DVD放映 お客様アンケート（粗品贈呈）等
18	住友電装株式会社 津製作所 津エコクラブ	松ぼっくりのミニクリスマスツリー（松ぼっくりにデコレーションしてミニクリスマスツリーを作る）
19	株式会社百五銀行	森づくり活動など当行の環境保全に関する取組みをパネルや展示物などで紹介
20	生活協同組合コープみえ	コープみえの環境活動の紹介（パネル展示など） 間伐材を使った箸づくり体験
21	イオン鈴鹿 チアーズクラブ	壁新聞展示・工作・エネルギーを考えよう
22	四日市ダンボールコンポストの会	生ごみをダンボールコンポストで堆肥化しよう! 生ごみを減らすことでCO2の発生を抑えることができる
23	三重軌鬼株式会社	アロマキャンドル作り
24	中部電力株式会社 三重支店 中部原子力懇談会 三重支部	環境活動パネルの展示・自転車発電体験 簡易霧箱による自然放射線の飛跡確認実験
25	マックスバリュ中部株式会社	環境・社会貢献活動（取り組み内容）のパネル展示
26	一般社団法人 M-EMS認証機構、M-EMS環境倶楽部	M-EMS（ミームス）の紹介（規格、認証取得費用等）、環境倶楽部の活動等をパネルで紹介
27	三重県地球温暖化防止活動推進センター	家庭の省エネ診断
28	一般財団法人三重県環境保全事業団	三重県環境保全事業団の活動紹介パネル展示
29	鈴鹿中学・高等学校 SOM	高校生が作ったリアルなお魚ロボットです！ イルカやウミガメなど色んなロボットさんがいますよ～
30	万緑 有限会社	リサイクル瓦チップの商品説明&展示 リサイクル瓦舗装材の商品説明&展示
31	一般社団法人 四日市大学 エネルギー環境教育研究会	リユースピンのキラキラスノードーム作り 先着30名様　材料費250円
32	地球温暖化防止中勢協議会	活動結果の展示 子供向け環境パッチ制作
33	三重県立四日市農芸高等学校	ISO14001を取り入れた学校教育、 環境教育活動の紹介、生徒実習作品等の展示
34	ウミガメネットワーク	ウミガメ紙芝居「アカウミガメがあぶない」 ウミガメに関するパネルや標本展示等
35	三重中学校・三重高等学校	海と森のモビール作りや松名瀬干潟の再現、 松名瀬干潟の貝の浄化実験、ポスター展示等
36	三重県立四日市農芸高等学校	農産物と生徒実習品の販売
37	相可高校 調理クラブ	弁当販売
38	坂下星見の会	「星たまご」プラネタリウム　季節の星空解説
39	三重県環境学習情報センター	地球温暖化防止啓発ポスターコンクール 受賞作品の展示
40	四日市公害と環境未来館	マツボックリで、ミニクリスマスツリーを作ろう
41	四日市自然保護推進委員会	四日市市の自然 ～丘陵地や山地の林の生き物の写真展示
42	三重県環境学習情報センター	つりつり大作戦
43	特定非営利活動法人 三重スローライフ協会	農業塾、食育講座、竹林整備の写真と報告書等の展示。 消臭に効く竹炭カプセル作り。（実材費200円）
44	一般財団法人 三重県水質検査センター	浄化槽のモデル展示と浄化槽の維持管理に関する展示、微生物の観察
45	一般社団法人 三重県産業廃棄物協会	木の実とリサイクル製品の工作・廃棄物の分別指導と処理・廃棄物のリサイクルの流れのパネル展示
46	株式会社シーテック 再生可能エネルギー事業本部 風力発電部 三重発電管理所	展示物：風車1/40の模型3台、風車ジオラマ1台、風力パネル4枚。クイズ形式による景品配布
47	井村屋グループ	井村屋の環境活動をとのしく学ぶクイズラリーです 全問正解にチャレンジしてください
48	四日市市少年自然の家	小枝のストラップづくり
49	亀山市総合環境研究センター 亀山市環境課環境創造グループ	丸太切り体験・木の実工作・温暖化防止の啓発 亀山市総合環境研究センター活動報告
50	鈴鹿地区推進員会	天然素材及びリサイクル素材を使用した工作
51	石榑地区推進員会	いろいろなエネルギーに関する体験
52	環境学習サークルみえ	人力自転車発電体験
53	三重大学環境ISO学生委員会 「ふぁれすとらば」	木材を使ったキーホルダー作り・「利き木」～さわって、において、木の種類を当ててみよう!～
54	鈴鹿市生活学校	活動内容のパネル展示、リフォームやリサイクル品の展示、廃油石鹸の無料配布、工作
55	グリーンガレッジみえ	地球温暖化の話の後、自然エネルギーで電気を蓄え、ミニカーを走らせる。20mが目標!
56	三重県環境生活部地球温暖化対策課	家庭向け省エネの普及促進に関する、パネル展示

省エネ住宅の紹介等
省エネ住宅フェア

- J-1 みえ健康・省エネ住宅推進協議会・「美し国の家」普及促進協議会
- J-2 トヨタホーム三重株式会社
- J-3 三交ホーム
- J-4 株式会社 一条工務店
- J-5 森大建地産株式会社
- J-6 住友林業株式会社 三重支店
- J-7 三井ホーム株式会社 三重支店
- J-8 大和ハウス工業株式会社

エコカーの紹介等
電気自動車燃料電池自動車などの展示

- C-1 トヨタカローラ三重株式会社 津店
- C-2 三重日産自動車株式会社
- C-3 三重三菱自動車販売株式会社
- C-4 東邦ガス株式会社
- C-5 三重県雇用経済部 ものづくり・イノベーション課、鈴鹿市産業振興部産業政策課、みえ水素ステーション合同会社、共同出展

規格外品等の廉価販売（売切御免）
もったいない市

- M-1 株式会社 マスヤ
- M-2 井村屋グループ株式会社
- M-3 あられ処 たばね庵
- M-4 おぼろタオル株式会社

省エネ家電の紹介等

- L-1 アイリスオーヤマ株式会社
- L-2 パナソニック株式会社エコソリューションズ社
- L-3 シャープマーケティングジャパン株式会社
- L-4 LED電球交換コーナー

みえ環境フェア2018チラシ裏

○効果的な実施のための工夫等

来場者の増加を図るため、イベント会場のある津市と近隣の鈴鹿市の全小学校の児童分のチラシを津市・鈴鹿市の教育委員会の協力と得て、全ての小学校に配布した。

○活動の成果

動員数：5,000人

○今後の課題・展望

環境フェア開催に当たり、温室効果ガス削減効果の大きい省エネ住宅、省エネカー、省エネ家電の普及の取り組みをさらに進めたい。

まちづくり協議会との連携による「省エネ・脱ＣＯ2まちづくり」推進モデル事業

滋賀県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：まちづくり,地域循環,エコドライブ,ごみ,食品ロス,健康,防災

○活動の目的

まちづくり協議会と連携することで、地域住民一人ひとりが地球温暖化問題を自分ごととして捉え、省エネ・脱ＣＯ２行動をライフスタイルとして暮らしの中に定着させる

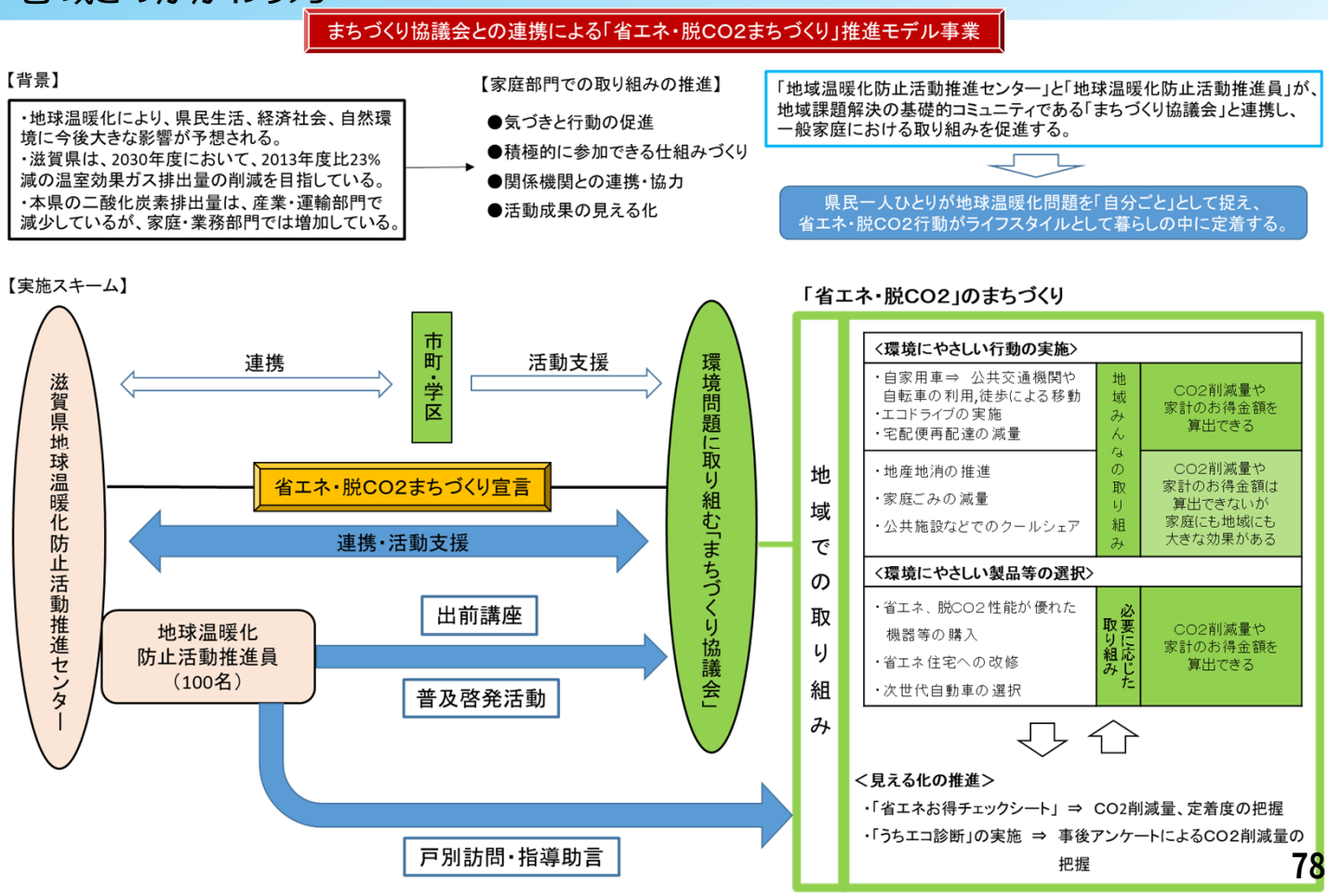
○実施までの経緯

滋賀県の二酸化炭素排出量は、産業・運輸部門で減少しているが、家庭・業務部門では増加しており、家庭部門での温室効果ガスの排出抑制が求められている。まちづくりという視点から、地域として取り組んでもらうことにより、地域住民が積極的に参加できる仕組み作りなど、具体的行動に結びつく提案をすることで、まちづくり協議会と連携しＣＯ２排出削減に取り組むこととなった。

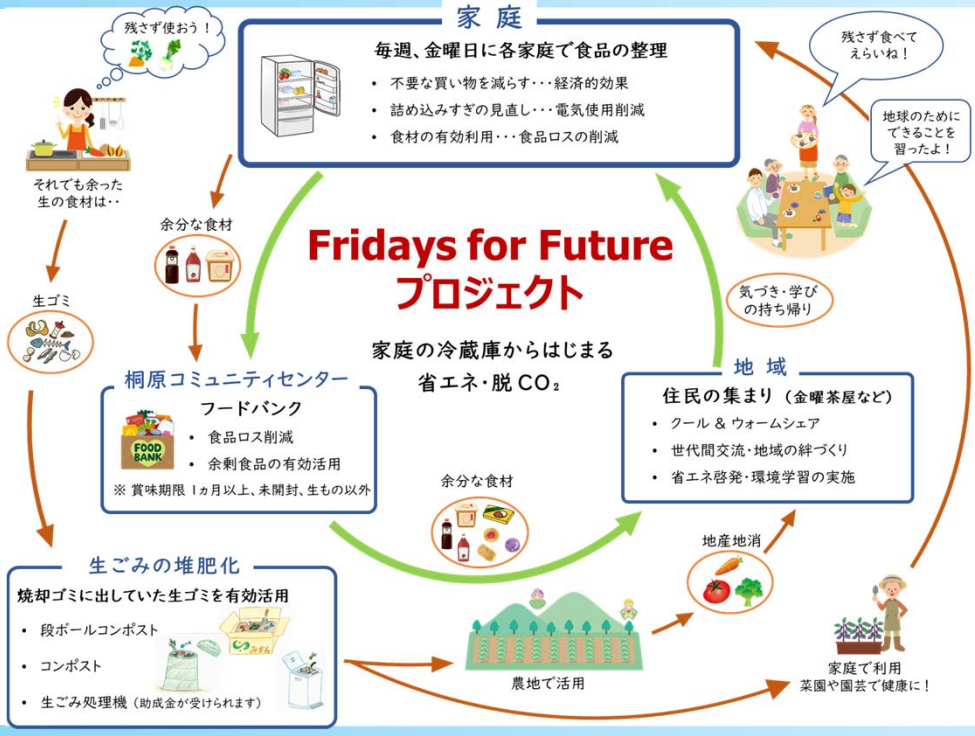
○主な取組み

まちづくり協議会の住民全員が温暖化防止の意識を持つために、「省エネ・脱CO2宣言」を行い、 単なる啓発に終わるのではなく、地域のコミュニティセンターを中心に行動として定着させるための仕掛けを提案することによって、自らの行動の定着を図った。
特に、自治会対抗安全運転・エコドライブコンテストの実施においては、地域ぐるみでのエコドライブの実施につなげるだけでなく、その結果を地域の安全マップに落とし込むことによって、安全なまちづくりにもつながるものとした。
また、誰もが参加できる身近な取り組みとして家庭の冷蔵庫から始める「Fridays for Future」プロジェクトは、節電はもとより、食品ロスの削減、ごみ減量、経済的効果と住民にとっても地域にとっても様々なメリットを生み出すことができた。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等



○効果的な実施のための工夫等

・主体は地域住民という点を徹底し、提案やサポートは行うが、実施は地域で決定することで、自発的な取り組みを促すことができ、地域に定着させることができた。
・冷蔵庫から始める「Fridays for Future」プロジェクトという誰でも参加でき、負担の少ない身近な取り組みにより、地域全体で参加できる仕組みとした。また、その結果、家庭の経済的負担の減少、節電効果、ごみ減量を生み出し、個人にとってもメリットがあり、なおかつ、それが地域のためにも役立つという地域循環を生み出すため、参加者を増やすことができた。
・自分にとって、また、地域にとって、どちらのメリットにもなり、「省エネ・脱CO2宣言」を行っている地域での話題に上ることは、行動科学的アプローチとして効果的であると言える。
・まずは、地域のキーマンの協力を得ることが先決であり、キーマンを通して、地域の中心人物の理解、協力を得た。また、この取り組みを行うことが、CO2の削減以外に地域にどのようなメリットを及ぼすかを具体的に提示した。
・地域循環を考慮し、地域住民主体の仕組みを考えた。また、安全、健康、防災、地域の絆づくり、学習といった観点等、まちづくりとしてのCO2排出削減を考え、自発的に地域住民が取り組めるものとした。

○活動の成果

・熱中症対策講座：50名
・エコドライブ説明会（役員対象）：30名
・うちエコ診断受診者：8名
・エコクッキング講習会：20名
・安全運転・エコドライブコンテスト：90名
・エコドライブ講習会受講者：9名
・エコドライブ講習による削減（年間2,356.72ｋｇのガソリン削減）
・省エネ・脱CO2宣言参加者　約5000世帯
・Fridays for Futureプロジェクトにより、地域の課題であるごみ問題を、家庭で身近にできることを中心に地域循環共生を狙ったシステム構築に結びつけることができた。省エネ、節電だけでなく、経済的効果、食品ロス削減、生ごみのたい肥化による循環、地域での絆づくり、環境学習など、SDGｓにもつながる成果が期待できる。

○今後の課題・展望

生ごみ処理に関しては、準備段階で次年度、サイクルが回るかたちとなるため、どの程度参加者数を伸ばせるかが課題である。また、継続が大切であり、いかに継続させていくかが今後の課題である。

エコライフデー事業

大津市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：市民,小学生,地域一斉,チェックシート,夏冬

○活動の目的

大津市と連携し、市民ならびに小学生対象に、「エコライフデー事業」として、温暖化防止に係る普及啓発活動を展開している。

○実施までの経緯

家庭での二酸化炭素排出量の削減をターゲットに、不特定多数ではなく、各地域で一斉に実施することで、地域の話題としてもらうことにより、口コミによる普及啓発効果を期待し、また、小学校と連携することにより、家庭で環境問題に触れる、話せるきっかけになることを期待して、まず1日、各家庭で環境にやさしい取り組みを実施することとした。

○主な取組み

大津市と連携し、協働し、各家庭に対しては、市内の36小学校区毎に組織されている自治連合会から数自治連合会を選定し、また、4～6小学校を選定し、チェックシートを配布し、回収を行う。さらに、応募のあった市内企業や団体も対象とする。自治会での配布回収は自治会組織の協力を得て行う。取り組み項目は、心がけだけで実施できる項目（費用が掛からない）とし、家族が一緒に取り組む項目とする。取り組みの結果については、家計への貢献、CO２排出削減量等を数値化、見える化して、各家庭、学校へフィードバックする。また、事業は、夏版と冬版の2回実施している。冬版は自治連合会のみで実施。

○活動の様子等

保護者のみなさまへ

大津市では、地球温暖化防止のため、『エコライフデー』を実施しています。

『エコライフデー』は、まず一日、各ご家庭で、裏面に記載された環境にやさしい取り組み項目を、家族みんなで取り組んでいただき、地球にもお財布にも優しい生活、エコライフを考えるきっかけにしていただく取り組みです。

【実施、提出の方法】先生からこのシートを受け取られたら、ご家族で一日「エコライフデー」を設定し、裏面の項目に取り組んでみてください。その結果を記入し、切り取り線の右側を担任の先生へ提出してください。（ご提出は、一学期末または夏休み明けに。詳細は学校にご確認ください。）

【結果の報告】秋に、みなさんの取り組みをまとめてポスターにし、クラスの掲示板等に掲出します。また、大津市のホームページにも掲載します。「大津市　エコライフデー」で検索してみてください。

小学生
エコライフデー2019

◇なぜエコなくらしを心がける必要があるの？

わたしたちがテレビを見たり、車に乗ったり、おふろに入ったり…どんどん便利な生活をすると、電気やガス、ガソリンなどのエネルギーをたくさん使ってしまうんだ。

◇エネルギーをいっぱい使っちゃだめなの？

電気などのエネルギーを作ったり使ったりすると、たくさんの二酸化炭素を出してしまうんだ。
二酸化炭素は、地球のまわりで層になり、熱をにがしにくくしてしまうんだ。今、地球では、熱がにげずに、少しずつあたたかくなりすぎているんだよ。
これを「地球温暖化」って言うんだ。

◇温暖化するとだめなの？

お米や野菜などがこれまでと同じように育たなくなったり、大雨や洪水などの災害が起こったり、熱中症になる人が増えたりするんだ。南極や北極の氷は、すでに少しずつとけて、少なくなってきているんだって。

エネルギーの節約は、地球にも、おさいふにも、やさしい！できることから、始めよう！

※当事業は、大津市の委託により大津市地球温暖化防止活動推進センター（電話 526-7545）が実施しています。

小学生エコライフデー チェックシート　家族みんなでとりくもう！

番号のところに、できたときは○、できなかったときは×をつけてね

番号	（　）のなかは、1日に出さなくてすんだ二酸化炭素の量と1年間で節約できる電気やガスのお金
1	おふろはさめないうちに、家族みんなが続けて入るようにした（240g、6,610円）
2	温水洗浄便座は「切」にするか、温度を低めにし、使わないときはフタをした（90g、2,030円）
3	お湯や水を使うとき、流しっぱなしにしないで、こまめに止めた（83g、4,100円）
4	シャンプーや洗剤などは、使いすぎないようにした（46g）
5	野菜などの食べものは、季節のものや近くで作ったものを食べた（120g）
6	ごはんやおかずを残さず食べた（460g）
7	ビン・カン・ペットボトル・紙などのゴミは種類ごとにわけて、資源になるようにした（240g）
8	冷暖房の温度をゆるめに設定した（または冷暖房しなかった）（99g、2,250円）（むりはしないで　冬20℃、夏28℃の室温を目安に）
9	テレビやパソコンなどを使わないときは、主電源を切るか、プラグをぬいた（110g、2,460円）
10	だれも見ていないときはテレビを消した（20g、453円）
11	使っていないへやのあかりは消した（21g、473円）
12	家族ができるだけいっしょのへやですごすようにした（240g、5,530円）
13	いつもより1時間早く、ねるようにした（140g、3,070円）
14	レジ袋をもらわなかった（56g）
15	近くへ出かけるときは車ではなく、歩いたり、自転車で出かけた（400g、9,380円）

出さなくてすんだ二酸化炭素の量を、右の結果のところにかいてね！
（　）の中のgの数字が、出さなくてすんだ二酸化炭素の量だよ。×は0gとかいてね。
※40才のスギの木が、1日で吸収する二酸化炭素の量は、1本あたり約24gといわれているよ。

あなたをふくめチャレンジした方の人数　合計[　　人]

小学校　　年　　組

番号	結果	解説
1	g	続けて入ると、あたためなおさなくてすむね
2	g	フタをするだけでも省エネになるよ
3	g	水道水をつくるにもエネルギーがいるんだ
4	g	洗剤を流すと下水しょり場（使った水をきれいにするところ）でエネルギーがいるんだ
5	g	季節のものは自然の力だけで育つからね　遠くから運ぶときもエネルギーがいるんだ
6	g	作るときのエネルギーがむだになるね　ゴミをもやすときにエネルギーがいるよ
7	g	まぜるとゴミでも、わければ資源になるよ
8	g	冷暖房には大きなエネルギーがいるよ。むりをしてかぜをひいたり熱中症にならないようにしてね
9	g	テレビなどを消していても、主電源が入っていると、エネルギーをつかっているんだよ
10	g	だれもいないところでスイッチをつけておくのはエネルギーのむだづかいだよ
11	g	
12	g	一つのへやに集まれば、ほかのへやの明かりや冷暖房は消しておけるよね
13	g	ねるときはあかりを消しましょう
14	g	マイバックをもって買い物にいこう
15	g	自動車はすごくたくさんのエネルギーを使うんだ
合計	g	←1日でへらせた二酸化炭素の量

◆参加して感じたことや、あなたがしているかんきょうによいことなど、なんでも書いてね。

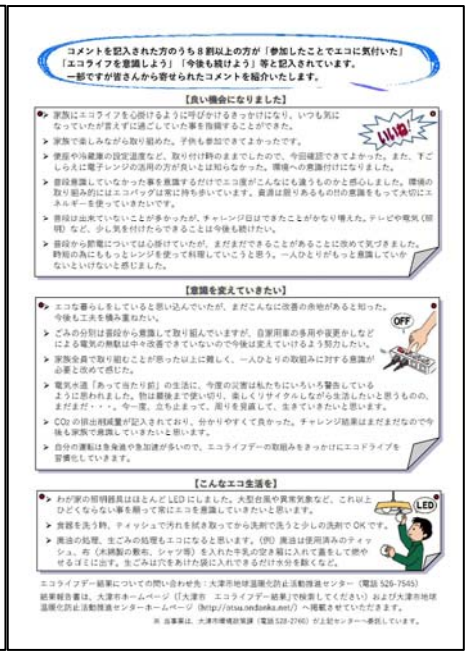
小学生のエコライフデー2019

○活動の様子等

保存用　エコライフデー　チェックシート　提出用

エコライフデーチェックシート

エコライフデー2018結果報告



エコライフデー2018夏版結果報告

○効果的な実施のための工夫等

・取り組みの結果については、CO２排出削減量だけではなく、家計への貢献（節約金額）などをチェックシートに記載し、見える化を図るとともに、参加世帯のエコライフ度も数値化し、取り組みへのモチベーションを期待している。
・市の政策課題や取り組みの方向性について、環境計画や実行計画の策定、実施にあたって、平常から意見交換を行うことが必要と考えられる。
・市との連携による草の根の普及啓発事業として実施可能となっている。
・チェックシートの配布、回収にあたっては、自治会組織や市の逓送便を活用させてもらって、円滑な事業運営が図れている。

○活動の成果

・エコライフデー夏版　３２３ｋｇ、冬版１４０ｋｇ(いずれも回収できたシートのみの積算値)
・エコライフデーチャレンジ（参加）世帯・人数　（ ）内はシート及び集計結果報告世帯数
　夏版　667世帯 1,666人（3,965世帯）
　冬版　251世帯 491人（3,340世帯）

○今後の課題・展望

草の根の普及啓発事業と定着させるため、今後も継続して実施予定である。
回収率については、小学校においてはほぼ100%の回収率になっているが、自治会向けではバラツキがあり、小学校に比べ、回収率が低くなっている。今後の実施にあたっては、回収率のアップにつながる仕組みの検討が必要と考えている。

「再配達削減チャレンジ」「職場受け取りチャレンジ」キャンペーン

京都府地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：再配達防止,職場受け取り

○活動の目的

本事業をきっかけに、再配達が減り、温暖化対策（SDGsの観点からの社会づくり）は地域や生活を豊かにすると考える個人・団体が増えることを目的とする。

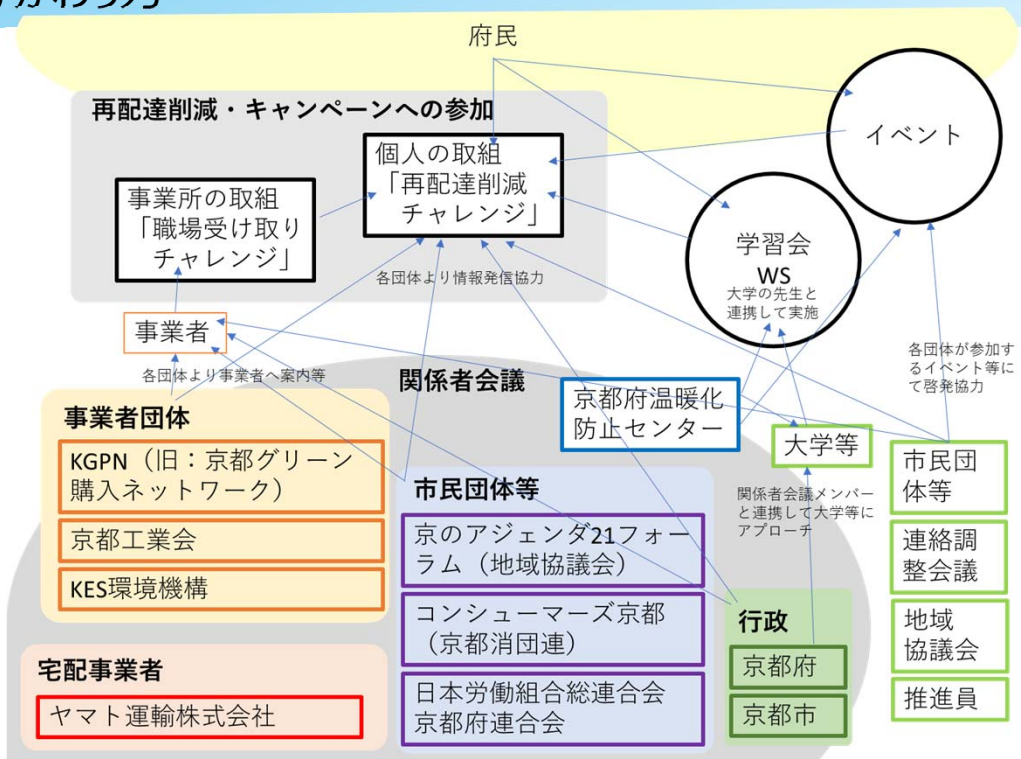
○実施までの経緯

COOL CHOICEの柱の１つ「低炭素物流」は、地域センターとしても十分な啓発がまだ実施できていない。また京都府域における運輸部門（貨物）のGHG排出量は微増傾向で、昨今の宅配および再配達の増加が要因であると考えられる。
再配達削減は、GHG排出削減のみならず、働き方改革・物流分野での炭素生産性の改善・道路交通事情の改善・受け取り側の再配達手間の削減など、様々なコベネフィットをもたらす可能性があり、「SDGsの観点からの社会づくり」においても重要なテーマである。

○主な取組み

（１）関係者会議：京都府、物流会社、事業所関連団体、消費者団体等をメンバーとする検討会を開催して、 京都における宅配便配達の現状と課題を整理し、プロジェクトの効果的な推進方法を検討。
（２）学習会・ワークショップの実施：再配達問題について少し関心があるけれども、行動したり周りに呼びかけるまでには至っていない人が、実際に自分にできる再配達削減につながる取組を実施する。特に若い世代へのアプローチを増やす。
（３）イベント啓発（ブース出展） ：再配達問題の認識向上、および本チャレンジへの参加を促す。
（４）職場受け取りチャレンジ：職場受け取り賛同・実施、職場での啓発協力等。温暖化対策を前向きにとらえる団体を増やす。
（５）クリスマス・年末に向けたキャンペーンの展開：実際に再配達を減らすための取組をする人が増える。再配達が減り、温暖化対策（SDGsの観点からの社会づくり）は地域や生活を豊かにすると考える人が増える。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

再配達削減チャレンジ2019
パンフレット

職場受け取りチャレンジ2019
パンフレット

○効果的な実施のための工夫等

・効果測定のためのチャレンジ後アンケートの実施。
・昨年度開発「再配達をやっつけろ!まとあてゲーム」
・今年度開発「再配達をへらそうゲーム」
※アンケート実施をする際は、回答者へプレゼントできるノベルティがあると効果的なのだが、実際のところ良いものを準備することができないでいる。
・パンフレット等に昨年度成果のフィードバック。

再配達をやっつけろ!まとあてゲーム

○今後の課題・展望

地域センターのネットワークを活かして、全国各地で展開を行い、再配達問題やその対策の認知度＆行動変容向上につなげる。

モビリティウィーク＆カーフリーデーなら
～今日は、クルマを置いて出かける日。～

奈良県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：カーフリー,スマートムーブ

○活動の目的

地球温暖化や大気汚染、渋滞など、都市における車中心の生活から引き起こされる諸問題を解決し、持続可能な社会へと転換を目指す総合的な政策を実現するための啓発活動として実施する。
将来的には、秋の観光シーズンに奈良公園登大路園地と県庁（バスターミナル）、近鉄奈良駅から東の世界遺産エリアへの車（特にマイカー）の流入を規制することで、環境や世界遺産を守りながら、にぎわいも呼び込む誇りを持てる都市をアピールする。
その第一歩として啓発活動を継続実施して、市民・観光客等の公園周辺のマイカーの利用縮減に対する意識の醸造を図る。同時に関係者、関係機関との協議を進め、1日のみのカーフリーデーの実施を経て、ハイシーズンのマイカー流入規制を目指す。

○実施までの経緯

奈良は、家庭からのCO2排出割合が全国に比べて多く、特に電気とマイカーからの排出が二大排出源となっています。観光都市でもある奈良市で、世界中で実施されるモビリティウィーク＆カーフリーデーならを実施することで、まちぐるみの交通対策を実現していきたいと考えました。

○主な取組み

主会場のJR奈良駅前広場にて各団体によるブース出展、三条通のカーフリーゾーンも活用した歩く・自転車ツアー等、以下開催。
・車をおいてCOOL CHOICE！新しいライフスタイルを提案します
・オープンワークショップ「あなたの住みたい"奈良"を描いてください」
・奈良のまち歩き＆自転車マップや、本日のイベント案内配布
・ソーラークッカーによる実演・自転車と歩く"なら"みどころマップ・ストップ温暖化パネル展とぬり絵
・ミニトマトすくい・かき氷・配達サービスや生協商品の紹介・春日山原始林の保全活動の紹介、間伐材のおもちゃづくり・旬菜メルカート（地場産野菜・加工品の販売）・奈良の地酒試飲体験、奈良発信のクラフトビールの販売・Mobike（シェア自転車）使用方法と乗車体験・会員登録会・シェア自転車試乗・パネル展・ガイドと歩く奈良公園・記紀万葉の道巡りエコツアー・自転車でめぐる平城宮跡・唐招提寺・奈良の街並みと歴史を感じる自転車フォトラリー

○地域とのかかわり方

モビリティウィーク＆カーフリーデーなら実行委員会

会長
奈良県地球温暖化防止活動推進センター

副会長
奈良市環境部長

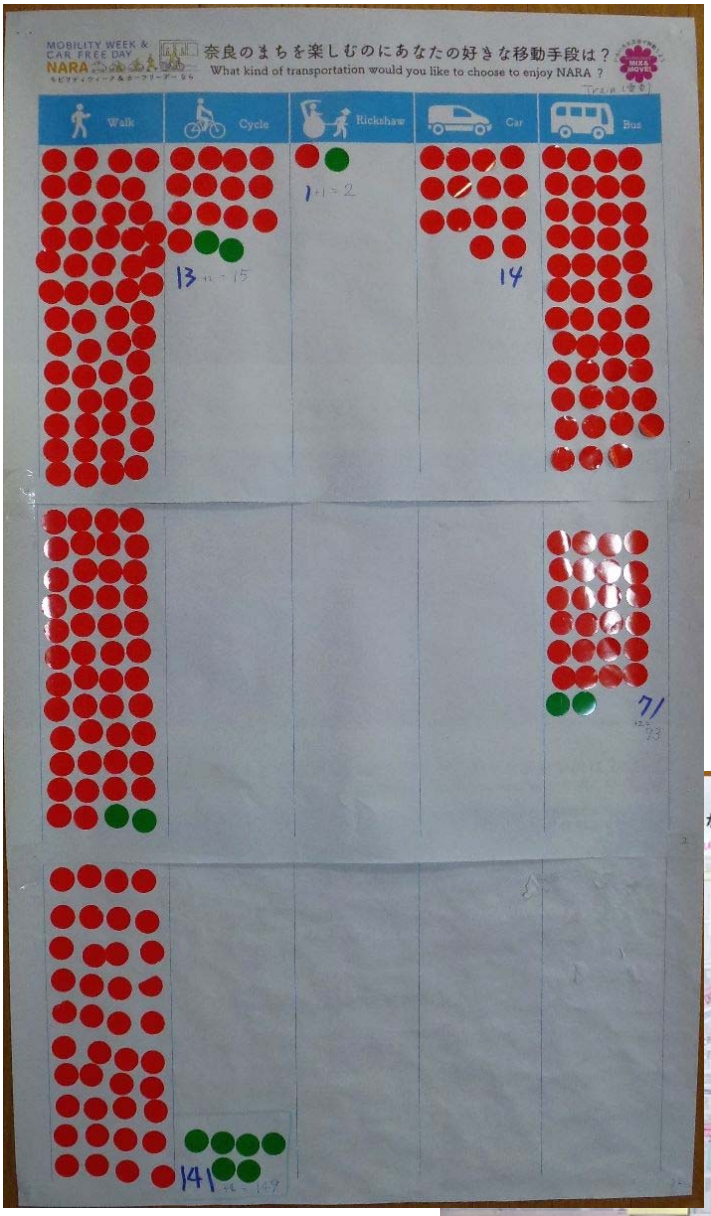
監査

事務局　奈良市

実行委員
奈良市環境政策課、奈良市交通政策課、奈良市観光戦略課
奈良県地球温暖化防止活動推進センター
NPO 法人奈良ストップ温暖化の会、奈良市地球温暖化対策地域協議会、
奈良交通（株）、奈良シティエフエムコミュニケーションズ

その他参加・協力団体
奈良県環境政策課、西日本旅客鉄道（株）、奈良市観光協会、春日山原始林を未来へつなぐ会、NPO 法人宙塾、サークルおてんとさん、生活協同組合コープ自然派奈良、
市民生活協同組合ならコープ、湖畔の里つきがせ、もも太朗ビエラ奈良店、Golden Rabbit Beer、モバイク・ジャパン株式会社、株式会社ドコモ・バイクシェア、三条通り商店街振興組合、三条通ショッピングモール事務局

○活動の様子等



シール投票「奈良のまちを楽しむのに最適な移動手段は？」

オープンワークショップ「あなたの住みたい“奈良”を描こう」

○活動の成果

・約1000名の来場があり、奈良市長自ら、カーフリーゾーンを実施した街頭にてシール投票等でCOOL CHOICE啓発で300人以上の賛同、クルマに頼らない移動について啓発。
・・ヨーロッパの運営委員会本部：ヨーロッパモビリティウィーク＆カーフリーデーに参加登録を行い、2018年参加都市のうちの1都市として、ホームページで奈良市の参加も広報され、世界へ情報発信することができた。
・カーフリーデージャパンが例年行なっている「モビリティウィーク＆カーフリーデー日本アワード」において、「まちづくり貢献賞」と「カーフリーデーベストショット賞」を受賞することができた。
・実施一年目から、モビリティーウィーク週間の実施や、カーフリーゾーンの実施を実現したことや、イベント内容などが評価されたようです。カーフリーデーベストショット賞は、JR奈良駅の観光案内所とカーフリーデーならののぼりが印象的だったようです。
・センターが関わることで、県市を越えた連携を図ることができた

おもしろ環境まつり　～君とつくる未来の地球～

和歌山県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：食,水,小学生,アンケート調査,抽選

○活動の目的

県内の小学生を対象にしたイベント。地球温暖化をはじめとする環境に関する５つのテーマに準じた団体が集い，参加＆体験型に重点を置いた出展内容。

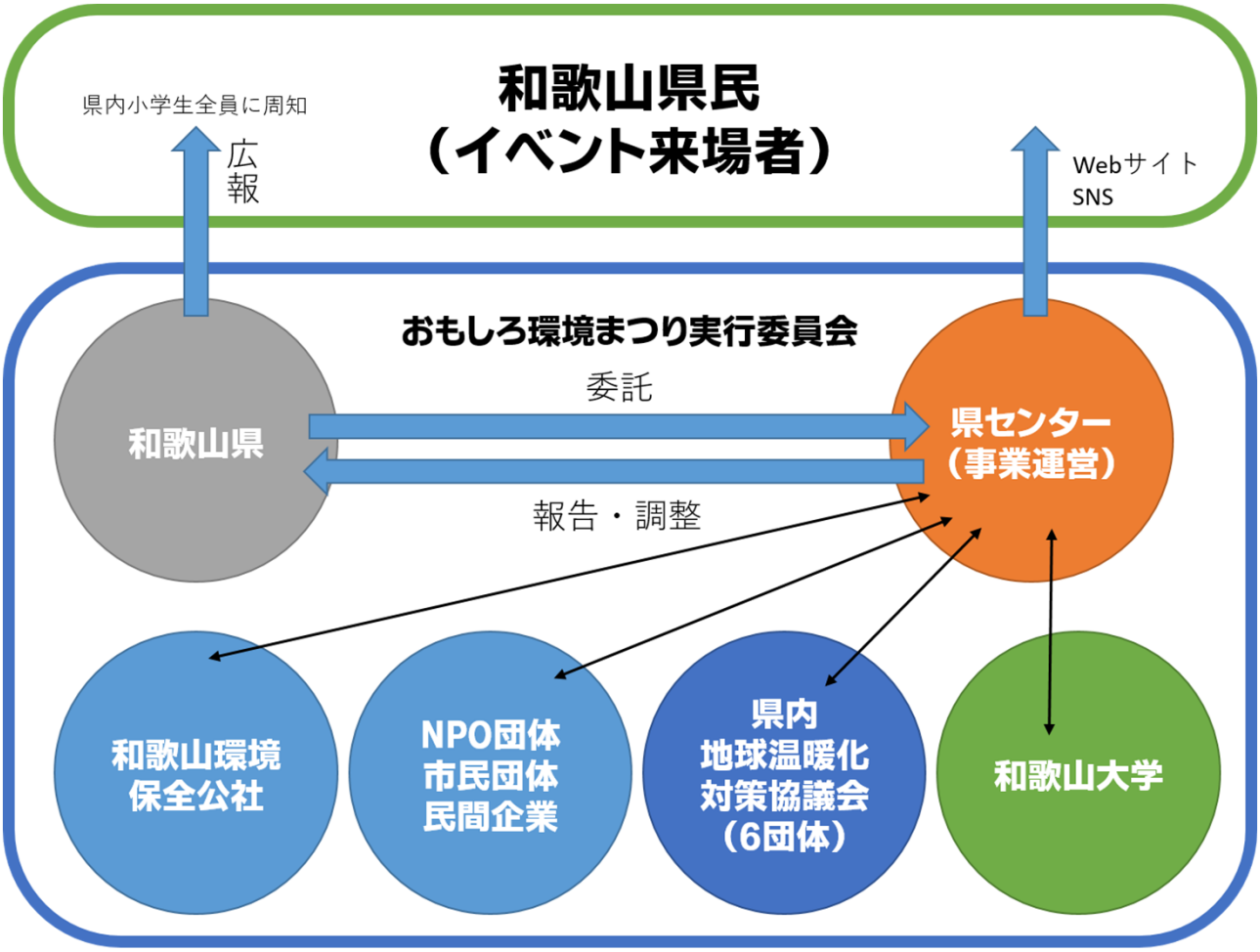
○実施までの経緯

これからの社会を担う子どもたちに，あるがままの環境技術を伝えバトンを渡してくことが，地球温暖化対策につながるものとして企画されました。企業をはじめ大学や自治体，市民団体が各々取り組む姿を見ることで，子どものみならず大人たちも地元意識＆再評価の機会となることを目的としてます。また，イベントをゴールではなく「スタート」として位置づけ，関わった者同士で新たな取組につながる創意工夫を出展者に求めています。

○主な取組み

県内の小学生および保護者を対象に実施。県センター，地球温暖化対策協議会，大学，市民活動団体，企業，自治体からなる実行委員会形式で，約1年がかりで準備を行いました。来場者した1,500名は，各ブースの体験を通して，クールチョイスのロゴや取組内容にもふれられる工夫を行い，行動への理解を求めることができました。会場にJR和歌山駅近くの商店街アーケードを借りたことで，より開かれた集客が見込めました。

○地域とのかかわり方

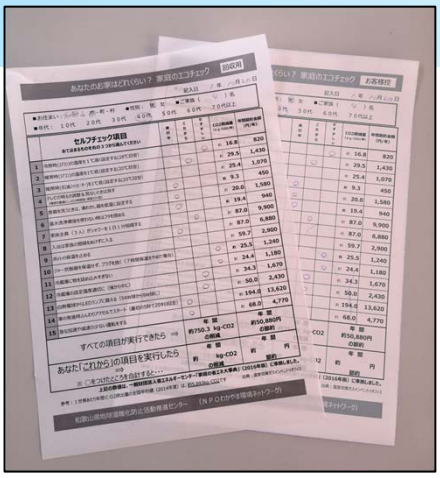


○活動の様子等

おもしろ環境まつり案内チラシ

○効果的な実施のための工夫等

・イベント会場内でアンケートを実施しました。
・抽選で賞品が当たるしくみを導入。提供元は当団体の会員企業からの協力により実現しています。
・アンケート用紙は複写式となっていて，集計用として1枚を回収し，控えを本人に持ち帰ってもらうことで，自身や家族の行動見直しのきっかけになるよう工夫している。
・小学生に遊びながら学びの機会を提供することと合わせて，自社宣伝や一部販売についても許可することで，PR効果を期待してもらえている点があります。
・食と水に関するテーマを設置した点です。食料自給率は28%（H29）決して高くない和歌山ですが，果樹，魚介など多様な食の生産地域として関心を高めるための出展が実現できています。



家庭のエコチェック
アンケート
（複写式）

わかやまクールチョイス
キャンペーンチラシ

○活動の成果

・出展内容により，すべてのブースに適用できなかったが，アンケートは89人が回答しました。
・ブース参加者数＝6228人
・アンケート回答数＝89人
・イベント内の５つのテーマは基本的に「環境」由来ですが，福祉や医療に関する分野の団体が軒を連ねている商店街での実施により様々な連携が図れました。これはSDGsの目標達成の足がかりとして，今後さらなる発展が望まれます。

○今後の課題・展望

環境対策を中心とした継続性のある取組として進めているものの，イベント当日以降の定期的な場作りには至っておらず，この点を強化していきたいと考えます。

低炭素社会づくりに関する意見交換会

島根県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：SDGs,意見交換,活動連携

◯活動の目的

低炭素社会づくりに向け、地域の環境課題解決に取り組む各NPO法人等が目指す役割やその連携可能性を協議し、COOL CHOICEの推進や温室効果ガスの排出削減につながる実践行動を進める動機付けとする。

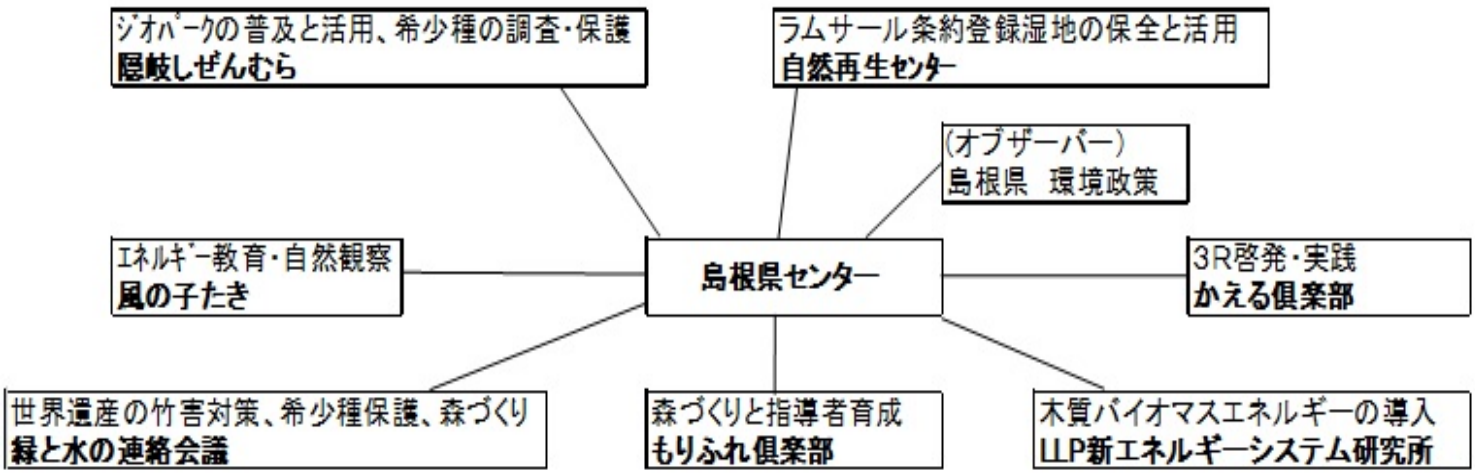
◯実施までの経緯

・JCCCAホームページに団体情報を登録
・脱炭素社会づくりに向け様々な取組団体と連携
・NPO法人同士でも情報交換や連携先を模索していた

◯主な取組み

・平成29年6月30日(金)に、島根県立ふるさと森林公園学習展示館(松江市宍道町佐々布3352)に集まった19名　（県、NPO法人　など）で、藤野純一氏(国立環境研究所)による話題提供『2050年をエコで読み解くキーワード』と意見交換等を行った。
・平成30年11月14 日(水)に、パルメイトホールに集まった　名で、原田幸也氏による話題提供『地域の未来を考える～SDGsと地域循環共生圏～』と松原 裕樹氏(EPOちゅうごく)による意見交換「SDGsで事業をブラッシュアップ」を行い、各法人の事業とSDGs17ゴールの関連性を紹介しあった。
・参加されたNPO法人は、隠岐しぜんむら、かえる倶楽部、風の子たき、LLP新エネルギーシステム研究所、自然再生ｾﾝﾀｰ、緑と水の連絡会議、もりふれ倶楽部など

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

SDGsゴールカードを使って各法人の活動を紹介

中国ESD活動支援センターより講師を招聘

各法人が活動を行う上で抱える課題についての意見交換の様子

○効果的な実施のための工夫等

・参加者で協議する時間を出来るだけ多く設け、活動紹介や意見交換をした。活動地域や内容が異なっても、地域づくりや環境意識啓発など、各法人の活動目的や活動する上での課題には共通点があると思われたため。
・NPO法人の呼びかけにあたり、森づくりや木質バイオマスエネルギーの活用、ジオパークやラムサール登録湿地、世界遺産や希少種保護、エネルギー教育などの活動を行政と連携し継続的に実施している点を考慮した。

○活動の成果

・各NPO法人と活動連携を行った。隠岐しぜんむらが主催したエコツアーで海の温暖化（海藻の変化）を取り上げられた。当センターが主催した低炭素社会づくりに関する県民との意見交換会で「かえる倶楽部」「もりふれ倶楽部」「LLP新エネルギーシステム研究所」が環境行動の実践を訴えかけた。自然再生ｾﾝﾀｰと連携しＳＤＧｓセミナーを開催した。緑と水の連絡会議等と共催で「エネルギーパーク」（地球温暖化問題の周知と再エネの活用促進）イベントを開催した。

○今後の課題・展望

環境課題と地域課題の同時解決を目指すため、県センターと各ＮＰＯ法人のほかこれまで連携できていなかった他分野の団体とともに、地域の地球温暖化対策推進計画に示された目標達成や実践行動を行い、持続可能な地域づくりを進める。

家庭におけるストップ温暖化診断

山口県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：家庭向け省エネ診断,アンケート調査,結果のフィードバック

○活動の目的

家庭からの温室効果ガス排出量を抑制するために、地球温暖化防止に関する普及啓発を行い、日常のライフスタイルを見直していくことが必要。

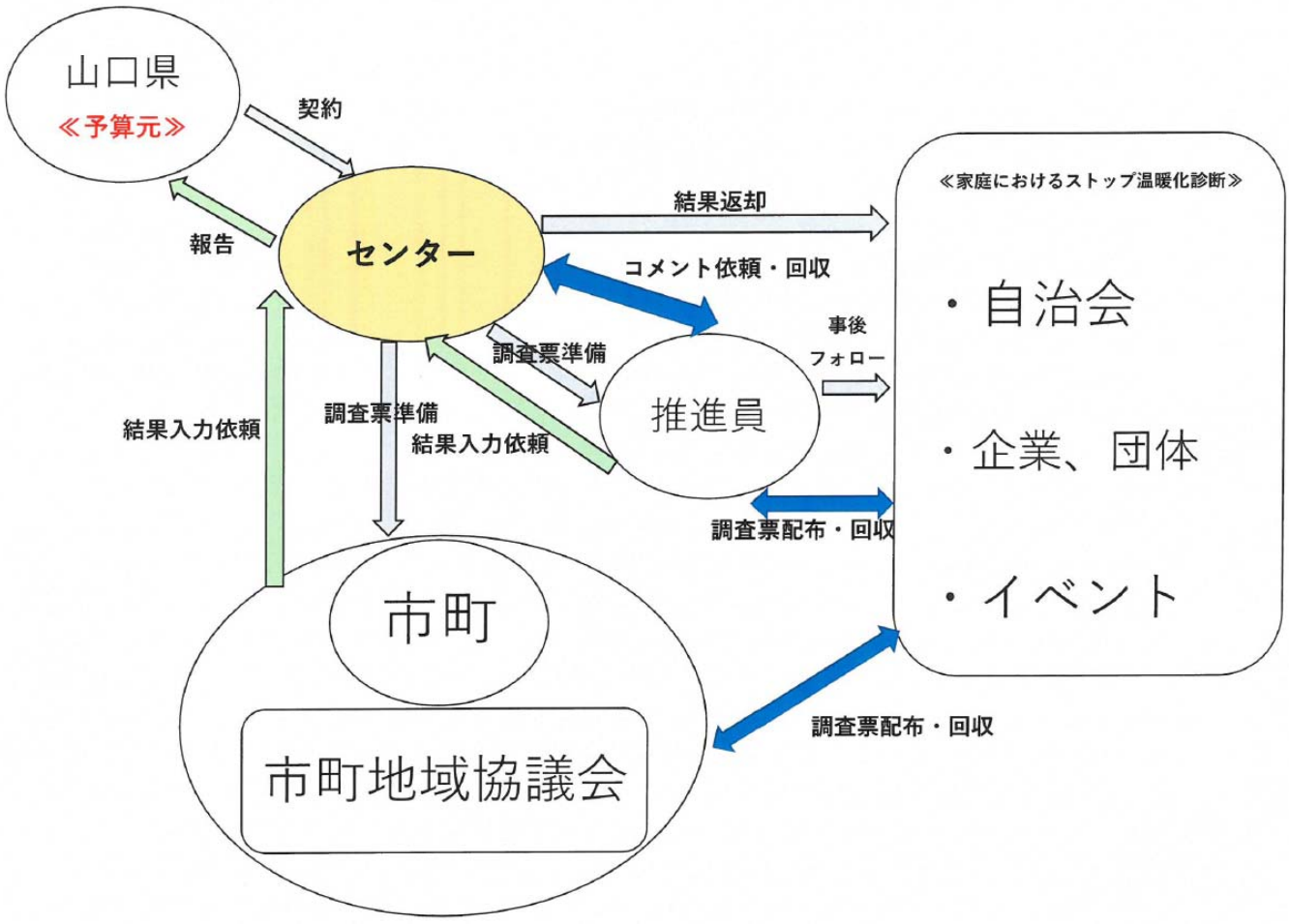
○実施までの経緯

近年排出の伸びが著しい家庭部門の温室効果ガス排出量を抑制するために、地球温暖化防止に関する普及啓発を行い、日常生活のライフスタイルを見直していく必要がある。その為、各家庭での地球温暖化防止への取組み状況や省エネ機器等の導入状況などを調査し、その調査結果に応じた、具体的な温室効果ガスの削減方法のアドバイスを行うことで、地球温暖化防止の普及啓発と、ライフスタイルを見直すきっかけを作り、行動変容に繋げる取組み。

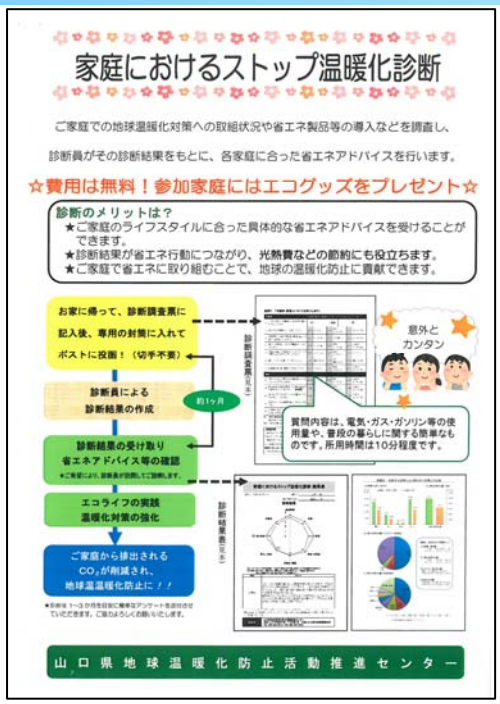
○主な取組み

・家庭部門の温室効果ガスの排出量を抑制するため、県内の一般市民をターゲットに「家庭におけるストップ温暖化診断」を行いました。
・概要は、調査票の7つの設問（1：冷房2：暖房3：給湯・お風呂4：冷蔵庫・調理5：暮らし・娯楽6買い物・消費7自動車）に回答し、診断員（研修を受けた推進員）が診断結果を作成し、その中に具体的な省エネアドバイスを記載します。また、希望により診断員が個別訪問し説明も行います。
・本事業は「市町のイベント」「出前講座」「自治会」で通年行っております。

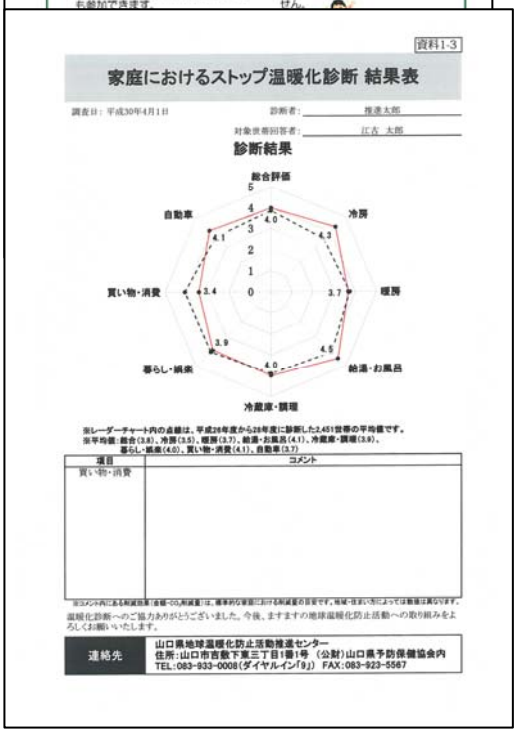
○地域とのかかわり方

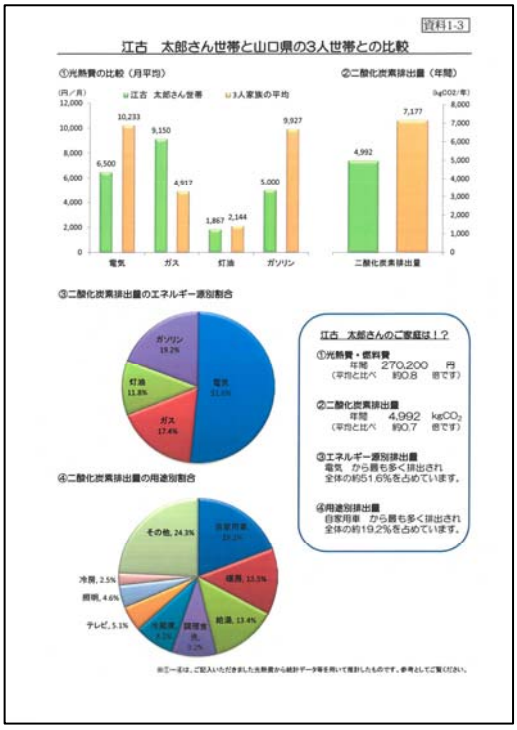


○活動の様子等



家庭におけるストップ温暖化診断
リーフレット





家庭におけるストップ温暖化診断
結果票

○効果的な実施のための工夫等

・調査票の結果作成だけでなく、診断員が具体的なアドバイスを書く事により、行動変容を促しやすくなる。
・調査票の結果にグラフや図を示し、県平均との比較により視覚的に自身の特徴を表すとともに、診断員が具体的なアドバイスを書く事により、行動変容を促しやすくなる。また、粗品（CO2削減のためツール）のプレゼントや事後にアンケート調査（1-3か月後）を行うことにより、取組状況の把握も可能である。
・センターを中心的な役割として連携する事により協力先の過度な負担を軽減し参加しやすくする。
・平成18年度より行っている「山口県独自」の取り組みである。

○活動の成果

・実施時期：平成30年4月～平成31年3月
対象世帯：657世帯（市町：6　診断員：64名）
実施場所：県内　24地域（4自治会、13イベント、6出前講座、1その他）・7.71ｔ-CO2
・温暖化診断実施による二酸化炭素削減量（予想）
＝省エネ製品の導入および省エネ行動による削減量＋省エネ促進グッズの利活用による削減量
＝157,629.3（kg-CO2/年）＋848.9（kg-CO2/年）
＝158,478.2（kg-CO2/年）

○今後の課題・展望

一般家庭向け温暖化防止診断のＰＲを広く行い、企業の参加を呼びかけ対象者の拡大を図る。また、アンケートの回収率を高める事。

徳島大学における講座「とくしまの環境を学ぼう」の開講

徳島県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：学生推進員,大学での講座,単位認定

○活動の目的

地球環境問題の解決に向けて、自ら主体的に行動する人材を育成し、若い世代への普及啓発を拡大する。

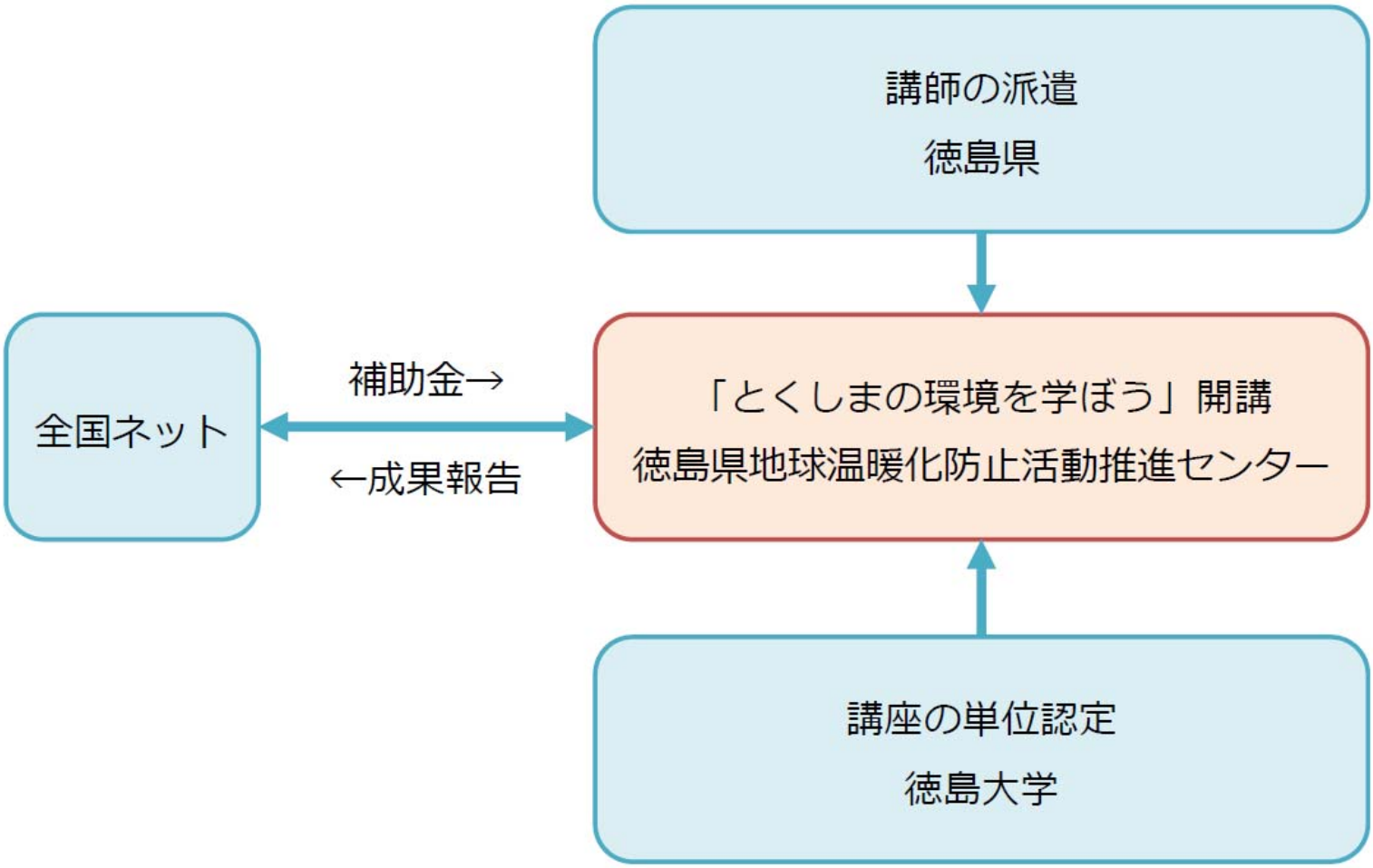
○実施までの経緯

徳島県センターで独自に設けている学生地球温暖化防止活動推進員の制度をより一層普及させるため、環境活動に興味のある学生を募集し、養成するため、大学で講座を開講しています。

○主な取組み

・徳島大学の学生を対象として、単位が取得できる15回の連続講座「とくしまの環境を学ぼう」を開講しました。
・県庁職員や徳島大学教員などが講師をつとめ、学生のグループワークや環境活動団体でのフィールドワーク、江守正多氏の講演会など、多彩な内容で実施しました。
・平成30年度は、この講座の受講者から学生地球温暖化防止活動推進員が新たに8名誕生し、徳島県センターが実施する様々なイベントの企画や運営を担いました。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

講座では毎回グループワークを実施

フィールドワークの様子

江守正多氏による講演会

○効果的な実施のための工夫等

・単に知識を得るだけで終わらないように、フィールドワークやグループディスカッションを取り入れ、最後には全員に「政策提言」をレポートとして提出してもらいました。
・毎年たくさんの学生に受講いただいています。講座の中から生まれた学生推進員が若い世代に向けた普及啓発を担うことで、より多くの人に拡がるようにしています。
・学生推進員となった学生たちには、徳島県センターが実施するイベントでの講師や、アースパレードの企画運営など、学んだことを実践する機会をたくさん用意して、特に若い世代への普及啓発につながるように工夫しました。
・この講座は、徳島大学との連携で実現しました。同様の講座を阿南工業高等専門学校でも実施しており、これからも高等教育機関との連携を拡大していきます。
・学生が、徳島県センターでの実践活動を経験しながら成長していく姿を見るのは、嬉しいものです。これからも若い力を引き出して、卒業後も環境リーダーとして活躍してほしいと考えています。

○活動の成果

・学生地球温暖化防止活動推進員8名増加（他大学も含めると、2019.10.1現在67名の学生が活躍しています）
・講座開催回数：15回
受講生：延べ1,293人

○今後の課題・展望

環境問題に関心のある学生は多いと感じています。これからも多くの学生に勉強する機会や実践活動の機会を与えながら、主体的に行動する人材を育成していきたいと考えています。

うどん県のクールちょいん寺(じ)さんプロジェクト

香川県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：寺院,檀家,クールシェア,ウォームシェア

○活動の目的

県内の寺院にCOOL CHOICEについて理解と賛同をもらい、ご住職から檀家などへ法話や温暖化防止のチラシの配布を通じてCOOL CHOICEの普及拡大を図ることを目的としている。

○実施までの経緯

お寺は、様々な行事を通じて多くの人が集まり（クールシェア・ウォームシェアスポットでもある）、他方、法要などでご住職が檀家等に出向いていくなど、たくさんの人と接する機会がある。

さらに、ご住職は、日頃から法話やお説教を行う機会があり、人に伝える優れた話術を持っている。

また、幼稚園・保育園あるいは介護施設等を経営している寺院やラジオのパーソナリティをしている住職もあり、幼児から老人まで多くの人々と関わる機会があることから、幅広い普及啓発が期待されることから、四国は88ヶ所霊場もあることから四国らしい寺院を通じてCOOL CHOICEを普及拡大するを考えた。

○主な取組み

■対象：檀家さんはじめお寺に来る方々

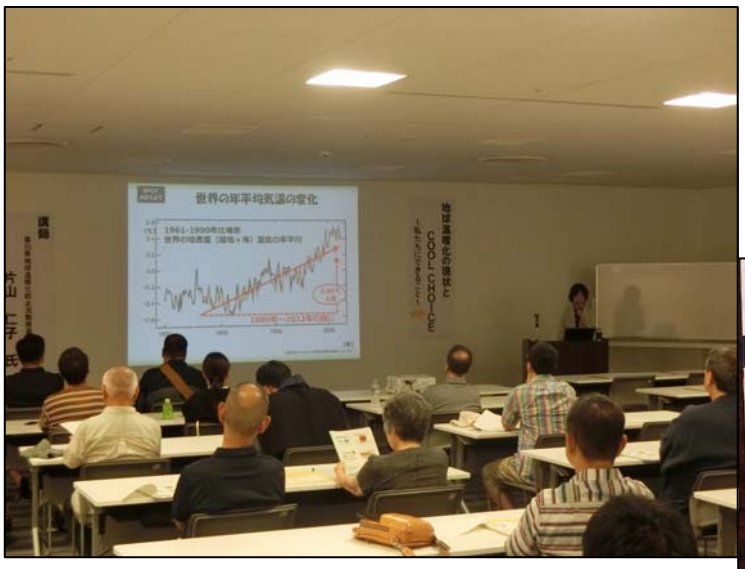
■実施方法：各寺院にCOOL CHOICEついて理解を得、賛同をもらい、COOL CHOICEのﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄをお渡し、檀家等へﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄの配布と法話時などにお話ししてもらう。センターのHPやSNSで紹介。

■準備・調整：職員や推進員の知り合いのお寺から賛同をもらい、次のお寺を紹介してもうようにした。

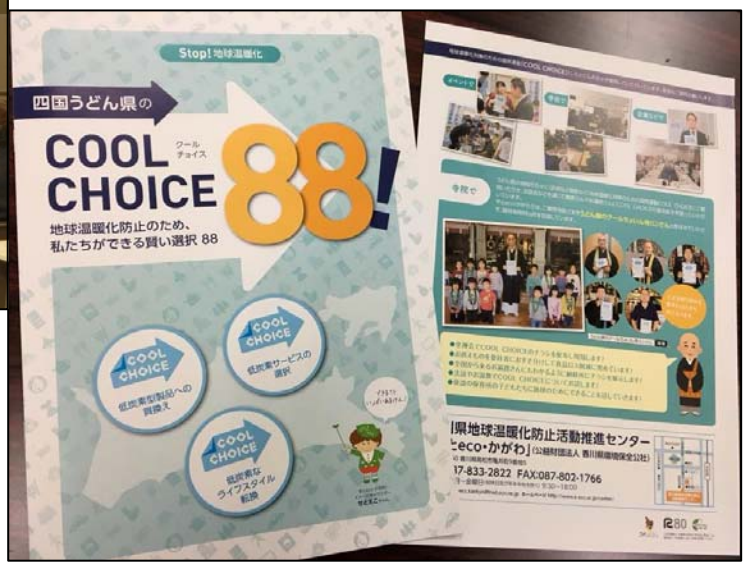
■キーとなった連絡先：高松市仏教会の会合に参加し、COOL CHOICEに説明をしたところ多数の寺院の賛同があった。

また、高松市との共同開催でCOOL CHOICEセミナー（寺院向け）を開催したところ、高松市仏教会加入の寺院が中心となって参加してもらえた。（内1名が地球温暖化防止コミュニケーターを取得）

○地域とのかかわり方



寺院向けのCOOL CHOICEセミナー

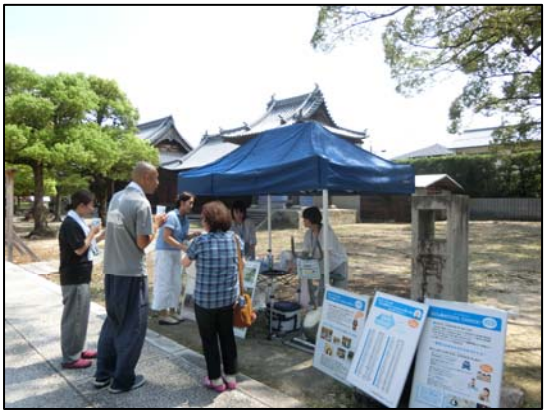


うどん県のCOOL CHOICE88ﾊﾟﾝﾌﾚｯﾄ

○活動の様子等

法話でのCOOL CHOICE普及拡大

お寺が経営している幼稚園でCOOL CHOICE学習



クールちょいん寺(じ)さんでエコお接待

納経所での緑カーテン設置

○効果的な実施のための工夫等

・県や市などの自治体・推進員の協力で賛同拡大を図った。
・県からのアプローチで納経所に緑のカーテンを設置しCOOL CHOICEをアピールでき、高松市の共同開催でCOOL CHOICEセミナー（寺院向け）を開催できた。
・COOL CHOICEに賛同した寺院を親しみやすいネーミングとして「うどん県のクールちょいん寺(じ)さん」とした。SNSでも発信している。
・四国と言えばお遍路→お寺にアプローチ→COOL CHOICE普及拡大

○活動の成果

・寺院がCOOL CHOICEに賛同するだけでなく、法話で温暖化防止について話してもらったり、納経所に緑のカーテンを設置、また、ラジオのパーソナリティをしている住職の番組でCOOL CHOICE特集にしてもらうなど、幅広く普及啓発できた。また、その様子を四国新聞で取り上げてもらえた。
・学生地球温暖化防止活動推進員の研修会場として場所を提供してもらえた。
・県とセンターでお遍路さんに対してエコお接待ブースを設け啓発

学生推進員の研修場所を提供

住職がパーソナリティをしているラジオでのCOOL CHOICE啓発

○今後の課題・展望

なるべく多くの寺院に賛同をもらえるようにしたい。

えひめアースキッズ体験隊
「知って、体験！みんなの地球」

愛媛県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：体験型講座,子ども向け,長期休暇

○活動の目的

クイズ・工作・実験等を交えた体験型の講座にすることで、「地球温暖化」を身近に感じてもらうこと、また、地球温暖化を正しく知ってもらうこと

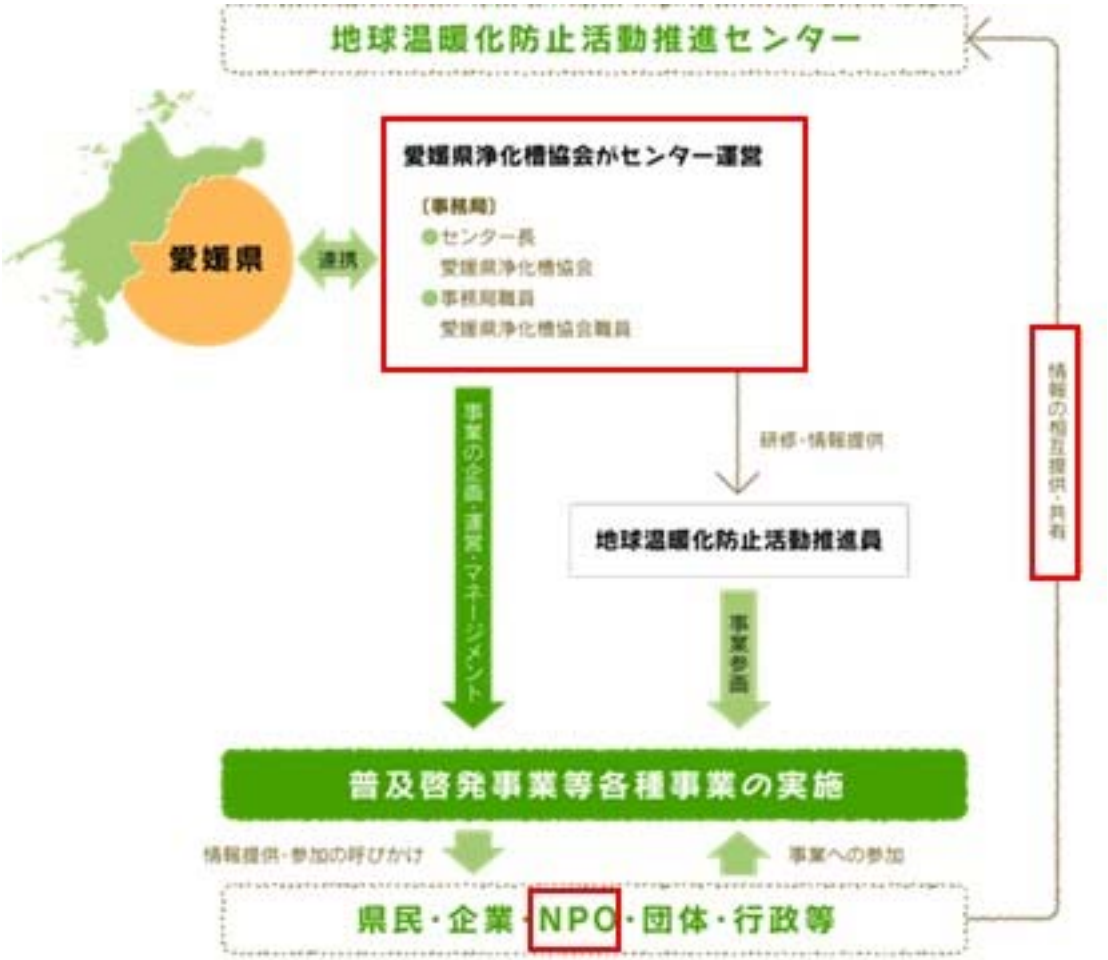
○実施までの経緯

自分たちが住んでいる地球で起きていること(地球温暖化についての概要、原因、影響や現状など)を、講座を通して体験しながら知る機会を設けることで、自分たちの暮らしに関係があることを知り、これからできる事を考えてもらうきっかけをつくるため。また、他人事ではなく自分事として捉え、自ら判断し、行動できるような人材を形成するために、主に子供向けに活動を実施することとした。

○主な取組み

・長期休暇を利用した小学生の預かり事業を実施している団体の協力(実施場所・人数の確保等)を得て、虹の万華鏡を作成して光の特徴や光と空気と気温の関係を知ることで、地球温暖化を考える講座を実施。
・成果指標は、児童の参加人数と関わった団体のCOOL CHOICE賛同とし、児童には、COOL CHOICE賛同シートをアレンジし、これから何ができるのかを各自が考えて宣言する「クールチョイス宣言」を記入してもらっている。

○地域とのかかわり方



予算元：公益社団法人 愛媛県浄化槽協会

○活動の様子等

児童への配布物

○効果的な実施のための工夫等

・自分で光を見る道具「虹の万華鏡」を手作りすることで、工作や完成後の光の観察への意欲を向上させている。
・グループで集まって光の観察結果を話し合う時間を設けることで、光の並び順から目に見えない光(赤外線や紫外線)を意識させ、地球温暖化を感じてもらえるようにしている。
・LED電球と白熱電球を見比べる、また、触ることで、見え方や温度の違いを体感でき、光と空気と気温の関係についてより知ってもらえるようにしている。
・色下敷や光の三原色発生器も用意し、光への関心をもってもらえるようにしている。
・地球温暖化防止コミュニケーターの資格を有した者が、資格者のみ使えるコンテンツを使用することで、自分たちの未来を考えてもらいやすくしている。

講座で活用したツール（左から電球,色下敷き,光の三原色発生器,コミュニケーターツール画像,（右上）虹の万華鏡

○活動の成果

・参加児童：49人
・協力団体：2団体
・3.84 t-CO2
　各自で考えたCOOL CHOICEを実践することによって削減される見込みCO2排出量
・長期休暇を利用した小学生の預かり事業を実施している団体のプログラムの1つとすることで、地域課題の解決や地域活性化の効果に、また、子供たちの社会参画への意識向上につながる。

○今後の課題・展望

愛媛県内の各ステークホルダーと連携を行うことで、幅広く地球環境について考えてもらいたいと考える。

仁淀川こども祭り＆日高めだかフェスティバル

高知県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：ウォームビズ,生物多様性保全,SDGs

○活動の目的

イベントのエコ化を目指すと共に、めだか池の環境保全をきっかけにウォームビズ等、具体的な温暖化対策を実践する家庭を増やすことを目的として実施。

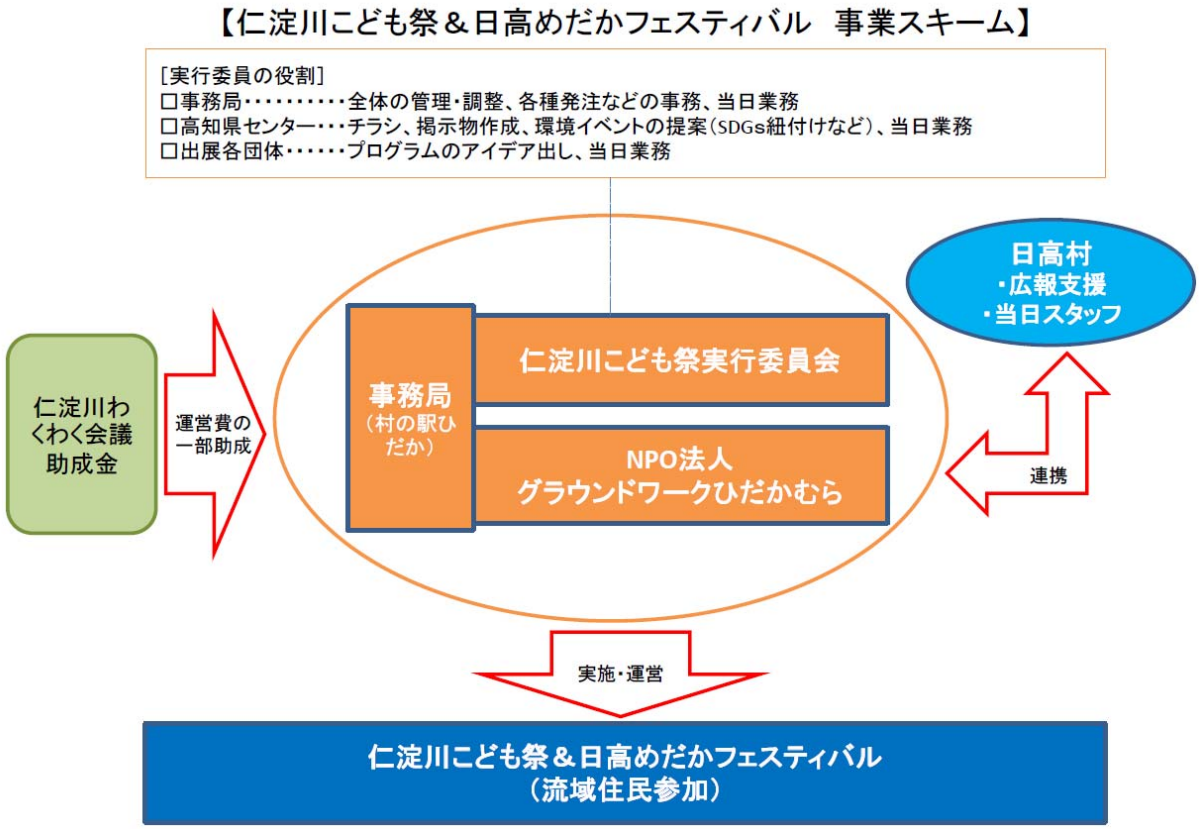
○実施までの経緯

「生物多様性保全上重要な里地里山」に選定されているめだか池周辺において、近年メダカの減少や、めだか池周辺の環境保全の担い手不足等の課題がある。そこで本イベントの実行委員会を通じて、環境課題を解決するにあたって流域単位で考えることの必要性や、温暖化対策との関連性を「SDG s 」「地域循環共生圏」の考えをもとに共有し、あらためて地域住民がめだか池に関心・親しみを持つことで、環境保全・地域活性化にも繋がるイベント目指しました。

○主な取組み

主に仁淀川流域の地域住民を対象とした「仁淀川こども祭＆日高めだかフェスティバル」を9月23日（祝）に開催しました。（※当センター主催ではなく、実行委員会メンバーとして）当日は地元の子ども達によるステージショーや仁淀川流域の地場産品などが多数出展し、体験コーナーではめだか池での「カヌー体験」「メダカ釣り体験」「生き物大探索！」「間伐材を使った木工クラフト」なども行い、子どもから大人まで楽しみながら流域の環境について考える機会となりました。また、当センターのブースでは「自転車発電体験」や「手回し発電釣りゲーム」を実施し、エネルギーの大切さを体感した後ウォームビズなどのCOOLCHOICEの提案を行いました。イベントの準備にあたっては、事務局と密に連絡調整を図るとともに、実行委員会を通じて環境の視点から全体のコーディネートを行うことで環境イベントとしての一体感を築き、センターと地元の各主体とのつながりを深めることができました。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

イベントチラシ

イベントで掲示した案内表示

○効果的な実施のための工夫等

令和元年度で8回目となる開催に向けて事務局側から、実行委員会メンバー及び地域住民に対して環境イベントであることを再認識してもらう必要があるとの相談を受けました。そこで、出展者には該当すると思われるSDGｓのアイコンを選び・掲げていただくことで、自身の業務・活動と環境との接点を再認識していただくことと、チラシや掲示物にこのイベントで目指すSDGｓのアイコンを掲示することで地域住民に対して環境イベントであることのPRを図る提案を行いました。その過程で気候変動と、めだか池・仁淀川の保全、地域住民との接点などを実行委員会メンバーと共有できたことにより地域の各主体との繋がりが深まりました。

○活動の成果

・みなし削減量：82.8（t-CO2/年）
計算式：600人（センターブース来場者）×138kg-CO2
・イベント全体の動員数：約2,000人
・日高村商工会女性部より、SDGｓに関するセミナーの依頼を受け、他団体と協働での実施に繋がった。当日はブロック外からも参加申し込みがあり、定員30名に対して43名の参加に繋がるなど、本イベントをきっかけに日高村及び周辺地域での「SDGｓ」に対する関心の高まりを感じることができた。参加者が地元の企業ということもあり今後、SDGｓの考え方を用いた地域活性化・温暖化対策の推進に期待が持てる。

SDGsセミナーチラシと当日の様子

○今後の課題・展望

環境保全の担い手不足等の根本的な課題解決には至っていないため、さらに地域住民を巻き込みながら温暖化対策・環境保全の担い手育成を継続的に行うとともに、県内各地で開催されているイベントのエコ化を目指します。

COOL CHOICEについて学び、自分ができるエコを考えよう

福岡県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：学童,出前講座,夏休み

○活動の目的

学童の子どもたちが地球温暖化の現状を学び、自分が温暖化対策としてがんばることを一人ひとつ紙に書いて宣言する

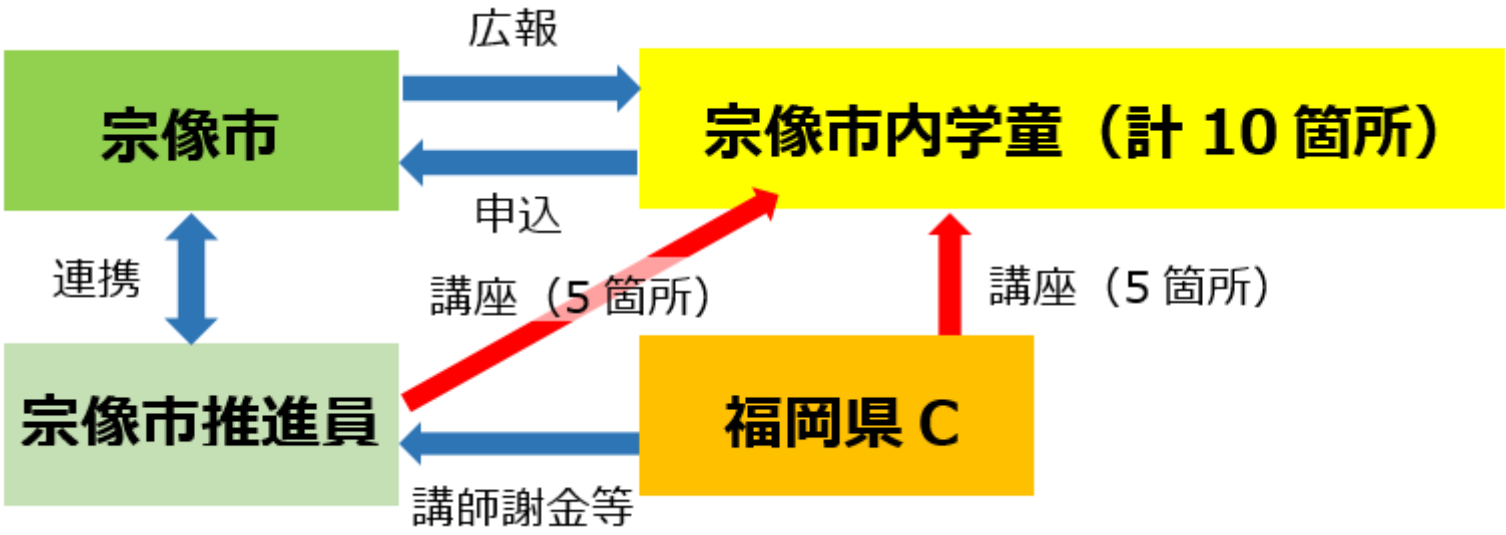
○実施までの経緯

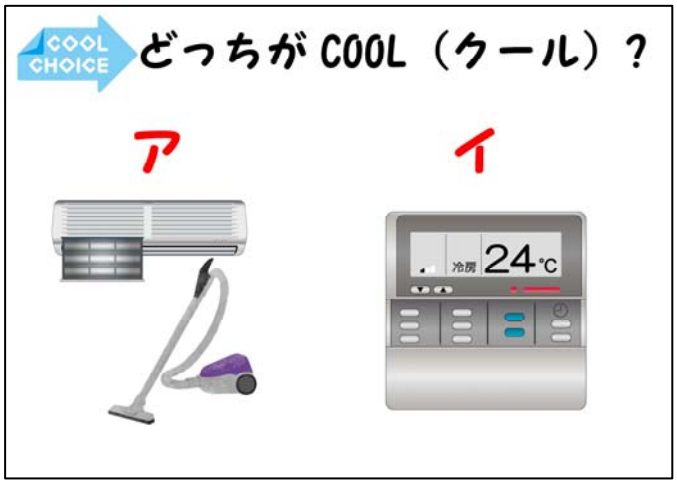
自治体からの依頼で、夏休み期間中に管内学童保育所（10箇所）に対し地球温暖化防止等講座を行う機会があり、地元推進員とセンターで分担することになった。

○主な取組み

夏休みに宗像市内の学童保育所計5箇所で、地球温暖化やCOOL CHOICEを学ぶ講座を実施した。学童は低学年から高学年が混在しているため、資料作成には配慮した。夏休み学童は比較的時間にゆとりがあるようで、かつスケジュールが数ヶ月前にすでに決まっているということも無かったため、応募が多かったようである。小学校のカリキュラム内に入るのは困難（カリキュラム過密状態のため）だが、学童は比較的受け入れられやすいため、他地域でも同様に広報、講座を展開していきたい。

○地域とのかかわり方





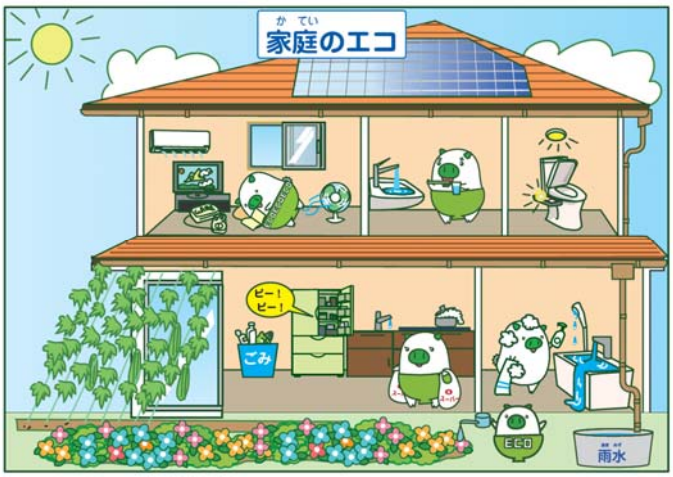
COOL CHOICEクイズに回答する子どもたちの様子

○活動の様子等

講座を行っている様子

自分の出来ることを書いた葉を貼る木

自分のできることを葉の形をした紙に書く様子



家の中のもったいないを探す教材

○効果的な実施のための工夫等

・児童らが飽きないように、講演途中にクイズを入れたり、後半は活動を入れたりした
・途中で何度か「これまでの話のまとめ」を入れて、理解を促した。
・幹が書いてある模造紙に、児童らが自分ががんばることを書いた葉をはり、エコの木を作った。それを学童内に掲示してもらうことで、自分ががんばることを随時確認できるほか、友達の宣言を見て自分ができそうなことはやってみてほしいと活動を更に促した。

○活動の成果

・受講者：305人　42.08t-CO2/年

○今後の課題・展望

夏休み学童は比較的時間があるようで、多くの学童で実施することができた。これは全国共通だと考えられるので、夏休み学童を対象とした講座は比較的開催しやすいと考えられる。その際の講師の確保が課題である。

エコドライブコンテスト2018

長崎県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：エコドライブ,達成度の見える化

○活動の目的

エコドライブの推進

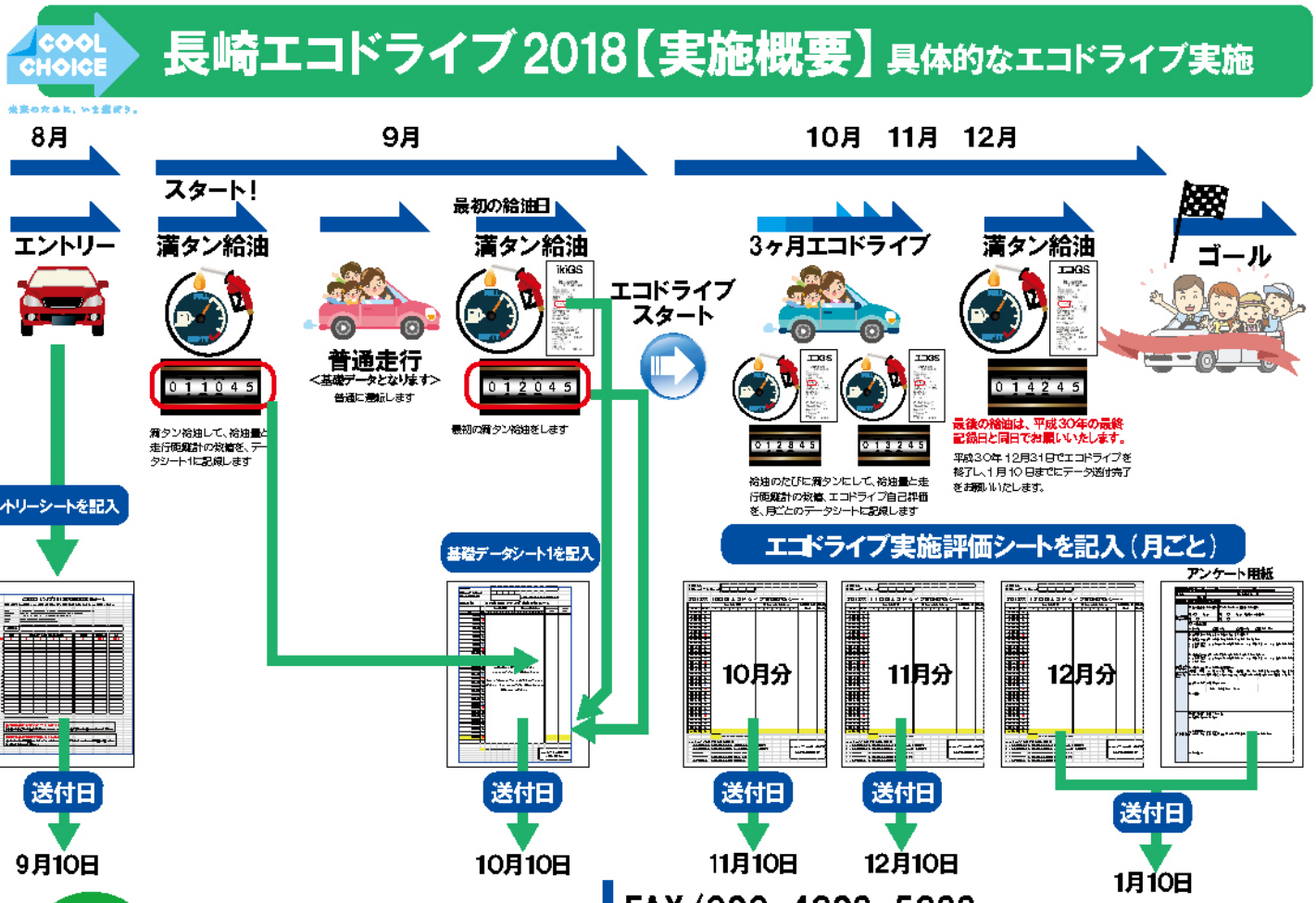
○実施までの経緯

全国に比べ運輸部門における二酸化炭素排出割合が高い長崎県の特徴を踏まえ、地球温暖化防止活動推進員や他団体とも連携し、地域における国民の日常生活に関する温室効果ガスの排出実態に関する調査、情報収集、普及啓発等を行うことで、エネルギー起源二酸化炭素の排出の抑制に資することを目的に実施した。

○主な取組み

参加車両は機器をつけることなく、記録をつけることでエコドライブを習慣化することを目的としている。まず、これまで通りの運転で1ヶ月間自動車を使用する。このときの燃費を基礎燃費という。ネット等を利用したエコドライブ実践講座を受講した後から3ヶ月間、エコドライブと安全を意識した運転を行いながら算出される、各月の平均燃費と基準燃費を比較して、車両ごとに燃費向上率を算出する。各車両の燃費向上率を月ごとに集計し、あらかじめ付与された各車両固有のIDを燃費向上率の高い順に並べた表（匿名ランキング表）を作成し、評価を行った

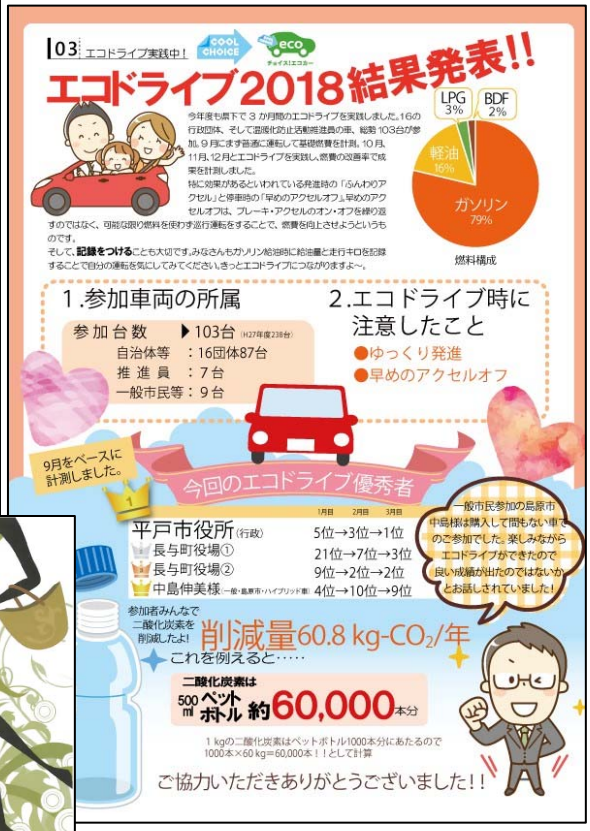
○地域とのかかわり方



長崎県地球温暖化防止活動推進センター
FAX/020-4623-5633
Email/info@nccca.jp

○活動の様子等

エコドライブチラシ



エコドライブ成果

見る知る学ぶエコドライブ手帳

○効果的な実施のための工夫等

・①アンケート集計にテキストマイニングの手法を使い、アンケートワードの抽出結果の見える化を行った。
・事業所単体でエコドライブを実施しているところは、まれにあるが、事業所のなかでの成果で、なかなか他所との比較ができる機会がない。客観的に自己のエコドライブの成果をより理解してもらうため、エコドライブの達成度の見える化を図った。
・HPやSNSで情報発信を行った。また、参加者に成果をフィードバックした。
・チラシ送付だけではエコドライブの実施方法を間違っている事業者や参加者もいるようで、直接丁寧な指導を行った方が、エコドライブの実施者も増え、またI記録のつけ方も正確になるため、直接事業所に電話や訪問を行い、エコドライブの成果を分かりやすく伝えた。
・県と連携し、可能な限り直接依頼を行った。
・機器をつけないので、費用が少なく実施できる。(設置取り付け及び解除費用が不要)　自分だけではなく、IDをつけることで他の実施者とエコドライブを把握することができ、結果を楽しみに参加できる。

○活動の成果

・予定参加台数100台のところ、3台オーバーの103台の参加があった。
・0.0608t-co2（t-CO2/年）
・エコドライブを推進することで、燃料代の経費削減にもつながり、引いては究極の安全運転もなり、保険代が下がると事業所からは喜ばれた。

○今後の課題・展望

結果は良くとも、参加者の獲得が一番課題で、参加することが面倒と思われている人が多い。

「エコcafe」事業（防災クッキング）

長崎市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：エコクッキング,防災

○活動の目的

防災に対する意識啓発、防災に備える行動変容

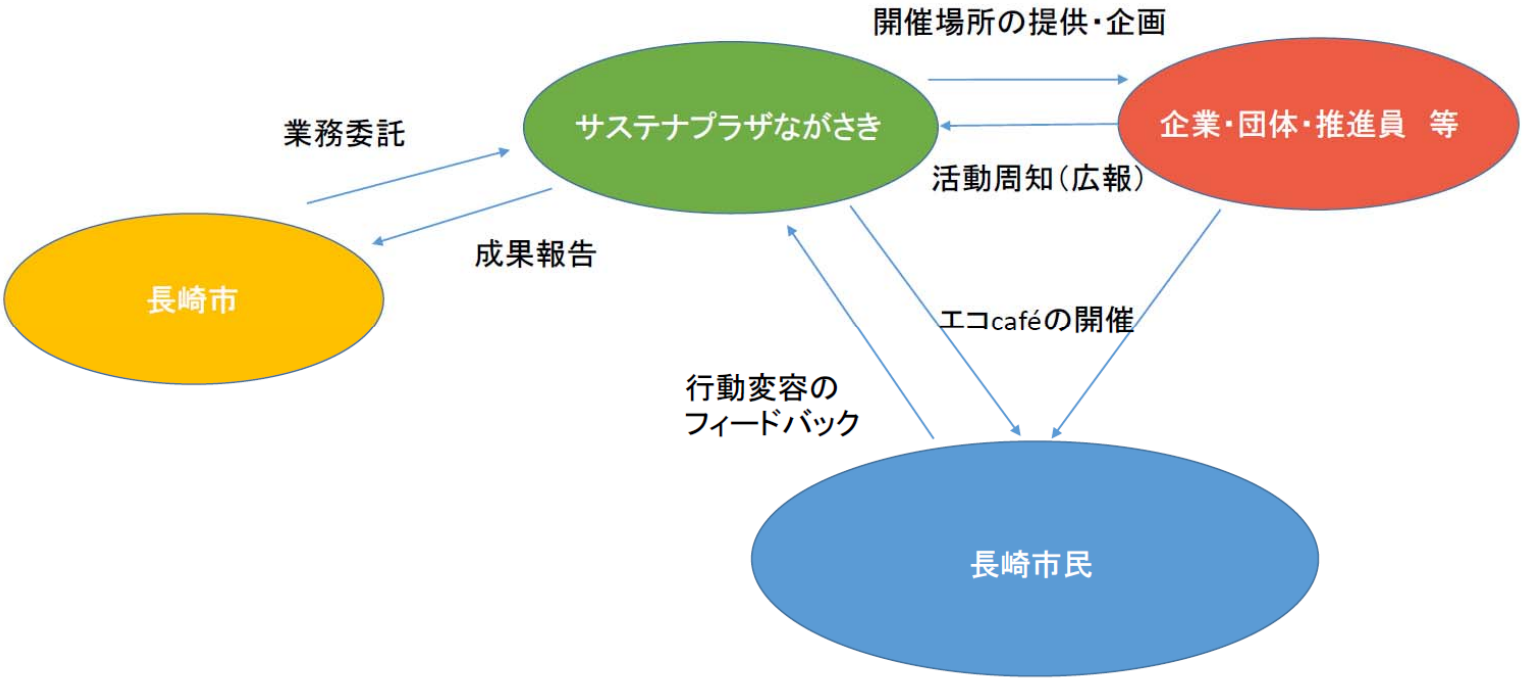
○実施までの経緯

エコcafeは３０年度３７回実施しており、毎回違うテーマを取り上げている。中でも防災クッキングでは年ごとに被害が大きくなる自然災害に備えて、手近な材料や簡単な調理器具でできる防災食をつくり試食しながら、気候変動や防災について学ぶことを目的としている。

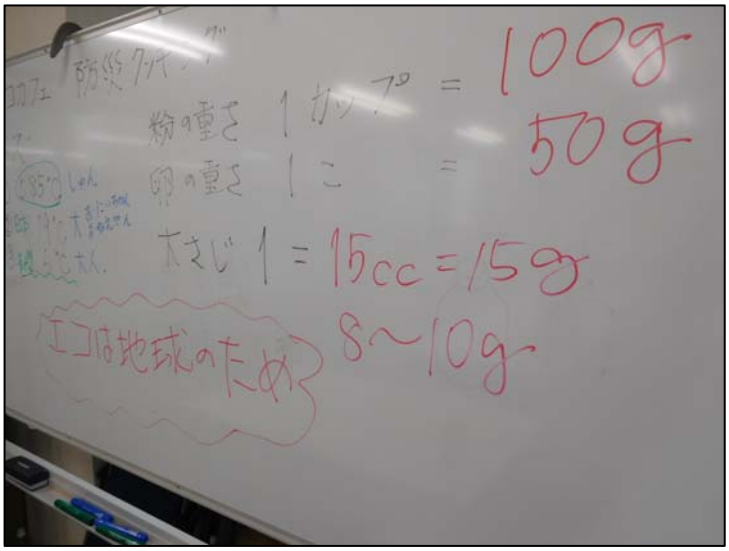
○主な取組み

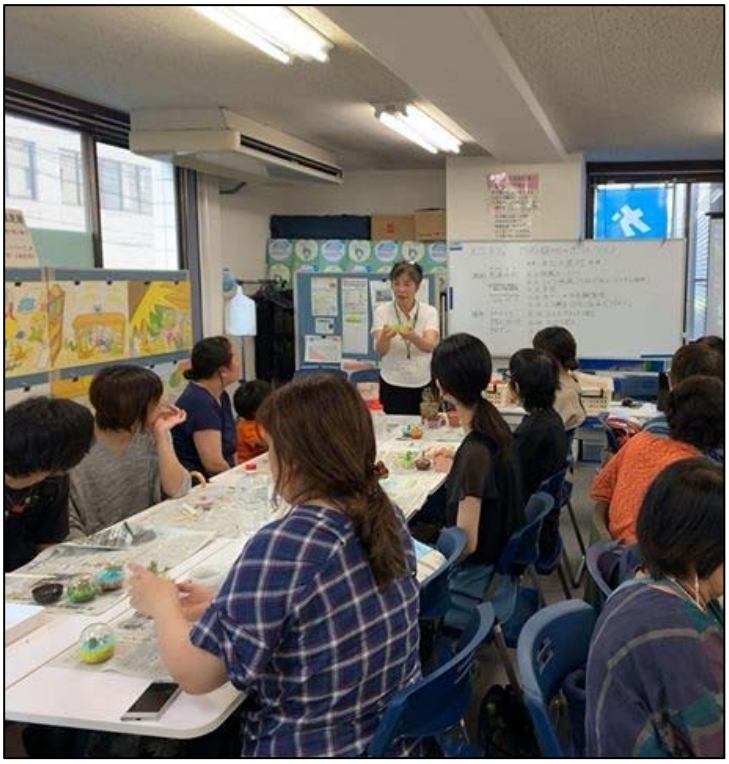
*対象　：　幼児から高齢者まで（講座内容によって異なる）、約２０名程度
*内容　防災クッキング（ビニール袋を使った蒸しパン作りなど）
*期待した成果：防災クッキングを通じて、エコスタイルへの行動変容
*実施のために必要な準備物　：　食材、調理器具、配布資料、講師私物の防災グッズ
*連絡調整（準備期間）約一か月程度（構成、試作品づくりを含む）
*実施場所　：　サステナプラザながさき及び調理施設のあるふれあいセンター等

○地域とのかかわり方



○活動の様子等





エコcafeの様子

○効果的な実施のための工夫等

・災害時あるもので工夫するという内容であったので、なるべく手近な材料や簡便な調理器具でできる防災食を作っている。

○活動の成果

・平成３０年度エコcafe開催回数　：　３７回
・動員数　：　３４３人

○今後の課題・展望

当センターのエコcafeでは、防災クッキングのみならず防災講座やエコクッキング等様々な年齢層の方が参加できる講座を開催している.これからも沢山の方にエコ防災等の普及啓発をしていきたい。

ふくくる市

佐世保市地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：廃棄物削減,3R

◯活動の目的

家庭等で不要になったものでも、誰かほかの人の必要になるかもしれないコンセプトで、リユース活動を推進し廃棄物削減を行う

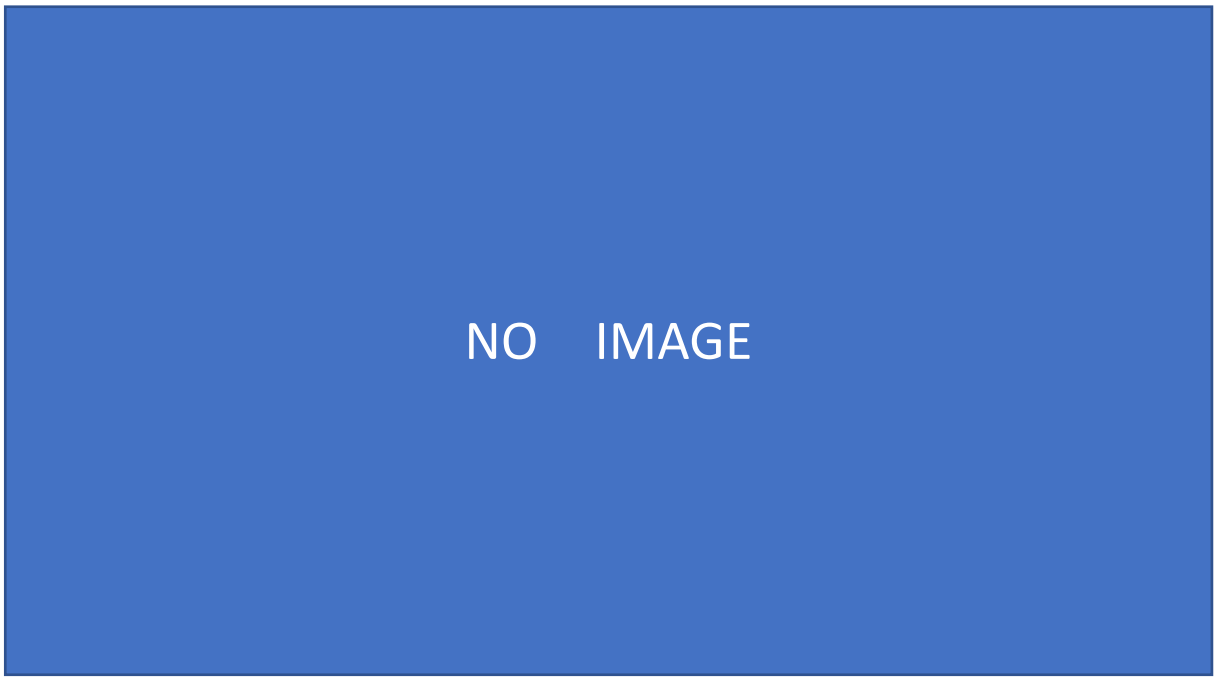
◯実施までの経緯

佐世保市における廃棄物処理の財政圧迫や、市民のごみ捨てマナーにも課題がある。また従来のフリマでは金銭的価値のあるものだけが取引され、一般市民にとって必ずしもハードルが低いわけではない。そこでリユースとリデュースを同時に楽しく実践するため、無料の品物交換会を行うことになった。

◯主な取組み

原則として20歳以上の一般市民が、家庭における不用品を持ち込み展示し、他の一般市民が自由に品物を持ち帰る仕組みである。出品や持ち帰りはすべて無料で、家庭からの廃棄物発生を抑制する効果と、市民のごみ捨てマナー向上を目指している。毎月1回、エコプラザ内を会場として実施している。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

ふくくる市の様子

○効果的な実施のための工夫等

・口コミを中心に広げることを当初の目標とした。そこで、エコプラザ内の他の団体向けに直接チラシを配布し参加を促した。
・商店街の入り口にある拠点施設でのチラシ配布を行った。
・インパクトのあるポスターを、スタッフの手作りで行った。環境系のポスターではなく、廃校跡を利用したシーンを使うなど、目を引くデザインとレイアウトで作成した。

○活動の成果

・毎回40名程度の参加があり、エコプラザが実施している講座の倍近い参加者を得ている。
・フリマではなく無料交換会であることから、どんな市民でも気軽に参加できること、家庭にある不用品を改めて検討しなおすきっかけになるので、ないと思って無駄に購入してしまうことの抑制になる。

○今後の課題・展望

出品者の増加と、出品可能物品の拡大を検討している。今後は電化製品なども需要があると思われるので、取引のための資格保有も検討していく。

エコドライブ診断リレー

熊本県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：エコドライブ,GPSロガー

○活動の目的

エコドライブを熊本県内に幅広く普及拡大することで、自動車利用によるCO2排出削減を図ることを目的としました。

○実施までの経緯

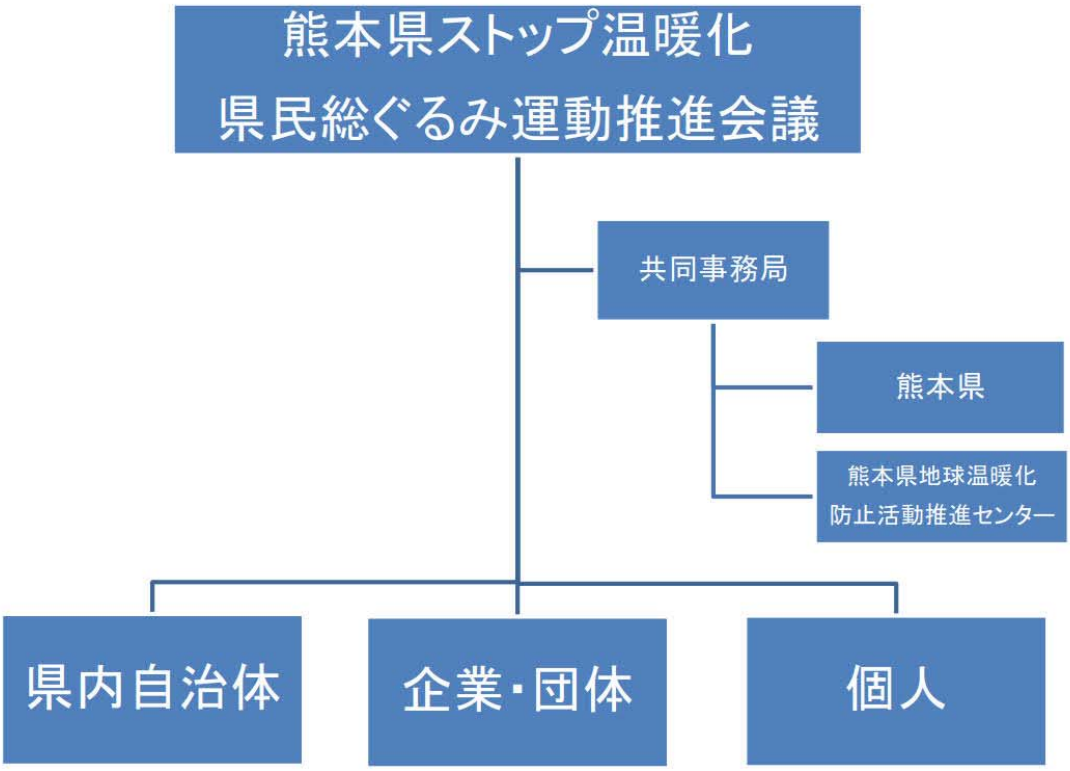
熊本県は、移動に際して自動車利用の必要性があり、さらに自動車利用によるCO2排出割合も高いことから、効果的な削減が見込めるため。

○主な取組み

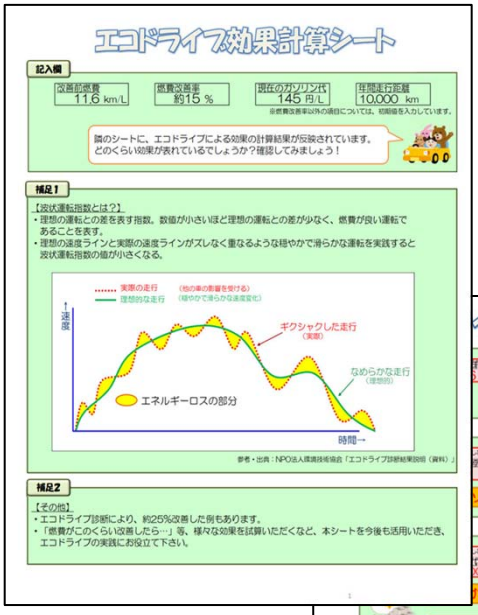
・環境にやさしい運転を手間のかからない簡易な診断方法で実施し、企業・団体及び個人で繋ぐリレー方式を採用することで、幅広く受診いただいた。
・熊本県には、県内全自治体、企業・団体や個人の方が会員となり参加している熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議があり、その会議の中で推進することにより、熊本県と連携し、自治体のみならず企業・団体、個人にまで幅広く推進できた。
・このエコドライブ診断により、受診者はエコドライブの実践による消費燃料削減効果と安全運転技術の向上に有効であることを理解いただくとともに、熊本県内でのCO2排出削減効果も期待出来る。

診断で使用する「GPSロガー」

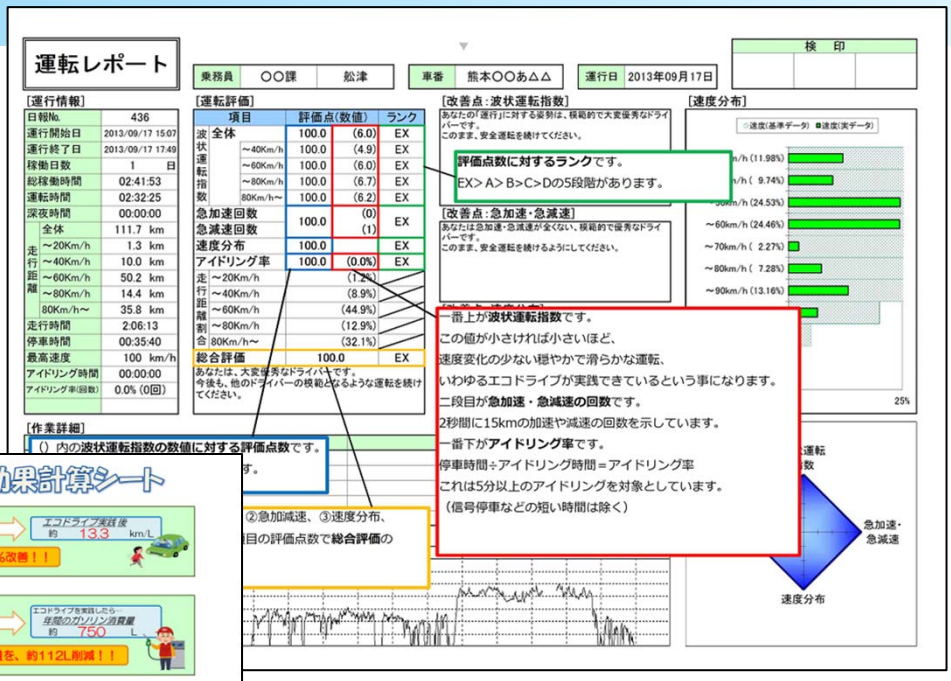
○地域とのかかわり方



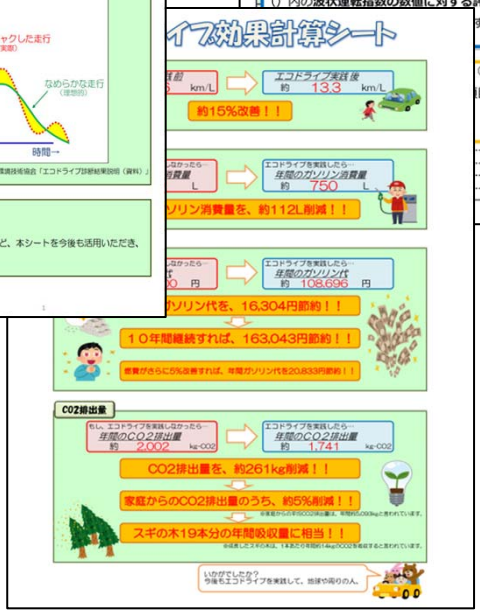
○活動の様子等



エコドライブ効果
計算シート



運転レポート



○効果的な実施のための工夫等

・車のシガーソケットに接続するだけで記録可能な「GPSロガー」を利用することで、受診者が走行距離などを記録する手間を省き、簡易に実施できるようになっている。
・熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議として、県内自治体、企業・団体・個人の県民の方が会員となり参加しており、熊本県と共同事務局なる事で、熊本県と連携し温暖化対策を計画・実施し、幅広く推進できた。
・エコドライブの成果の「見える化」。
・本会議の事務局を熊本県と共同で運営し、熊本県が推進する温暖化対策と連携して実施した。

○活動の成果

・平成30年度の参加者は、14自治体70名、17の企業・団体87名、個人10名の計167名。
本取り組みを、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団主催の平成30年度エコドライブ活動コンクールに応募し、審査員長特別賞を受賞した。
・エネルギー起源CO2排出削減量：3.54 t-CO2
本診断に使用する「GPSロガー」の記録より、波状運転指数（理想の速度ラインと実際の速度ラインのズレの度合い）が算出される。その指数の改善値により、どの程度燃費が改善されたかわかり、その結果を車のモデルケースに当てはめ、排出削減量を算出した。
・動員数：120名
熊本県とエコドライブコンクールを開催し、熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議にて表彰式を行ったときの参加者。

○今後の課題・展望

主に熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議会員に実施いただいていおり、今後は会員以外の県内企業団体や個人の方にも広く受診いただきたい。

おおいた低炭素杯2018

大分県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：エコドライブ,JAF,エコカー買換え,試乗会

○活動の目的

2030年度までにCO2排出　26%（家庭40%）を目指し低炭素社会を構築するため、県内における地球温暖化防止に関する活動を募集、顕彰する

○実施までの経緯

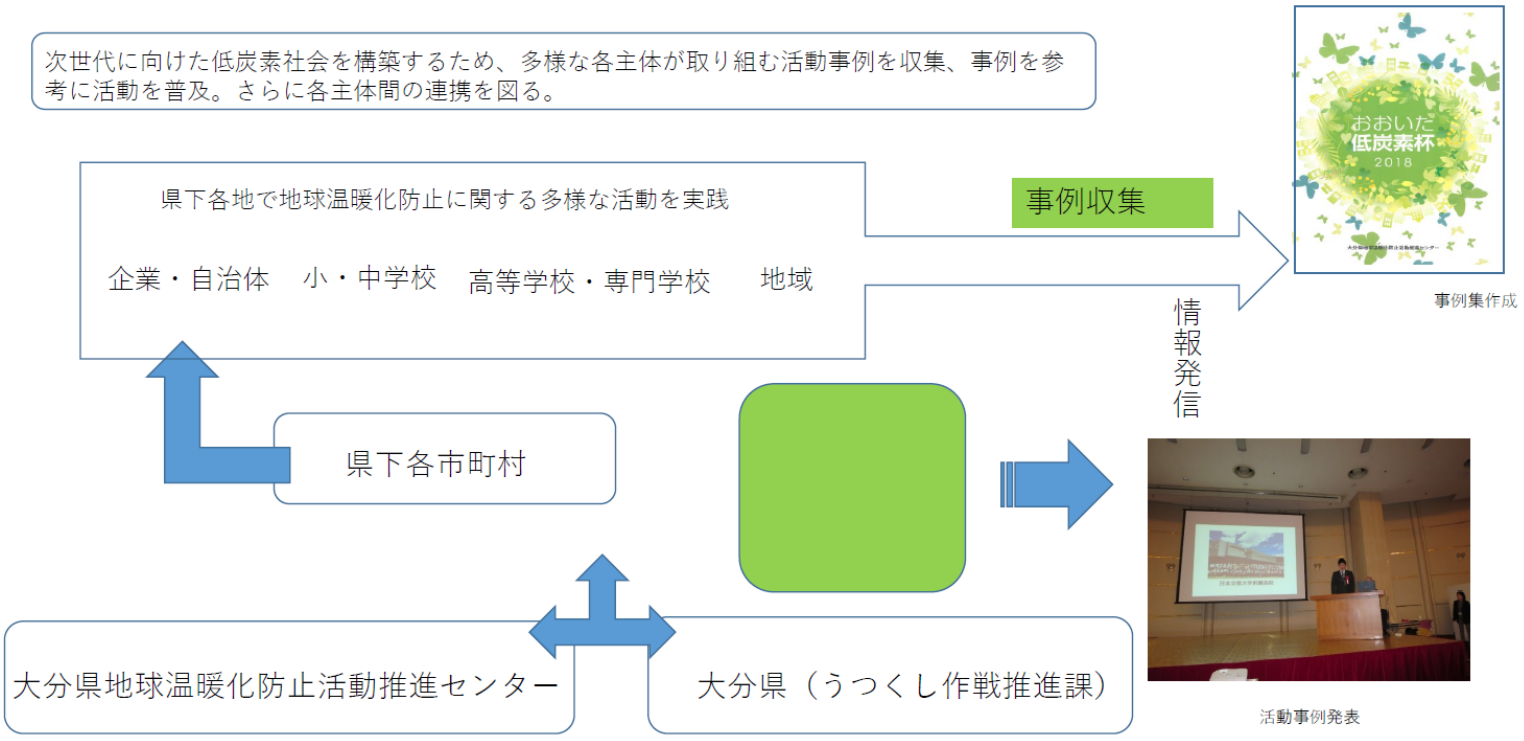
次世代に向けた低炭素社会を構築するため、学校・地域・有志・NPO・企業等の多様な主体が県下各地で展開してる地球温暖化防止に関する活動を収集し、学びあい、連携の輪を広げること等、情報発信の場としている。優れた取り組みを顕彰し、情報発信を行うことにより、各団体の活動の支援につながる

○主な取組み

県内各地で取り組んでいる地球温暖化防止に関する多様な活動の事例を収集し、その知恵や経験を広く共有するとともに、大分県知事賞等を選出し、大分県代表として全国へ情報発信をしている。

・募集期間　平成３０年７月２７日～９月３０日
　　関係機関、団体等、ホームページ等で広報（各市町村を通じて周知）
・活動部門　市民、企業・自治体、学生、ジュニア・キッズ
・審査会　学識経験者、報道機関、関係団体代表、行政等で実施
　　一次審査・・書類による　二次審査・・プレゼンテーションによる
・毎年地球温暖化防止月間にあわせて開催する「おおいた地球温暖化防止推進大会」において表彰、事例発表を行い、県民に対して広報を行う。
・事例集作成　活動事例集としてまとめ、情報発信するとともに、団体・組織間の連携を図る

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

エコアイランドと地域活性化を目指した超小型 EV の活用

姫島エコツーリズム推進協議会

取り組みの紹介

エコアイランドを目指して大分県の離島「姫島」にて、環境に優しい超小型電気自動車を活用し、島へ訪れる観光客の二次交通問題の解決と低炭素な交通社会の実現、また青パパイヤ栽培による二酸化炭素の吸収と特産品づくりにも挑戦しています。今年度からは太陽光発電からの電気を超小型電気自動車の充電と事務所の電気に利用し、エネルギーの地産地消で低炭素な社会を実現するための取組みを行っています。

活動の目的

島内での電気自動車の活用による二次交通の課題解決、そしてエコツーリズムを通して自然環境への意識付け、保全を観光客に伝えながら、地域全体でも環境保全に取り組むことを目的としています。また、地域ぐるみで連携して取り組むことにより、観光振興、地域活性化を行い持続可能な地域づくりを目指しています。

活動の内容

【沿革】

2013年7月　超小型電気自動車（1人乗り）実証導入
2014年6月　姫島エコツーリズム推進協議会設立
2014年11月　超小型電気自動車（2人乗り）5台導入
2015年4月　エコレンタカーによるエコツーリズム スタート
2018年7月　電気自動車ランドカー（4人／7人乗り）4台導入
2018年8月　利用者2,000組 達成

姫島において電気自動車（1人乗／3台、2人乗／7台、4人乗／3台、5人乗／1台、7人乗／1台）をエコレンタカーとして観光客へ貸出し、二次交通の提供とエコツーリズムの体験を通して自然環境保全への啓発活動を行っています。地域ではグループホームでの高齢者の外出支援や宿泊施設等への送迎など地域の新たな移動手段としての利用実証を行いながら、これらの取り組みを他地域にも普及させるため、車両を持ち込んでの体験試乗会や情報発信も行っています。また昨年からは青パパイヤの栽培を協議会メンバーで行い二酸化炭素の吸収と特産品づくりに挑戦しています。そしてエコアイランドに向けた新たな取り組みとして、太陽光発電で作られる電気を蓄電し、電気自動車の充電と事務所の電気に利用し、自然エネルギーの地産地消で低炭素な社会づくりに取り組んでいます。

情報発信活動事例集（抜粋）

大会の様子

○効果的な実施のための工夫等

・地球温暖化防止月間に合わせて開催する「おおいた地球温暖化防止推進大会2018」において、表彰式、事例発表、事例集作成を行い、県民に対して多くの事例を知ってもらい、今後の活動に役立ててもらう
・継続的に事例を収集するために新聞情報から声かけをしたり、市町村との連携により幅広い事例の収集を行ってきた

○活動の成果

・おおいた低炭素杯で大分県知事賞に選出された団体は全国低炭素杯に大分県代表として全国へ情報発信している。
・大分県代表団体は環境大臣賞グランプリを獲得し、当事例は他の地域にも波及し始めている
・平成30年度応募団体数　１７（平成21年度から延べ139団体）

○今後の課題・展望

各市町村教育委員会、学校との連携を図り、小、中、高校等の応募を活動収集につなげたいと考えている。また、市民・地域の事例については地域活性化につながる様活動支援を充実したい

エコドライブ講習会

鹿児島県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：エコドライブ,JAF,エコカー買換え,試乗会

○活動の目的

燃費計測実車講習を通じて、県民のエコドライブ実施促進を図ること

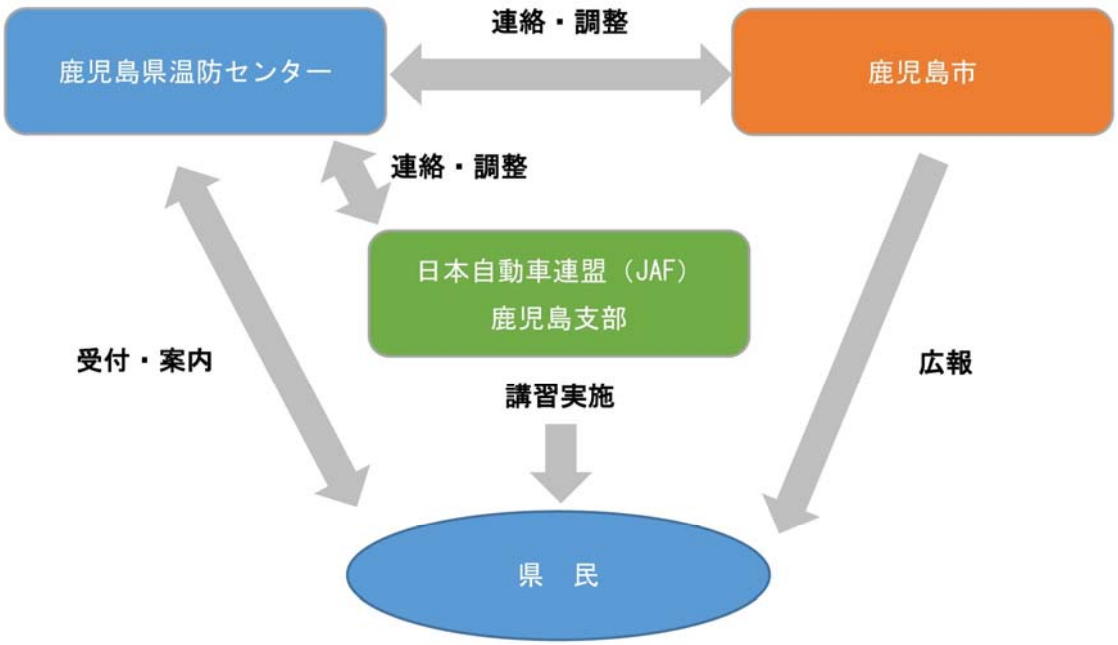
○実施までの経緯

鹿児島県は公共機関が発達していないこともあり、日々の移動には車が欠かせません。そのため、一人当たりの自動車保有台数も多くなっています。そこで、自動車からの温室効果ガス排出削減を図るため、鹿児島市とJAF鹿児島支部と連携し、県民向けのエコドライブ講習会を開催することとなりました。

○主な取組み

・一般県民の方々に、エコドライブの方法を促進するため、JAFと連携し、県内各地でエコドライブの座学を開催していましたが、よりエコドライブを体感していただくため、鹿児島市とも連携し、実車講習が可能な運転技能向上センターで、鹿児島市を中心とした一般県民の方々を対象に、実車を伴うエコドライブ講習会を実施しました。
・実施時期は、冬の自動車利用が増加する前の11月に設定し、県推進員へのチラシ配布や鹿児島市の広報誌掲載や環境管理事業所へのメール等で参加者募集を行いました。
・講習会の内容は、燃費計測機器を設置した車を用いて、普段通りの運転をしていただいて後、座学でエコドライブの方法やメリット等を学んでいただき、エコドライブを心掛けてもらう運転をインストラクター同乗のもとで実施し、燃費の改善を実感していただきました。さらに、参加者には講習会参加前から燃費記録簿を付けてもらい、参加後にも継続してもらうように促しました。
・講習会当日は、エコカーへの買換えを促すため、電気自動車の説明や試乗会を同時開催したほか、COOL CHOICEの説明も行い、地球温暖化対策への意識変容を促しました。

○地域とのかかわり方



○活動の様子等

座学講習の様子

実車講習の様子

○効果的な実施のための工夫等

・講習会当日だけでなく、講習会前と後で、参加者ご自身の自家用車を利用して、燃費計測記録を行ってもらった。
・JAFよりディーラーへ協力依頼を行い、最新の電気自動車であるリーフの試乗体験会を盛り込むことで、エコドライブに関心のない方でも参加していただけるようにしました。

○活動の成果

・講習会当日の燃費改善率は、最高で69.5%、平均で24.4%となり、参加者の大部分がエコドライブによる効果を実感してもらった。

○今後の課題・展望

・参加者の更なる拡大が課題となっています。特に、自動車利用が多い中年層（30～40代）の方が受講できるように、場所、曜日、時期の設定を検討していきます。

ＳＤＧｓ研修会

沖縄県地球温暖化防止活動推進センター

キーワード：SDGs,大学生

◯活動の目的

大学生を対象にＳＤＧｓから地域と自分の繋がりを考え、温暖化対策に寄与する活動の推進を促す。

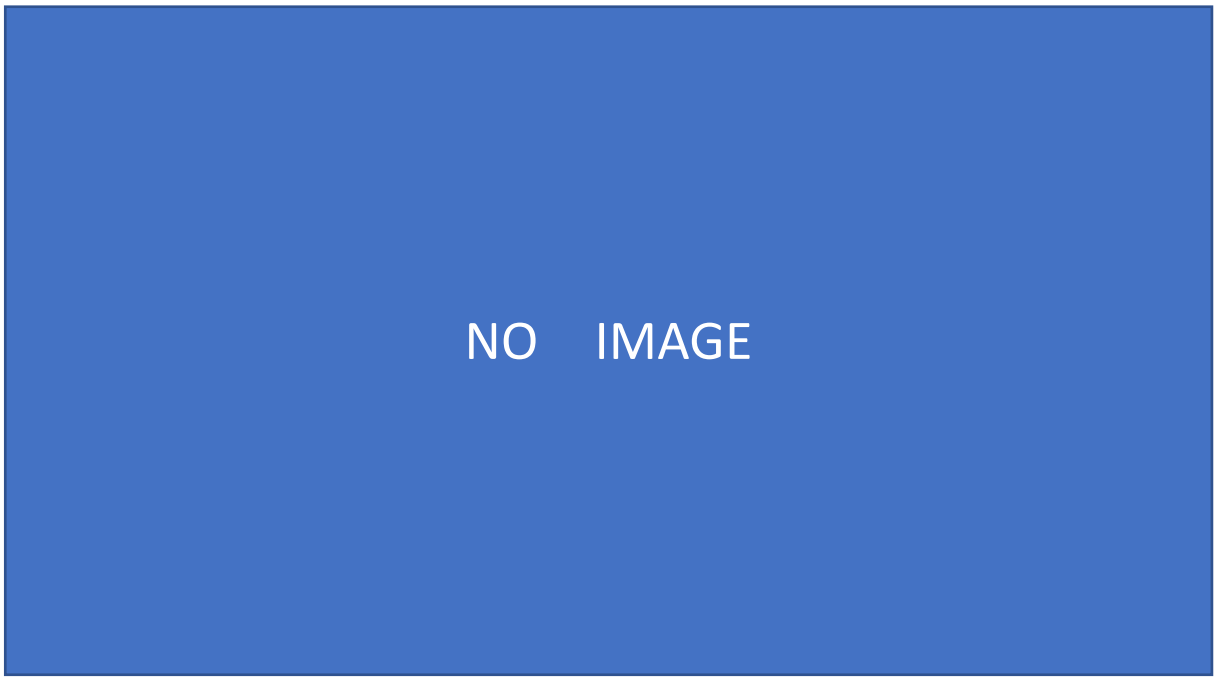
◯実施までの経緯

沖縄県地球温暖化防止活動推進員のヒアリングを通じて、琉球大学エコロジカルキャンパス学生委員会との繋がりが生まれ、大学生を対象とした研修を開催することとなり、ＳＤＧｓワークショップを行うこととなった。

◯主な取組み

大学生を対象にＳＤＧｓから地域と自分の繋がりを考え、温暖化対策に寄与する活動の推進を促す事を目的として、SDGsゲームによる研修を、琉球大学の学生を対象に行った。研修を通じて、多様な価値観、利害関係がある社会で、持続可能な社会を構築するために必要な事を考える場を受講者に提供した。その上で、地球温暖化対策が単に環境分野のみの取組ではなく、社会全体で取り組む必要があることを伝えた。受講者の一部が、推進員に委嘱をされ、大学内で精力的に活動をしている。

◯地域とのかかわり方



○活動の様子等

ＳＤＧｓワークショップ開催風景

○効果的な実施のための工夫等

・企画の段階から中核となる学生と連絡を頻繁に行った。
・推進員へのヒアリングが事業のきっかけとなった。

○活動の成果

・研修を受講した大学生3名が推進員となり、翌年度の大学祭で「ＳＤＧｓカフェ」を開催することに繋がった。

○今後の課題・展望

・センターとして、推進員との適当な距離感をもつことが難しい（センターから情報提供をする際に単なるお仕着せにならないように注意をする必要があると感じている。）

地域センター一覧

（2020年3月現在）

センター	指定団体名	TEL（共通）	メールアドレス（共通）	郵便番号	住所
北海道	公益財団法人北海道環境財団	011-218-7811	-	060-0004	札幌市中央区北４条西４丁目１番地　伊藤･加藤ビル 4F
青森県	特定非営利活動法人　青森県環境パートナーシップセンター	017-721-2480	info@eco-aomori.jp	030−0861	青森県青森市長島2-1-5みどりやビル9F
青森市	特定非営利活動法人　青森県環境パートナーシップセンター	017-721-2480	info@eco-aomori.jp	030−0861	青森県青森市長島2-1-5みどりやビル9F
岩手県	特定非営利活動法人環境パートナーシップいわて	019-606-1752	iccca@aiina.jp	020-0045	盛岡市盛岡駅西通1-7-1　アイーナ5F
宮城県	公益財団法人　みやぎ･環境とくらし･ネットワーク(MELON)	022-301-9145	stop_gw@miyagi.jpn.org	981-0933	宮城県仙台市青葉区柏木1－2－45　フォレスト仙台5F
秋田県	認定特定非営利活動法人環境あきた県民フォーラム	018-839-8309	mail@eco-akita.org	010-1403	秋田市上北手荒巻字堺切２４－２　遊学舎内
秋田市	一般社団法人　あきた地球環境会議	018-874-8548	info_ceea@ceeakita.org	010-0921	秋田市保戸野通町7-33　2F
山形県	特定非営利活動法人　環境ネットやまがた	023-679-3340	eny@chive.ocn.ne.jp	999-2421	山形県山形市上桜田三丁目2-37
福島県	特定非営利活動法人うつくしまＮＰＯネットワーク	024-944-0083	uketsuke@fukushima-ondankaboushi.org	963-8835	福島県郡山市小原田二丁目19番19号
茨城県	一般社団法人　茨城県環境管理協会	029-248-7431	ibaonse@kankyokanri.or.jp	310-0836	茨城県水戸市元吉田町1736-20
栃木県	一般財団法人栃木県環境技術協会	028-673-9101	stochi@tochieco.jp	329-1198	栃木県宇都宮市下岡本町2145-13
群馬県	特定非営利活動法人　地球温暖化防止ぐんま県民会議	027-289-5944	info@gcccа.jp	371-0854	群馬県前橋市大渡町1-10-7　群馬県公社総合ビル6階
埼玉県	認定特定非営利活動法人環境ネットワーク埼玉	048-749-1217	info@kannet-sai.org	330-0074	埼玉県さいたま市浦和区北浦和5-6-5　埼玉県浦和合同庁舎3階
熊谷市	特定非営利活動法人熊谷の環境を考える連絡協議会	048-536-0557	info@ksccca.org	360-0114	埼玉県熊谷市江南中央１－１熊谷市江南庁舎内
川口市	認定NPO法人川口市民環境会議	048-222-0590	center@ecolife-kawaguchi.org	332-0001	埼玉県川口市朝日4-21-33　朝日環境センター･リサイクルプラザ４階
千葉県	一般財団法人千葉県環境財団	043-246-2180	ccca@ckz.jp	260-0024	千葉県千葉市中央区中央港1-11-1
東京都	公益財団法人　東京都環境公社	03-5990-5061	tccca@tokyokankyo.jp	163-0810	東京都新宿区西新宿2-4-1　新宿NSビル10階
八王子市	特定非営利活動法人　環境活動センター八王子	042-656-3103	main@coolcenter802.tokyo	192-0906	東京都八王子市北野町596-3 あったかホール2F
神奈川県	特定非営利活動法人かながわアジェンダ推進センター	045-321-7453	info@kcccа.jp	221-0835	神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町2-24-2かながわ県民センター9階
川崎市	認定特定非営利活動法人アクト川崎	044-813-1313	office@kwccca.com	213-0001	川崎市高津区溝口1-4-1ノクティ2　11F　高津市民館内
新潟県	公益財団法人　新潟県環境保全事業団	025-264-2144	eco-act@eco-niigata.or.jp	950-2144	新潟県新潟市西区曽和1182番地
山梨県	公益財団法人キープ協会	0551-48-8011	eco@keep.or.jp	407-0301	山梨県北杜市高根町清里3545
静岡県	特定非営利活動法人　アースライフネットワーク	054-271-8806	info@sccca.net	420-0851	静岡市葵区黒金町12-5　丸伸ビル2F
浜松市	(特非)静岡県新エネルギー推進機構	053-485-2021	ecohouse@hamaeco.org	432-8068	浜松市西区大平台3-21-18
富山県	公益財団法人とやま環境財団	076-431-4607	tkz8@tkz.or.jp	930-0096	富山市舟橋北町４番９号　富山県森林水産会館　２階
石川県	公益社団法人　いしかわ環境パートナーシップ県民会議	076-266-0881	info@eco-partner.net	920-8203	石川県金沢市鞍月2丁目1番地　いしかわエコハウス内
福井県	特定非営利活動法人エコプランふくい	0776-30-0092	fukui@stopondanka-fukui.jp	910-0004	福井県福井市宝永４丁目１３-４
長野県	一般社団法人 長野県環境保全協会	026-237-6625	nccca@dia.janis.or.jp	380-0835	長野市新田町1513-2（82プラザ長野）
長野市	一般社団法人　長野県環境保全協会	026-237-6681	eco-mame@dia.janis.or.jp	380-0835	長野市新田町1513-2（82プラザ長野１Ｆ）
岐阜県	一般財団法人　岐阜県公衆衛生検査センター	058-247-3105	ondan@koeiken.or.jp	500-8148	岐阜県岐阜市曙町4－6
愛知県	一般社団法人　環境創造研究センター	052-934-7295	cca-info@kankyosoken.or.jp	461-0005	愛知県名古屋市東区東桜二丁目4番1号
三重県	一般財団法人三重県環境保全事業団	059-245-7517	mcccа@mec.or.jp	510-0304	三重県津市河芸町上野3258番地
滋賀県	公益財団法人淡海環境保全財団	077-569-5301	ondanka@ohmi.or.jp	525-0066	滋賀県草津市矢橋町字帰帆2108番地
大津市	特定非営利活動法人おおつ環境フォーラム	077-526-7545	forum@eco-otsu.net	520-0047	大津市浜大津4-1-1　浜大津明日都４Ｆ
京都府	特定非営利活動法人　京都地球温暖化防止府民会議	075-803-1128	center@kcfca.or.jp	604-8417	京都市中京区西ノ京内畑町41番3
大阪府	一般財団法人　大阪府みどり公社	06-6266-1271	center@osaka-midori.jp	541-0054	大阪市中央区南本町2-1-8 創建本町ビル5階
兵庫県	公益財団法人　ひょうご環境創造協会	078-735-2738	ondankabousi@eco-hyogo.jp	654-0037	兵庫県神戸市須磨区行平町３丁目１-１８
奈良県	特定非営利活動法人 奈良ストップ温暖化の会（NASO）	0742-49-6730	otoiawase@naso.jp	631-0032	奈良市あやめ池北3丁目12-27
和歌山県	特定非営利活動法人　わかやま環境ネットワーク	073-499-4734	wenet@vaw.ne.jp	641-0014	和歌山市毛見９９６－２
鳥取県	特定非営利活動法人ＥＣＯフューチャーとっとり	0857-52-2700	center@ecoft.org	689-1111	鳥取県鳥取市若葉台北1-1-1　鳥取環境大学内　（情報処理棟2階）
島根県	公益財団法人しまね自然と環境財団	0852-67-3262	eco@nature-sanbe.jp	690-0887	島根県松江市殿町8-3　島根県市町村振興センター2F
岡山県	公益財団法人　岡山県環境保全事業団	086-224-7272	stopco2@kankyo.or.jp	700-0907	岡山県岡山市北区下石井2丁目2-10
広島県	一般財団法人広島県環境保健協会	082-293-1512	hccca@kanhokyo.or.jp	730-8631	広島県広島市中区広瀬北町9番1号
山口県	公益財団法人山口県予防保健協会	083-933-0008	yccca@yobou.or.jp	753-0814	山口県山口市吉敷下東三丁目1番1号
徳島県	特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター	088-678-6091	ecomirai.tccca@gmail.com	770-8008	徳島県徳島市西新浜町2丁目3－102
香川県	公益財団法人　香川県環境保全公社	087-831-7773	kagawa-ecc.kankyo@trad.ocn.ne.jp	760-0050	香川県高松市亀井町9番地10
愛媛県	公益社団法人　愛媛県浄化槽協会	089-925-2661	eccca@e-jyoukasou.com	790-0063	愛媛県松山市辻町2-31
高知県	特定非営利活動法人　環境の杜こうち	088-822-5554	kccca@npo-kankyonomori.com	780-0935	高知県高知市旭町3丁目115番地　こうち男女共同参画センター3F
福岡県	一般財団法人　九州環境管理協会	092-674-2360	fccca@keea.or.jp	813-0004	福岡県福岡市東区松香台1-10-1
佐賀県	特定非営利活動法人 温暖化防止ネット	0952-37-9192	info@ondanka-boushi.net	849-0932	佐賀県佐賀市鍋島町大字八戸溝1307-10
長崎県	公益財団法人ながさき地域政策研究所	095-820-4868	info@nccca.jp	850-0035	長崎市元船町２０－９
長崎市	公益財団法人　ながさき地域政策研究所	095-895-5541	info@sustaina-n.com	850-0033	長崎県長崎市万才町10-16　パーキングビル川上201
佐世保市	一般社団法人長崎環境まちづくり社中	0956-25-0055	info@ecoplaza.org	857-0864	佐世保市戸尾町5番1号
熊本県	特定非営利活動法人くまもと温暖化対策センター	096-273-9034	kuma-ontai@fuga.ocn.ne.jp	862-0912	熊本県熊本市東区錦ヶ丘31-14　別棟2F
熊本市	一般社団法人　熊本環境革新支援センター	096-329-0323	onoue@paddy.or.jp	860-0064	熊本県熊本市西区城山半田1丁目2番25号
大分県	特定非営利活動法人　大分県地球温暖化対策協会	097-574-6139	oita_ondanka@occca.sakura.ne.jp	870-0003	大分県大分市生石4丁目1-20　大鉱ビル
宮崎県	NPO法人ひむかおひさまネットワーク	0985-89-2389	himuka-ohisama-net@soleil.ocn.ne.jp	880-0014	宮崎県宮崎市鶴島二丁目9-6 みやざきNPOハウス303号室
鹿児島県	一般財団法人　鹿児島県環境技術協会	099-284-6013	co2@kagoshima-env.or.jp	891-0132	鹿児島県鹿児島市七ツ島一丁目1番地5
沖縄県	一般財団法人沖縄県公衆衛生協会	098-945-2686	info@koeikyo.com	901-1202	沖縄県南城市大里字大里2013

発　　行：2020年3月
問い合わせ先：全国地球温暖化防止活動推進センター（一般社団法人地球温暖化防止全国ネット）
〒101-0054　東京都千代田区神田錦町1-12-3 第一アマイビル4F
TEL：03-6273-7785／FAX：03-5280-8100
http://www.jccca.org/

JCCCA

Japan Center for Climate Change Actions